

倉 持 遺 跡

— 第 2 年 次 調 査 —

1984. 3

明野町教育委員会

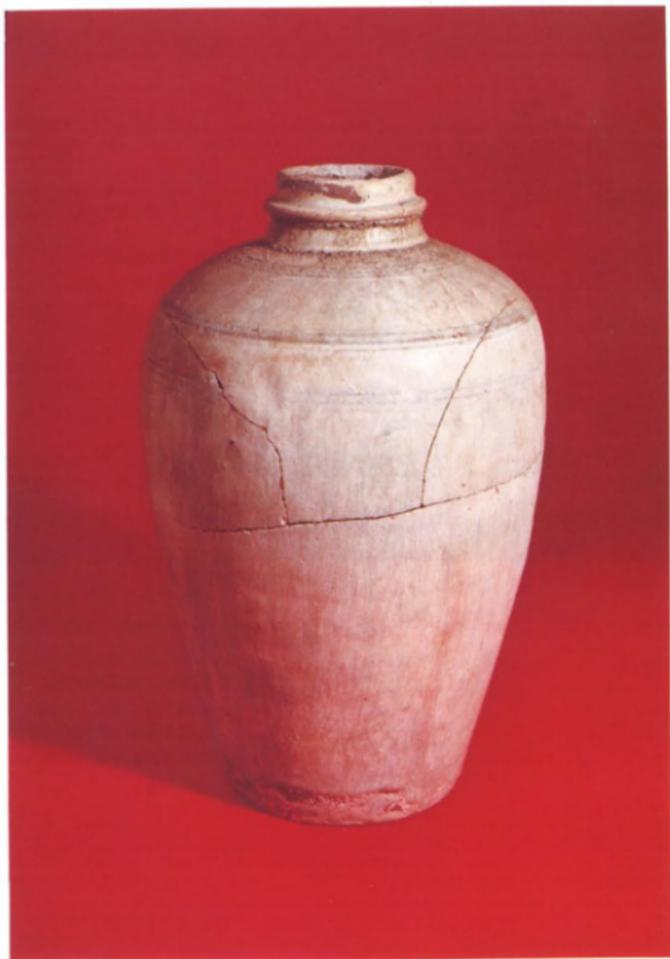
倉くら 持もち 遺 跡

— 第 2 年 次 調 査 —



発掘された古代人の生活の跡
(倉持遺跡の発掘調査から)

大地に刻まれた古代の遺跡は、物言わぬ歴史の語り部であり、大地に眠る者から現代人に届けられた未来への伝言である。



瓶子

発刊のことば

私たちのふるさと明野町は、桜川と小貝川に挟まれた広大な台地と河岸低地からなり、しかも豊かな自然に恵まれて、古くから先人たちの生活の舞台となっておりま

した。文化財は、私たちの郷土の歴史や文化を正しく理解するために、重要な役割を果たすものでありますから後世のために大切に永く保存していく義務があります。

再度、町の事業として第2年次の倉持遺跡の発掘調査を実施し、ここに多くの成果を得られましたことは、明野町の原始、古代がさらに究明され、歴史の一端が明らかになったことと確信しております。さらにこうした成果が生きた教材として広く活用されることを願うとともに、町民の文化財に対する認識を深めることにもなるものと念じております。なお、当遺跡の調査は今後その全貌を明らかにする所存でありますので、関係各位の御協力と御指導をお願い申し上げます。

今回の調査に際しましては、たくさんの方々の御協力御理解をいただき、ここに改めて厚く御礼申し上げます。発刊のあいさつといたします。

昭和59年3月31日

明野町長 加倉井正利

例 言

1. 本報告書は、明野町教育委員会が昭和57年10月28日から昭和58年3月1日にかけて実施した倉持遺跡（茨城県真壁郡明野町大字倉持）の第2年次発掘調査の報告書である。
2. 調査は今後継続的に実施し、年度ごとに報告するものとし、遺跡全体の調査が終了した後総合して研究編を刊行する予定である。
3. 調査は町単費で実施され、事務局を明野町教育委員会社会教育課（課長山口晴道）において。調査担当者は田口崇（明野町社会教育指導員）で、領域研究会、地元倉持の方々の協力を得た。
4. 本書の編集は田口崇が担当し、出土品の整理にあたっては下記の方々の協力を得た。
（土器の拓本） 阿久津久、瓦吹堅、鶴見貞雄、山野井哲雄、岩松和光、安田厚子、斎藤信明、小环弘子、真壁高校郷土史クラブ
（土器の実測・分類） 瓦吹堅、山野井哲雄、岩松和光、鶴見貞雄、水柿順子、市毛美津子
（石器の実測） 三浦茂三郎、飯島克己、市毛美津子、田口崇
（図版作成・写真撮影・原稿執筆） 田口崇、島田則夫
5. 出土した遺物はすべて明野町教育委員会に保管してある。
6. 調査期間中は下記の方々の御協力、御指導をいただき、ここに改めまして感謝の意を表する次第である。（敬称略、順不同）
阿久津久、高崎光司、原田昌幸、本田勉、鶴見貞雄、安田厚子、山野井哲雄、水柿順子、飯島庄一、山口徳次郎、皆川孫四郎、松本毅一、山口民三郎、真壁高校郷土史クラブ

（作業員）
皆川孫四郎、武井良平、瀬尾多喜三、大木栄子、外山やす子、飯島允、皆川隆子、広瀬カネ、酒寄平

（事務局）明野町教育委員会社会教育課
山口晴道、古宇田久、飯村英子、尾見有史、島田公夫、鈴木毅

目 次

発刊のことば	明野町長 加倉井正利	1
例言		ii
第1章 遺跡の位置と環境		1
第1節 遺跡の位置と地理的環境		1
第2節 遺跡周辺の歴史的環境		1
第2章 発掘調査に至る経緯		5
第1節 第2年次発掘調査に至る経緯		5
第2節 第2年次調査の方法		5
第3節 第1年次調査の概要		6
第4節 第2年次調査の概要		6
第3章 検出された遺構		8
第1節 第1トレンチ		8
第2節 第2トレンチ		9
第3節 堆積土層		10
第4節 縄文時代の遺構		10
第5節 弥生時代の遺構		25
第6節 古墳時代の遺構		25
第7節 歴史時代の遺構		29
第4章 出土遺物		89
第1節 旧石器時代の遺物		89
第2節 縄文時代の遺物		89
第3節 弥生・古墳時代の遺物		92
第4節 歴史時代の遺物		92
第5章 総括		101

挿図目次

第1図	明野町の遺跡……………	2	第45図	出土遺物 (18) 縄文土器拓影…	53
第2図	遺跡現況図……………	4	第46図	出土遺物 (19) 縄文土器拓影…	54
第3図	第1次・第2次調査区……………	5	第47図	出土遺物 (20) 縄文土器拓影…	55
第4図	第1年次調査遺構全区……………	7	第48図	出土遺物 (21) 縄文土器拓影…	56
第5図	遺跡全体図……………	8	第49図	出土遺物 (22) 縄文土器拓影…	57
第6図	遺構図……………	11	第50図	出土遺物 (23) 縄文土器拓影…	58
第7図	土層断面図……………	11	第51図	出土遺物 (24) 縄文土器拓影…	59
第8図	第1・2トレンチ遺構区……………	12	第52図	出土遺物 (25) 縄文土器拓影…	60
第9図	第1トレンチ出土遺物……………	13	第53図	出土遺物 (26) 縄文土器拓影…	61
第10図	第2トレンチ出土遺物……………	14	第54図	出土遺物 (27) 縄文土器拓影…	62
第11図	縄文時代の遺構……………	15	第55図	出土遺物 (28) 縄文土器拓影…	63
第12図	遺構図1 一住居跡……………	16	第56図	出土遺物 (29) 縄文土器拓影…	64
第13図	遺構図2 一住居跡・小竪穴……………	17	第57図	出土遺物 (30) 縄文土器拓影…	65
第14図	遺構図3 一住居跡・小竪穴……………	19	第58図	出土遺物 (31) 縄文土器拓影…	66
第15図	遺構図4 一袋状土壌……………	20	第59図	出土遺物 (32) 縄文土器拓影…	67
第16図	遺構図5 一埋壘・ピット・ 集石遺構……………	21	第60図	出土遺物 (33) 縄文土器拓影…	68
第17図	遺構図6 一土壌・ピット……………	23	第61図	出土遺物 (34) 縄文土器拓影…	69
第18図	遺構図7 一土壌・ピット……………	24	第62図	出土遺物 (35) 縄文土器拓影…	70
第19図	弥生時代・古墳時代の遺構……………	25	第63図	出土遺物 (36) 縄文土器拓影…	71
第20図	遺構図8 一弥生時代の住居跡……………	26	第64図	出土遺物 (37) 縄文土器拓影…	72
第21図	遺構図9 一3号方形周溝墓……………	27	第65図	出土遺物 (38) 縄文土器拓影…	73
第22図	歴史時代の遺構……………	28	第66図	出土遺物 (39) 縄文土器拓影…	74
第23図	遺構図10 一溝跡・築地状遺構……………	31	第67図	出土遺物 (40) 縄文土器拓影…	75
第24図	遺構図11 一土壌・ピット……………	32	第68図	出土遺物 (41) 縄文土器拓影…	76
第25図	遺構図12 一土壌・ピット……………	33	第69図	出土遺物 (42) 縄文土器拓影…	77
第26図	遺構図13 一土壌・ピット……………	34	第70図	出土遺物 (43) 縄文土器拓影…	78
第27図	畝状遺構……………	35	第71図	出土遺物 (44) 縄文土器拓影…	79
第28図	出土遺物 (1) 縄文土器拓影…	36	第72図	出土遺物 (45) 縄文土器拓影…	80
第29図	出土遺物 (2) 縄文土器拓影…	37	第73図	出土遺物 (46) 縄文土器拓影…	81
第30図	出土遺物 (3) 縄文土器拓影…	38	第74図	出土遺物 (47) 縄文土器拓影…	82
第31図	出土遺物 (4) 縄文土器拓影…	39	第75図	出土遺物 (48) 縄文土器拓影…	83
第32図	出土遺物 (5) 縄文土器拓影…	40	第76図	出土遺物 (49) 縄文土器拓影…	84
第33図	出土遺物 (6) 縄文土器拓影…	41	第77図	出土遺物 (50) 縄文土器拓影…	85
第34図	出土遺物 (7) 縄文土器拓影…	42	第78図	出土遺物 (51) 縄文土器拓影…	86
第35図	出土遺物 (8) 縄文土器拓影…	43	第79図	出土遺物 (52) 縄文土器拓影…	87
第36図	出土遺物 (9) 縄文土器拓影…	44	第80図	出土遺物 (53) 土製品……………	88
第37図	出土遺物 (10) 縄文土器拓影…	45	第81図	出土遺物 (54) 弥生土器……………	89
第38図	出土遺物 (11) 縄文土器拓影…	46	第82図	出土遺物 (55) 灯明皿・杯形 土器……………	90
第39図	出土遺物 (12) 縄文土器拓影…	47	第83図	出土遺物 (56) 内耳・習り鉢…	91
第40図	出土遺物 (13) 縄文土器拓影…	48	第84図	出土遺物 (57) 石器実測図1)…	92
第41図	出土遺物 (14) 縄文土器拓影…	49	第85図	出土遺物 (58) 石器実測図2)…	93
第42図	出土遺物 (15) 縄文土器拓影…	50	第86図	出土遺物 (59) 石器実測図3)…	94
第43図	出土遺物 (16) 縄文土器拓影…	51	第87図	出土遺物 (60) 石器・骨角器…	95
第44図	出土遺物 (17) 縄文土器拓影…	52	実測図4)…	95	
			第88図	出土遺物 (61) 石器実測図5)…	96
			第89図	出土遺物 (62) 石器実測図6)…	97

第90図	出土遺物 (63) 石器実測図7)~98
第91図	出土遺物 (64) 石器・石製品 実測図8)~99
第92図	出土遺物 (65) 石器・石製品 実測図9)~100

図版目次

図版 1	上一遺跡近景 (西側より)115 下一遺跡全景 (南側より)115
図版 2	上一第 1 トレンチ (南側より)116 下一遺跡西側一溝跡 (南側より)116
図版 3	上一路状遺構 (南側より)117 下一築地状遺構と周辺の 遺物出土状況117
図版 4	上一遺跡西側の遺構検出状況 (南側より)118 下一遺跡中央部の遺構検出状況 (南側より)118
図版 5	上一遺跡北西一路状遺構と溝跡 (西側より)119 下一遺跡北側の遺構検出状況— 住居跡と土壌 (西側より)119
図版 6	上一遺跡東南側の遺構検出状況 (東側より)120 下一遺跡西側の遺構検出状況 (西側より)120
図版 7	上一方形周溝墓と周辺の遺構 (南側より)121 下一 1 号方形周溝墓の北西隅 (南側より)121
図版 8	上一第 1 トレンチ南側部分 (東側より)122 中一第 1 トレンチ—小竪穴 1 (東側より)122 下一第 1 トレンチ—柱穴群 (東側より)122
図版 9	上一第 1 トレンチ(南側より)123 中一第 1 トレンチ—土壌群 (北側より)123 下一第 1 トレンチ—土壌内遺物 出土状況 (西側より)123
図版 10	上一第 2 トレンチ (南側より)124

中一第 2 トレンチ—土壌 (北側より)124 下一第 2 トレンチ—遺物出土状 況 (北側より)124	図版 11	上一遺跡西側—遺構プラン確認 状況 (南側より)125 中一遺跡中央部—畝状遺構確認 状況 (東側より)125 下一遺跡中央部—遺構検出状況 (南側より)125	
図版 12	上一円形土壌 (7 G15P 4) の 堆積土層 (南側より)126 中一円形土壌 (7 G15P 2) の 堆積土層 (東側より)126 下一円形土壌 (7 G10P 2) の 堆積土層 (京側より)126	図版 13	上一遺跡北側の遺構検出状況 (西側より)127 中一遺跡北側の遺構—住居跡と 土壌 (東側より)127 下一遺構南側の遺構検出状況 (西側より)127
図版 14	上一遺跡北側の土壌検出状況 (東側より)128 中一遺跡東側の遺構検出状況 (南側より)128 下一遺跡東側の遺構検出状況 (東側より)128	図版 15	上一路状遺構と小竪穴 5 (7 F24)(東側より)129 中一 3 号方形周溝墓と円形土壌 6 (7 F24)129 下一 1 号方形周溝墓の底面に検 出された小竪穴 10 (8 F11) (北側より)129
図版 16	上一袋状土壌 7 (7 F15) の堆 積土層 (東側より)130 中一袋状土壌 7 の土器出土状況 (南側より)130 下一袋状土壌 7 の土器出土状況 (西側より)130	図版 17	上一袋状土壌 1 (7 F14) (東側より)131 中一袋状土壌 4 (7 G4・9) (南側より)131 下一袋状土壌 7 (7 F15) (西側より)131

図版18	上一塚壘3と周辺の遺物出土状況(南側より)……………132
	中一塚壘3と周辺の遺物出土状況(南側より)……………132
	下一塚壘3の近景(南側より)……………132
図版19	上一2号方形周溝墓と住居跡2(7F18)(北側より)……………133
	中一2号方形周溝墓南西隅部分の遺物出土状況(東側より)……………133
	下一石棒(兼凹石)の出土状況(北側より)……………133
図版20	上一袋状土壇5(7G9)の遺物出土状況……………134
	中一遺物(凹石・縄文土器)出土状況(8F13)……………134
	下一集石遺構(8F7)……………134
図版21	上一弥生時代の住居跡2(8F17・18)(西側より)……………135
	中一弥生時代の住居跡(南側より)……………135
	下一弥生時代の住居跡(床面の弥生土器)……………135
図版22	上一3号方形周溝墓西側(南側より)……………136
	中一3号方形周溝墓南側(東側より)……………136
	下一3号方形周溝墓東側溝北壁の断面(南側より)……………136
図版23	上一路状遺構と土壇9(7G4)(東側より)……………137
	中一路状遺構と溝跡(西側より)……………137
	下一路状遺構と溝跡遺物出土状況(南側より)……………137
図版24	上一溝跡と土壇群(7G10)(西側より)……………138
	中一溝跡と土壇群(西側より)……………138
	下一溝跡と周辺の遺構(東側より)……………138
図版25	上一土器焼成遺構(8F12)の粘土堆積状況(北側より)……………139
	中一土器焼成遺構の遺物出土状況と堆積上層(東側より)……………139
	下一土器焼成遺構の遺物出土状況(南側より)……………139

図版26	上一瓶子出土状況(8F12—東側より)……………140
	中一瓶子出土状況(8F12—西側より)……………140
	下一遺物出土状況(8F13—北側より)……………140
図版27	上一発掘作業風景(西側より)……………141
	中一遺跡見学会……………141
	下一遺跡見学会……………141
図版28	出土遺物1 縄文土器……………142
図版29	出土遺物2 縄文土器・土製品……………143
図版30	出土遺物3 旧石器……………144
図版31	出土遺物4 石製品・剥片……………145
図版32	出土遺物5 石鏃……………146
図版33	出土遺物6 磨製石斧・打製石斧……………147
図版34	出土遺物7 礫器・叩き石……………148
図版35	出土遺物8 石製品・骨角器……………149
図版36	出土遺物9 石棒・凹石・石皿……………150
図版37	出土遺物10 弥生土器・灯明皿・杯形土器……………151
図版38	出土遺物11 瓶子……………152
図版39	出土遺物12 内耳・碗・砥石・石臼……………153

表目次

表1	明野町の遺跡……………3
表2	検出された遺構(縄文時代)……………18
表3	検出された遺構(縄文時代)……………19
表4	検出された遺構(縄文時代)……………22
表5	検出された遺構(歴史時代)……………29
表6	検出された遺構(歴史時代)……………30
表7	出土遺物…縄文土器……………102
表8	出土遺物…縄文土器……………103
表9	出土遺物…縄文土器……………104
表10	出土遺物…縄文土器……………105
表11	出土遺物…縄文土器……………106
表12	出土遺物…縄文土器……………107
表13	出土遺物…弥生土器・内耳 灯明皿・土製品……………108
表14	出土遺物…石器……………110
表15	出土遺物…石器……………110
表16	出土遺物…石器……………111

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

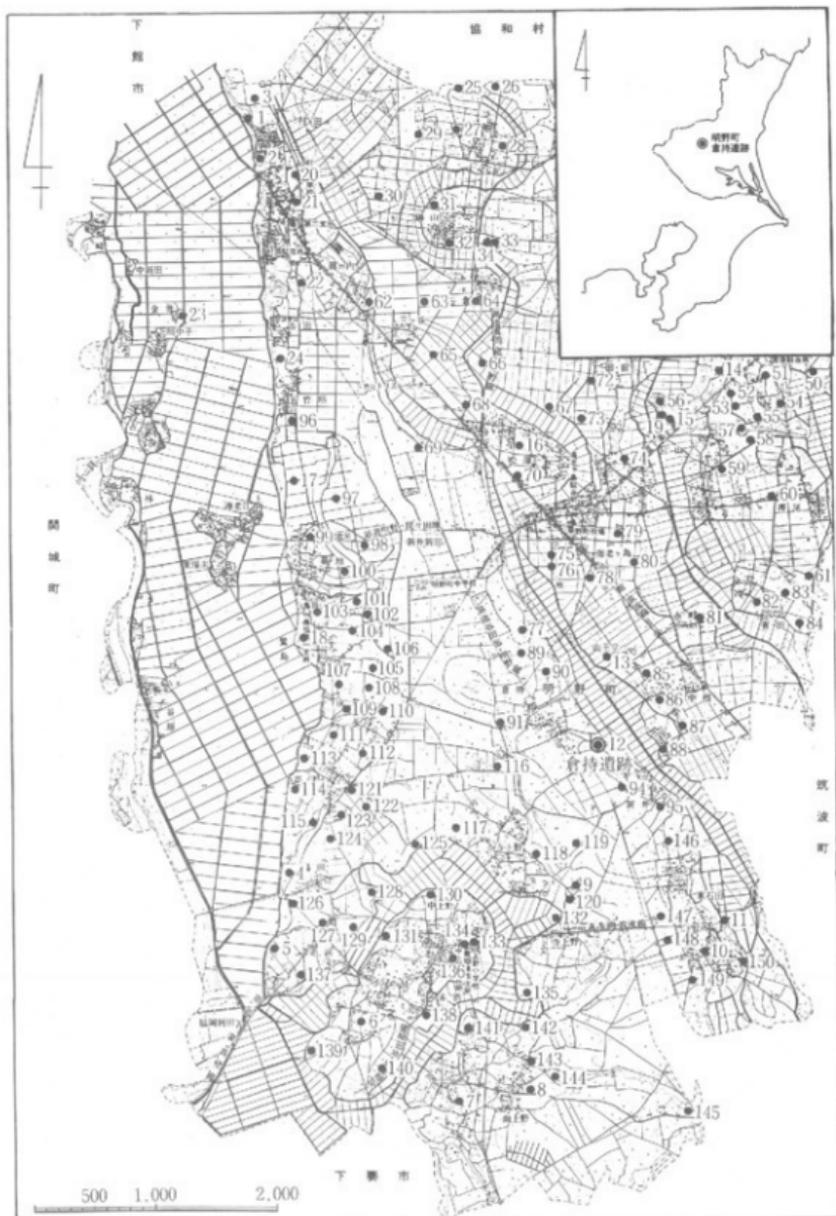
倉持遺跡は茨城県真壁郡明野町大字倉持に位置する。東は霞ヶ浦に南流する桜川と、西は利根川に流れ込む小貝川、旧小貝川が造り出した河岸段丘と台地からなる地形で形成されており、遺跡はこの台地の縁辺部に立地している。東側には霊峰筑波山（標高687 m）を眼前に控え、眼下には水田が北西部から南東部にかけて細長く展開している。水田面との比高差は約10mで、遺跡の中央部には、東側の台地下の水田地帯から小支谷が入り込んでおり、倉持遺跡はこの谷を取り囲むように形成されている。

遺跡の標高は35m、東側に向かって緩やかに傾斜しており、台地のすぐ下には薬師池とよばれる池が存在している。なお、遺跡周辺にはこうした水源がいくつか確認されている。遺跡は現在畑地となっており、土器や石器等遺物の散布する範囲は台地沿に約450 m、台地の奥部へ約150 m程であり、遺跡の規模もこの範囲でとらえられるであろう。

河川（旧河川も含めて）が形成した河岸段丘と広大な台地は、筑波山を仰ぎつつ傘下の真壁地方に大きく大自然のパノラマを展開しており、1万年以上も前から古代人の生活する舞台となっていたことを想像させる。倉持遺跡もこうした真壁地方の遺跡の1つとして存在している。

第2節 遺跡の周辺の歴史的環境

倉持遺跡は水田地帯に面した台地の縁辺部に位置しているが、同様に水田地帯を挟んで東側の低段丘や西側の台地縁辺部にも遺跡が広がっている。倉持遺跡のすぐ北側の小支谷をはさんで宮前遺跡（表1-92）、その北には宮北遺跡（表1-90）がある。南側には古墳時代から平安時代にかけての富士山遺跡（表1-94）や倉持前畑遺跡が存在している。水田を挟んで対岸の微高地（標高24m、水田面との比高差は1～2 m程である）は南北に細長くのびる沖積地で、西側の大村排水路に沿って遺跡が展開している。倉持遺跡の調度真北の方向には、縄文時代中期から晩期、さらには古墳時代、歴史時代の遺物がみられる複合遺跡の山王堂遺跡（表1-13）がある。ここは山王堂合戦の古戦場であるが、縄文時代晩期の好資料が多くみられる。山王堂遺跡の南側には宮先遺跡（表1-85）、狭間遺跡（表1-86）、台遺跡（表1-87）など縄文時代から弥生、古墳時代さらには奈良、平安時代、中世に至るまでの遺跡が低段丘上に存在している。このことは旧河川によって形成された微高地がかなり早い時期に拓かれていたことを示している。倉持遺跡の北側には雲井神社と呼ばれる郷社があり、以前は、流籠馬も行なわれたと聞く。そして南側には東石田に平国香の館跡、墓地在明確ではないが存在していること等を考え合わせると、中世この地が歴史の舞台となり、動乱の中にあつたことが想像される。



第1図 明野町の道跡

表1 明野町の遺跡(明野町資料第七集「明野町の遺跡と遺物」から……部欠番)

No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考
1	台畑古墳	前方後円墳	34	八坂神社古墳	円墳	82	有田西遺跡	古墳~平安	115	新堀遺跡	中世
2	灯火山古墳	前方後円墳	50	駒込古墳群	円墳2基	83	有田北遺跡	古墳~中世	116	池ノ台遺跡	中世
3	えんなみ台古墳	縄文~平安	51	陣場遺跡	古墳~平安	84	有田東遺跡	縄文~平安	117	清水頭遺跡	古墳~中世
4	鶴田石葉山古墳	縄文~古墳	52	大場場遺跡	縄文~平安	85	宮先遺跡	縄文~平安	118	狐ヶ谷遺跡	古墳~中世
5	六丁郎遺跡	縄文~中世	53	路西遺跡	古墳~中世	86	狭間遺跡	縄文~中世	119	山ノ入遺跡	中世
6	東飯山承和寺跡	平安時代	54	向台遺跡	古墳~中世	87	台遺跡	古墳~中世	120	郡山遺跡	中世
7	北峰遺跡	縄文~平安	55	福西南遺跡	古墳~中世	88	堂前遺跡	中世	121	鳥ノ子島遺跡	中世
8	清ノ上遺跡	縄文~中世	56	宮山石倉遺跡	(不明)	89	倉持北原遺跡	古墳~平安	122	下山遺跡	中世
9	池ノ上(餘山)遺跡	縄文~平安	57	山合遺跡	中世	90	宮北遺跡	縄文~中世	123	中島山遺跡	中世
10	東石田古墳群	円墳古基	58	欠尻跡	古墳~平安	91	水落遺跡	縄文~中世	124	鶴田東遺跡	奈良~平安
11	堂ノ下遺跡	弥生~中世	59	坪内遺跡	古墳~中世	92	宮前遺跡	弥生~中世	125	台山ノ下遺跡	古墳~中世
12	倉持中妻遺跡	縄文~中世	60	押尾古屋敷遺跡	古墳~中世	93	巨久保遺跡	縄文~古墳	126	一丁田西遺跡	縄文~古墳
13	山王堂遺跡	縄文~中世	61	下宮遺跡	古墳~中世	94	富士山遺跡	縄文~中世	127	一丁田東遺跡	奈良~中世
14	宮山古墳群	円墳5基	62	掘荷前遺跡	古墳~中世	95	倉持前原(新井)遺跡	古墳~平安	128	西田向遺跡	中世
15	宮山遺跡	縄文~中世	63	石倉西遺跡	古墳~平安	96	竹垣前遺跡	縄文~平安	129	南久保遺跡	縄文~平安
16	海老ヶ島城跡	室町時代	64	石倉東遺跡	古墳~平安	97	上口地前跡	古墳~中世	130	北ノ内遺跡	奈良~中世
17	塚塚遺跡	縄文~中世	65	中根遺跡	古墳~平安	98	金塚遺跡	古墳~中世	131	五軒遺跡	縄文~平安
18	鷺島遺跡	弥生~中世	66	炭焼戸西遺跡	中世	99	東湯遺跡	古墳~中世	132	山ノ下遺跡	古墳~中世
19	火山観音古墳	前方後円墳	67	炭焼戸東遺跡	中世	100	中坪遺跡	縄文~中世	133	院前東遺跡	古墳~中世
20	三所宮北遺跡	古墳時代	68	新原遺跡	古墳時代	101	丹塚遺跡	奈良~平安	134	飯屋前西遺跡	古墳~平安
21	三所宮南遺跡	古墳~中世	69	台山遺跡	縄文~平安	102	稲荷窪遺跡	古墳~平安	135	清ノ上遺跡	古墳~平安
22	村東遺跡	古墳~中世	70	城ノ内遺跡	古墳~平安	103	北門遺跡	古墳~中世	136	我仁内前遺跡	縄文~中世
23	吉田金井遺跡	古墳~平安	71	田宮炭焼戸遺跡	中世	104	高ヶ山遺跡	中世	137	谷原遺跡	古墳~中世
24	吉田新田前遺跡	古墳~平安	72	菰冠北遺跡	古墳~中世	105	一ノ塚遺跡	中世	138	節子台遺跡	古墳~中世
25	境ノ町遺跡	古墳~平安	73	菰冠南遺跡	古墳~中世	106	成井北原遺跡	古墳~平安	139	光速遺跡	縄文~古墳
26	塔ノ内遺跡	縄文~古墳	74	戸張遺跡	古墳~中世	107	成井古屋敷遺跡	縄文~中世	140	避内遺跡	古墳~中世
27	内流西遺跡	古墳~中世	75	岡山遺跡	縄文~中世	108	中島遺跡	縄文~中世	141	藤合遺跡	古墳~平安
28	北湯遺跡	古墳~中世	76	稲荷塚古墳	方墳	109	向山遺跡	縄文~中世	142	作合遺跡	縄文~中世
29	北明遺跡	古墳時代	77	久保山遺跡	縄文~中世	110	十三塚遺跡	縄文~中世	143	香取遺跡	縄文~中世
30	西明遺跡	古墳~平安	78	久保新田遺跡	中世	111	林跡東遺跡	縄文~中世	144	行日畑遺跡	縄文~古墳
31	隈敷付西遺跡	古墳時代	79	海老ヶ島東原遺跡	古墳~中世	112	林跡西遺跡	中世	145	上白畑遺跡	古墳~中世
32	笠敷付南遺跡	中世	80	鈴野遺跡	縄文~中世	113	押塚遺跡	縄文~中世	146	宮台遺跡	古墳~中世
33	鶴山東原遺跡	縄文~中世	81	赤町遺跡	古墳~中世	114	大地遺跡	縄文~中世	147	西原北遺跡	縄文~中世



第2章 発掘調査に至る経緯

第1節 第2年次発掘調査に至る経緯

明野町が昭和55年から同57年にかけて行った遺跡の分布調査では、埋蔵文化財の包蔵地、所謂遺跡が151ヶ所確認されている。こうした多くの遺跡が町内各所に分布しているにもかかわらず、郷土の歴史を知る上に重要な埋蔵文化財として、正しく理解し、活用する機会にあまり恵まれていなかった。そのため、地域住民の文化活動に対する認識も消極的であった。一方



第3図 第1次・第2次調査区

では地域開発における自然環境の破壊が進み、変わりゆく社会構造の中で先人達から受け継いできた尊い文化遺産に対して、ともすれば自分達のあるべき姿、心を忘れがちであった。

こうした現状をふまえて、文化活動の開発を推進することがこれからの課題であるとして、文化財に対する町民の意識を高揚させていくために、町の文化財保護体制を整備する計画をもち、文化財保護審議会の答申に基づいて長期的な展望に立った具体的な調査計画が作成された。

以後、一連の協議の中で埋蔵文化財を開発から保護し、活用していくためには町民の埋蔵文化財に対する理解と協力が必要であるとして、昭和56年4月、社会教育活動の一環として、遺跡の継続的な学術調査を実施するために発掘調査の年次計画と予算が計上され、遺跡調査会が設置された。そして、昭和56年7月には初めて倉持遺跡の予備調査が実施されたのである。

予備調査の結果をもとに、さらに協議、検討が加えられ遺跡調査会では倉持遺跡の全容を究明するために総合的、体系的な調査が必要であるとして、以後、継続的な学術調査を実施していくことを決議した。こうして昭和56年8月、倉持遺跡の第1年次発掘調査は開始されたのである。2ヶ月間の調査は様々の成果をあげて終了、検出された遺構も現状のまま再び土中に保存されたのである。第1年次の調査で検出された遺構や出土した遺物については、その後整理され、昭和58年3月に報告書にその成果をまとめている。そして、第1年次の調査を基にした倉持遺跡の今後の調査方針が決定され、昭和57年11月、第2年次の調査が開始されたのである。

第2節 第2年次調査の方法

第2年次の発掘調査は、第1年次発掘調査区に隣接した西側地区について実施された。第1年次の調査で設定した基準軸を基に基本軸を南北にして、調査区に20m×20mの方眼をかけた。方眼は南北軸に北から0、1、2……6、7、8と算用数字を使い、東西軸に西側からA、B

C, …F, G とつけた。20m の各方眼を大グリッドとして、さらにこれを 4m × 4m の小方眼に区分し、西から縦（南北）にそれぞれ 1, 2, 3, 4, 5, 6 ~ 10, 11 ~ 15 と 25 までの番号をつけ、各方眼を 7F 25, 8G 1 のように小グリッドに分けて呼び、遺構、遺物もグリッド別に記録していった。調査区の南側（倉持字中妻 681 番地）部分については、東端と西端に 1.5m × 17m, 1.5m × 16m の南北トレンチを入れた。また北側（同 685 番地）部分については、表土を削いで遺構の確認のみ実施した。調査面積は全体で約 2400m² で、地形測量は一年次ごとに行ない、耕作の支障がない部分について調査を実施することにした。

調査は表土剥ぎから行ない、遺構のプランを層位ごとに上面から確認して、100 分の 1 の全体図を作成した。確認された遺構は各グリッドごとに遺構番号をつけ、遺物を取り上げた。検出された全体の遺構はヤリ方を組んで縮尺 20 分の 1 で平面実測をした。なお、時代的に重複する遺構に関しては上層の調査が済み次第、下層まで観察を行なった。調査区は調査終了後、埋め戻し、ロータリーをかけて耕作できる状態にして全ての作業を終了した。

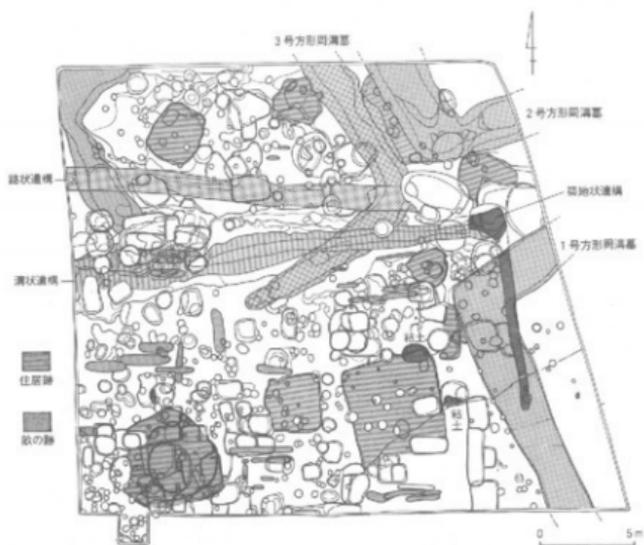
第 3 節 第 1 年次調査の概要

昭和 56 年 8 月から 2 ヶ月間にわたって実施された第 1 年次の調査は、面積約 820 m² 縄文時代中期後半から後期前半にかけての土城 39 基、埋藏 2 基、焼土ピット 3 基、弥生時代後期の住居跡 1 軒、古墳時代前期の方形周溝墓 2 基、古墳（円墳）1 基、中世の溝 2 条が確認されている。縄文時代の土壌は調査区の北側に集中する傾向があり、墓址的な性格をもっている。また弥生時代の住居跡は古墳（封土を削平された円墳）の周堀の内側ほぼ中央部に検出されている。

遺物は平箱で 60 箱以上（約 2 万点）出しており、縄文時代から中世までの長期にわたっている。縄文時代は中期の阿玉台式、加曾利 E I ~ E IV 式、後期の称名寺式、堀之内式が主で他に草創期初頭の燃糸文系土器群の井草式土器や晩期前半と思われるものがみられる。石器については打製石斧、磨製石斧、石鏃、石皿等が出土している。弥生土器は多くなく、破片が数 10 点みられるだけである。古墳時代のものとしては、方形周溝墓の溝内から底部穿孔壺形土器、器台形土器が出土し、古墳の周堀からは埴形土器や鉄製刀子が出土している。他に谷部の III 層上面から須恵器（「院」と読める墨書土器）や内耳片が出土している。

第 4 節 第 2 年次調査の概要

第 1 年次に引き続いて実施された第 2 年次発掘調査ではさらに多くの土壌及び住居跡が検出され、集落が丘陵の縁辺部から内陸部に向かって展開していることを予想させる。また、これまで明野町では明確にされてなかった歴史時代の遺構や、旧石器時代のナイフ形石器や尖頭器などもみつき、今後の研究調査に新たな資料と課題を提示した。



第3章 検出された遺構

第1節 第1トレンチ

調査区の南側に設定した第1トレンチは幅1.5mで長さ17.5mの範囲から、土壌、小竅穴、溝柱穴と思われるピット群が検出されている。堆積している土層は上から暗褐色の耕作土（第Ⅰ層）、次に比較的しまっている暗褐色土（第Ⅱ層）、第Ⅲ層が比較的細い粒子の黒褐色土層で第Ⅳ層がやや黄色味を帯びた茶褐色土層である。これ等の土層は攪乱もみられず、自然に堆積したものと思われる。上面から90cm程で地山の粘土層にあたり、土壌や柱穴の一部は第Ⅳ層から掘り込んで、粘土層まで達している。また、地形をみると南側から北側に緩く傾斜しており、北側からもやや傾斜しているところから、浅い窪みのような地形であると考えられる。南側のピット群はこの窪みの調度外周に位置している様な状態であり、この窪みの周りに巡らされたものかも知れない。P1は深さ55cm、P2は65cm、P6は46cmを測る。窪みの中央部には溝状の落差みがあり、さらにその下層には土壌が検出されている。土壌の南北幅（東西幅は不明）は60cmで、内耳の破片と河原石が底面よりはやや浮いた様な状態で出土している。その周辺には土壌（ピットを含む）が集中している。P4とP3は第Ⅳ層から掘り込んでいる土壌であるが、外周に粘土の高まりがみられる。P4では径約15cm程の柱痕が残っており、粘土層まで掘り込んでいる。

なお、トレンチの南端部には小竪穴がみられる。形状は部分的にしか検出されていないので不明確ではあるが、不整形で南北幅は1.7m（東西幅は不明）、壁の立ち上がりは南側、東側がやや急であるが、北側は緩く傾斜している。掘り込みの深さは南側で25cmを測る。床面は比較的にまっ平であり、ピットが北側に1個（径20cm、深さが床面まで47cm）、東側に2個（径15cm、深さが床面まで26cm）検出されている。出土した遺物は縄文時代後期のものが主で（第9図）型的には堀之内式に比定されるものであろう。

第2節 第2トレンチ

第1トレンチと同様に調査区の南側（東端）に幅1.5m、長さ16mの規模で設定した第2トレンチ内で確認された遺構は溝、土壌、ピット（小穴）で、北側には遺跡の東側から入り込む谷地形の一部が検出されている。幅は1.8m程で深さが表土から1.2m、これが南端部であるから第1年次の調査で確認されている谷はかなり深く入り込んでいたものと考えられる。そして調査区で検出された南東部の遺構は縄文時代以降中世に至るまで、この谷が埋没して土が堆積した後には構築されたものであることがわかったのである。

谷の落ち込みの上面は比較的平らな部分（標高33.6m）が6m程続き溝状の落ち込みにはいる。溝の幅は3m、深さ65cm（最深部）で南側、北側とも立ち上がりは緩くなっている。溝の南側にやや緩やかに傾斜するテラス面が形成されているが、地山の粘土層が露出している。粘土面が表われるのは表土から60cm（標高34.13m）程の所で、溝状の遺構やテラス面は粘土層を掘り込んで構築されている。テラス面から40cm程立ち上がった南側には幅70～80cm、深20cmの溝が東西に走っている。溝の立ち上がりは北側が緩く、南側がやや急になっており、底面も緩く蛇行して西側から東側へ緩い傾斜になる。溝に堆積している土層は暗褐色土でややロームブロックが多く混入しているが、基本的にはテラス面の上面に堆積している層とほぼ同じである。

トレンチの北側には不整形の土壌やピット（小穴）が検出されている他、長方形の土壌（幅80～90cm、長さ2.2m、深さは35cm、主軸方向を南北にもつ）や、南西方向から北東方向へ走る小溝（幅30～40cm、深さ6～10cmの浅い溝）が検出されているが、これらのほとんどが地山の粘土層まで掘り込んでいる。主な出土遺物としては、土壌1や土壌5で内耳片、土壌3で磁石がやや浮いた状態でみついている。他には遺構が埋没する段階に周囲から流れ込んだか、あるいは縄文時代の遺構を破壊したのか、かなりの量の縄文土器及び石器が出土している。時期は中期から後期にかけてのものであるが（第10図）、南側に集中していることや浮いた状態で検出されたことを考えると、ある時期にまとめて廃棄されたものかも知れない。

第2トレンチの中央部に検出された溝は第1トレンチに続くものであろうと思われるが、北側の小溝は第1年次の調査で検出された溝の類であろう。さらに溝の上段のテラス面やその上の溝等は、谷が埋没した後に構築されたもので相当規模の施設と考えられる。時期も明確ではないが、出土遺物からみて平安時代以降のものであろう。

第3節 堆積土層

調査区の西側と東側にそれぞれ幅30cmの南北セクションベルトを設定、堆積土層の観察を行った。調査区は北から南へ緩く傾斜しているが、谷地形が埋没した部分なのでかなり厚く堆積（深い）している。すなわち、丘陵の奥部はやや薄く、斜面に向かうほど厚く堆積しているのである。現耕作土（表土）の厚さは20～30cmの暗褐色土層である。第Ⅱ層は暗灰褐色土で厚さは10～20cmと薄い。最も新しい遺構である畝状の遺構や土壌の一部は、この層を掘り込んで構築されている（第Ⅰ期）。第Ⅲ層はやや堅くしまった明茶褐色土で、平安時代の土壌や、縄文時代の袋状土壌やピット等はこの層より掘り込んで、地山の白色粘土層まで切り込んでいる。白色粘土層は標高33.5m程の所で、上面にはソフトローム層が30cm程堆積している。方形周溝等ではローム層まで掘り込んでいるが、溝のフク土は自然埋没によるものである。西側では遺構が複雑に重複して、溝の埋没後遺構が構築されており、土地利用が頻繁であったらしい。

第4節 縄文時代の遺構

第2年次の検出された遺構は縄文時代から歴史時代にわたっているが、密度が高く遺構の重複が著しいために明確な性格（時代）を明らかにすることは困難である。特に土壌と称した遺構は攪乱があったり、遺物の出土状態がはっきりしないために、分類するのが難しかった。

縄文時代の遺構は大きく分けて住居跡と土壌の2種類に分かれる。さらにこの土壌は（1）小堅穴、（2）袋状土壌、（3）土壌、（4）ピット（小穴）の4種類に分けられる。住居跡については使用期間が短かいせいか、あるいは後世の遺構に破壊されたものか、形状がはっきりしない。柱穴は数個みられる程度で、炉跡と考えられるピットについても焼土が残っていない。幸うじて床面と壁の立ち上がりを確認できる程度である。遺物の出土状態をみても、フク土に検出されるものがほとんどで、これらは周囲から流れ込んだものと推定される。遺構に確実に伴うと判断されるのは極くわずかである。

小堅穴は住居跡とは異なるものだが、住居に似た形態を示す。ただ住居跡よりは小規模で、不整形なものが多い。床面は住居に似て平らで比較的しまっている。柱穴と確認できるピットは少なく、中央部に1個ぐらいというのが多い。壁の立ち上がりも短かいが、原形はもっと高く、しっかりした上部構造をもつものかも知れない。



第6図 遺構図

凡 例

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、焼土、炭(餅春土)化粒混入
- 2 暗褐色土 ローム粒、粘土粒、焼土、炭化粒少量混入
- 3 茶褐色土 ローム粒、粘土粒少量、細ロームブロック少量混入
- 4 暗褐色土 ローム粒少量、焼土炭化粒少量混入
- 5 暗茶褐色土 ローム粒、細ロームブロック粘土少量混入
- 6 暗茶褐色土 ローム粒、ロームブロック少量、炭化粒少量混入
- 7 暗褐色土 ローム粒少量混入
- 8 暗褐色土 ローム粒やや多く混入
- 9 明茶褐色土 ローム粒、粘土粒やや多く混入
- 10 暗茶褐色土 ローム粒少量混入
- 11 黄褐色土 ロームブロック多く混入
- 12 褐色土 ローム粒、ロームブロック多く混入
- 13 明茶褐色土 ローム粒、粘土粒やや多く混入、焼土少量
- 14 茶褐色土 ローム粒少量、粘土粒やや多く混入
- 15 褐色土 ローム粒多く混入
- 16 黄褐色土 ロームブロック多く混入(赤ロゴロしている)
- 17 褐色土 粘土粒、ロームブロック少量、ローム粒やや多く混入

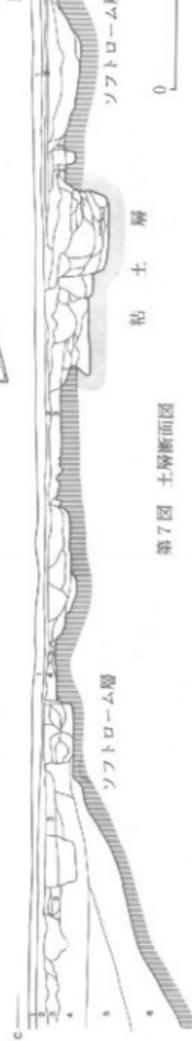
- 18 暗褐色土 ローム粒、粘土粒、褐色土粒多く混入(堅くしまっている)
- 19 暗茶褐色土 ローム粒、粘土粒少量混入
- 20 茶褐色土 ローム粒、粘土粒少量混入
- 21 暗茶褐色土 ローム粒、粘土粒少量、ロームブロック、炭化粒少量混入
- 22 暗茶褐色土 ローム粒、粘土粒やや多く、ロームブロック、黒色土粒少量混入
- 23 褐色土 ロームブロックやや多く、黒色土粒少量混入
- 24 茶褐色土 粘土粒やや多く、ローム粒少量混入
- 25 黒褐色土 ローム粒少量、ロームブロック、炭化粒少量混入
- 26 明茶褐色土 ロームブロックやや多く、粘土粒少量炭化粒少量混入
- 27 褐色土 粘土ブロック、ロームブロック多く混入
- 28 褐色土 ローム粒、ロームブロック多く黒色土粒少量混入
- 29 黄褐色土 ローム粒、粘土粒やや多く混入
- 30 暗茶褐色土 粘土、ロームブロックやや多く、ローム粒少量混入
- 31 黄灰色土 粘土ブロック多く混入
- 32 明茶褐色土 粘土粒多く、粘土ブロック少量混入(さらさらした砂質土)

L = 34.600m



第7図 土層断面図

L = 34.520m



第1トレンチ

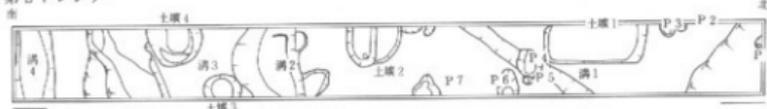


L=34.730m



- | | | | | | |
|----------|------------|----------|-------------|------------|----------------|
| (凡例) | 1 暗褐色土 | ローム粒少量混入 | 9 黄褐色土 | 細かいロームブロック | C0系少量混入。 |
| I 暗褐色土 | 耕作土 | 2 明褐色土 | ローム粒多く、粘土粒 | やや多く混入 | 粘土粒、粘土ブロック、ローム |
| II 暗褐色土 | 粒子の粗い土、比較的 | 3 黒褐色土 | ローム粒やや多く、黒 | 10 暗褐色土 | ローム粒多く混入 |
| | しまっている | 4 褐色土 | ローム粒がやや多く混入 | 11 暗褐色土 | ローム粒少量混入 |
| III 黒褐色土 | 粒子の細かい粘土粒混 | 5 褐色土 | ローム粒がやや多く混入 | 12 褐色土 | ローム粒、細かいローム |
| | 入、しまっている | 6 褐色土 | ローム粒、粘土粒、C0 | 13 暗褐色土 | ブロック多く混入 |
| V 茶褐色土 | ローム粒やや多く、粘 | 7 暗褐色土 | ローム粒少量混入。 | 14 暗褐色土 | ロームブロック、ローム |
| | 土粒少量混入 | 8 暗褐色土 | ローム粒やや多く混入 | 15 灰褐色土 | 粘土粒、ローム粒多く、 |

第2トレンチ



L=34.730m



- | | | | | | | |
|----------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|
| (凡例) | V 茶褐色土 | ローム粒、粘土粒少量 | 3 黒褐色土 | ローム粒、粘土粒、C | 9 灰褐色土 | 粘土粒、ローム粒やや |
| I 暗褐色土 | 耕作土 | 混入、ボロボロしている | 4 暗褐色土 | O、粘土少量混入 | 多く混入 | |
| II 暗褐色土 | ローム粒少量混入、 | 5 黒褐色土 | ローム粒少量混入 | 10 褐色土 | ローム粒多く混入 | |
| | ややしまっている | 6 黒褐色土 | ローム粒少量混入 | 11 明褐色土 | ロームブロック多量、 | |
| III 暗褐色土 | ローム粒少量混入、やや | 7 褐色土 | ロームブロックや混入 | 5 灰褐色土 | 粘土ブロック多く混入 | |
| | しまっている | 8 暗褐色土 | ロームブロック多く混 | 6 褐色土 | ローム粒やや多く混入 | |
| IV 茶褐色土 | ローム粒やや多く、粘 | 9 暗褐色土 | ローム粒少量混入、壁く | 7 灰褐色土 | 粘土層 | |
| | 土粒少量混入 | 10 暗褐色土 | ローム粒少量混入、壁く | 8 暗褐色土 | 粘土ブロックやや多 | |
| V 黒褐色土 | ローム粒、粘土粒少量 | 11 暗褐色土 | ローム粒少量混入、壁く | 9 暗褐色土 | 粘土少量混入 | |
| | 混入、壁くしまっ | | | | | |

第8図 第1・2トレンチ遺構図

0 4m

第1トレンチ出土土器—1はP3、2(土製円盤)はP5、3はP7、4~8は第II層、9はIII層、10~15はローム直上出土(加曾利EIV)、16~30は小竪穴1出土で30(EII)以外はEIII。31はIII層出土の灯明皿、32はP7出土の摺鉢、33は碗、34は内耳土器で土層1出土のもの。

第2トレンチ出土土器—1、7~22、24~26、28~30は第III層(暗褐色土)出土。2~6、23、27、31は土層4出土。2は阿玉台。1、4、10、12は加曾利EIV。23~25は弥生土器。



第9図 第1トレンチ出土遺物



第10図 第2トレンチ出土遺物

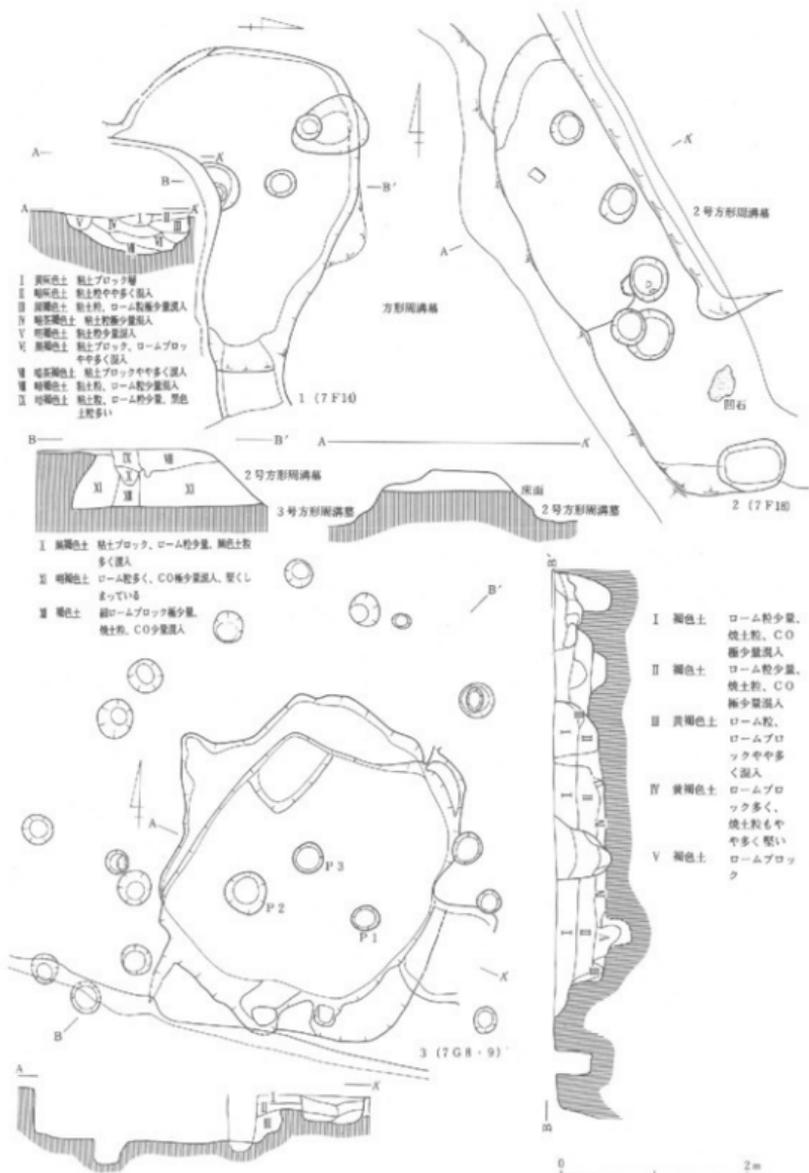


第11図 縄文時代の遺構

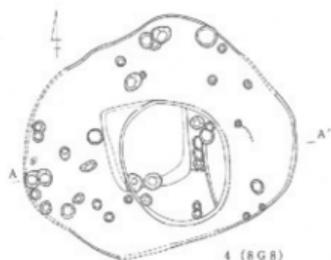
袋状土壌は上面の穴が小さく、底がフラスコ状に広がるもので、内部がオーバーハングするだけのものも含めた。(本来は分けられる) 本来、貯蔵用のためと思われるが、骨片や焼土がみられるものもあり、二次的に利用されることも少なくないようだ。遺構の重複が著しいために、他の遺構の精査中に突然見つかる時もある。第25図6に付随する遺構もそうである。

土壌は所謂墓塚と判断されるものであるが、遺物の残存状態が良好でないこと、遺構の規模が小さいこと等、必ずしも墓と判断できるものはほとんどない。形態的に何種類かに分けることができるが、今回は合わせて報告することにした。

ピットは貯蔵穴と考えられる円形の穴であるが、後世の建物の柱穴とまちがえることもあり、土層の観察と上面観察(位置等)に気を配った。遺構は各グリッドごとに番号をつけたが、将来的には統一した記号がつけられる予定である。



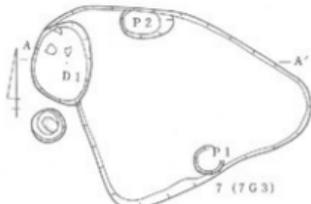
第12図 遺構図1—住居跡



4 (8G8)



- I 礫土 ローム粒やや多く混入
- II 礫質土 小ロームブロック少量、礫土粒多く混入
- III 礫土 小ロームブロック多く、礫土粒少量混入
- IV 礫質土 小ロームブロック、ローム粒少量混入
- V 礫質土 小ロームブロック、ローム粒少量混入
- VI 礫質土 ロームブロック、礫土粒少量混入
- VII 黄土色土 礫土粒多く混入
- VIII 礫質土 礫ロームブロック、ローム粒少量混入
- IX 礫質土 ローム粒多く、礫土粒少量混入
- X 礫質土 ローム粒少量、礫土粒やや多く混入
- XI 礫質土 ロームブロック多く混入
- IX 礫質土 ローム粒少量、CO粒少量混入
- IX 礫質土 ローム粒少量、礫土粒多く混入
- IX 礫土 ローム粒多く、礫土粒やや多く混入
- IX 礫質土 ローム粒、ロームブロック多く、礫土粒少量混入
- IX 礫質土 礫ロームブロック多く混入
- IX 礫土 ローム粒やや多く、礫土粒少量混入
- IX 礫土 礫ロームブロックやや多く、礫土粒少量混入



7 (7G3)



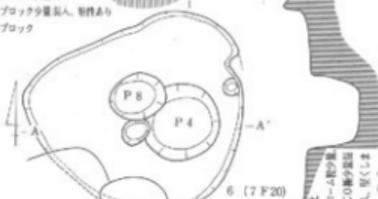
- I 礫土 ローム粒少量、礫土粒少量混入
- II 礫土 ローム粒やや多く、礫土粒少量混入
- III 礫土 ローム粒少量混入
- IV 質礫土 ロームブロック、礫土混入
- V 礫土 ローム粒少量、礫土粒中やや多く混入
- VI 礫土 ローム粒やや多く、礫土粒、CO粒少量混入
- VII 質礫土 ロームブロック多く、礫土粒中多い



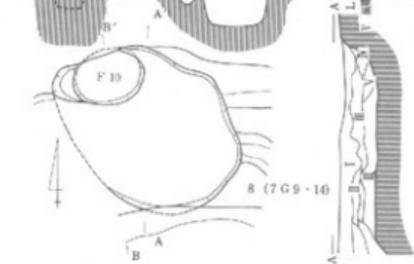
5 (7F20)



- I 質礫土 ローム粒多く混入
- II 質礫土 ロームブロック少量混入
- III 礫質土 ロームブロック少量混入
- IV 礫質土 ロームブロック少量混入、礫土あり
- V 質礫土 ロームブロック



6 (7F20)



8 (7G9-10)

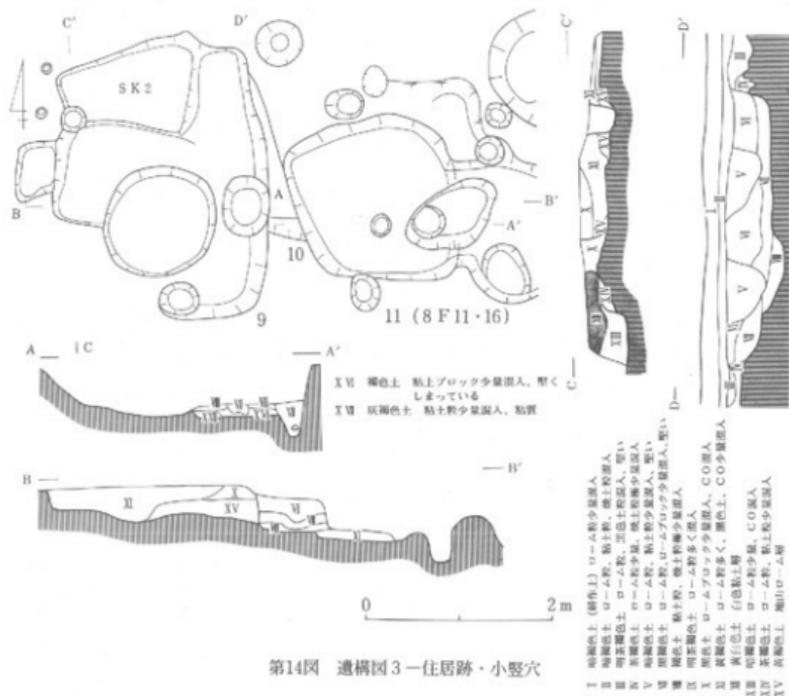


- I 礫土 ローム粒少量混入
- II 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- III 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- IV 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- V 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- VI 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- VII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- VIII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- IX 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- X 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XI 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XIII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XIV 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XV 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XVI 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XVII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XVIII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XIX 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XX 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXI 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXIII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXIV 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXV 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXVI 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXVII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXVIII 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXIX 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入
- XXX 礫土 ローム粒、礫ロームブロック少量混入

第13図 遺構図2—住居跡・小壁穴

表2 検出された遺構(縄文時代)

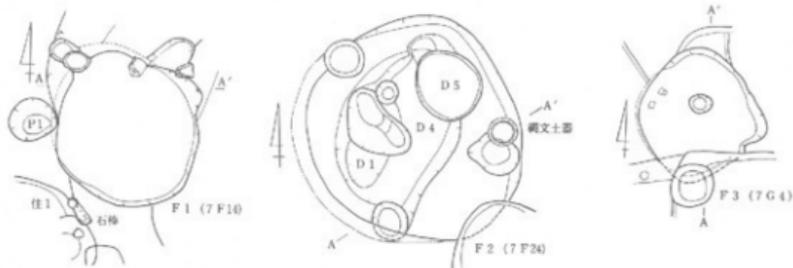
検出番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第12区 1(7F14)	住居跡	3.45×2.65m	楕円形プランで中央に炉跡と思われる掘り込みがある。床面はしっかりしている。	縄文土器(第28,29区),片形,磨石 阿玉台~加EⅠ-FⅢ,弥生土器が散在	炉跡の東側に小ピット1個。
第12区 2(7F18)	住居跡	3.4m(不明)	楕円形プランと思われるが、東西を方形溝溝で切断されて不明。床面はしっかりしている。	縄文土器(第30区,31区53~59) 加EⅠ-EⅢ,弥生土器も少量出土	
第12区 3(7G8-9)	住居跡	3, 3.5×2.5m	不整形プランで掘り込みは深い。ピットが2個,南壁は傾斜面を形成。	縄文土器(第31区1~19, 32区,60区6~8)磨石,ブシ (第84区1)等も出土。	炉跡(P2)に焼上はほとんどない。
第13区 4(8G8)	住居跡	5.9×4.8m	不整形プラン。土壁と複合しており,床面は不明確。ピットも不規則で炉跡も不明。	縄文土器(第33区1~12) 弥生土器41土製円盤6が出土	複合?
第13区 5(7F24)	小竪穴	2.4×2.1m	不整形プラン。床面は平床であるが,壁の立ち上がりは一律でない。P2によって切断。	土器の底部が床面にもぐりこんでいる。(第45区8)	溝,土壁により擾乱されている?
第13区 6(7F20)	小竪穴	2.35×2.1m	不整形プラン。中央部にピット。床面は平らであるが,P4,P8によって擾乱されている。	縄文土器(第33区14~33) 阿玉台~加EⅠ~EⅢ, 後期のもが多い。	ピット,土壁により擾乱されている。
第13区 7(7G3)	小竪穴	2.3×2.2m	三角形に近いプラン。土壁と複合しており,床面は一律でない。壁の立ち上がりも緩い。	縄文土器(第33区34~43,第34区) 加EⅠ-FⅣ,弥生土器等 阿玉台(第84区4)	土壁により擾乱されている。
第13区 8(7F11-16)	小竪穴	2.0×1.6m	床面はほぼ平らで,壁の立ち上がりは緩く傾斜。土壁,溝等に擾乱されている。	縄文土器(第35区,56区1) 阿玉台~加EⅠ-FⅣ,弥生土器	F10は袋状土壁で小竪穴より新しい。
第14区 9(8F11-16)	住居跡 小竪穴	2.9×2.3m	遺構の重複が著しく形状は不明だが,方形プランと推定される。床面はほぼ平らで,壁は傾斜面。	縄文土器(第35区~38区), 石鏡,加EⅠ~EⅣ,弥生土器	複合,小竪穴,土壁が集中している。
第14区 10(8F11-16)	小竪穴	(不明)	南壁の立ち上がり及び床面のみ検出。床面は堅くしまっており,南壁の立ち上がりに緩やかである。	9,11と混在。	9,11にそれぞれ切断されている。
第14区 11(8F11-16)	小竪穴	1.7×1.7m	方形プランで床面は堅くしまっている。中央付近に小ピットがあり壁は緩く立ち上がる。	9,10と混在。	床面下に土壁が検出されている。
第15区 F1(7F14)	袋状 土壁	1.65×1.55m	ほぼ円形プランに近い。西壁が挟り込んでいる。床面は緩い傾斜をもち,粘土層まで掘り込んでいる。	縄文土器片(第39区1~22) や石片が床に密着,南側付近で石棒(第92区4)が検出される。	2号方形溝溝のコーナーで検出。
第15区 F2(7F24)	袋状 土壁	2.4×2.35m	ほぼ円形プランに近い。西側壁が挟り込んでいる。床面はしまっているが擾乱が著しい。	東壁近くで,ピットの上に深鉢の口縁部(第92区4)が逆さまに出土。(第39区23~32)	土壁によって擾乱している。
第15区 F3(7G4)	袋状 土壁	1.25×1.2m	隅丸方形プラン。西側壁が部分的に挟り込んでいる。床面はしまっており,中央付近に小ピットがある。	縄文土器片出土(第45区25~30)阿玉台,加EⅠ~Ⅳ	
第15区 F4(7G4-9)	袋状 土壁	1.63×1.5m	不整形プラン。北側壁と西側壁が挟り込んでいる。床面は堅くしまっており,ピットが2個検出される。	縄文土器片出土	



第14図 遺構図3一住居跡・小壁穴

表3 検出された遺構(縄文土器)

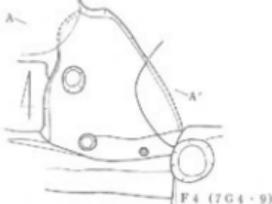
検出番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第15図 F5(7G9)	袋状 土壁	1.05×1.05m	ほぼ円形に近いプラン。壁のほとんどは崩れて明確でない。床面はほぼ平らでしまっている。	床面に縄文土器片や石が散乱している。	
第15図 F6(7F15)	袋状 土壁	70×65cm	楕円形プラン。深さが80cmで、やや斜めに掘り込まれている。F10と形状が似ている。	縄文土器(第40図1~5)、 フク土より出土。	P4, 遺構の並列が 密しい。
第15図 F7(7F15)	袋状 土壁	1.65×1.60m	ほぼ円形に近い。床面は粘土層まで掘り込んであり、フラスコ状の形状をよく残す。上部に焼土層がある。	東奥隅の床面に一括出土。 (第40図7~18, 56図8, 58図26~35, 59図36~49)	上面は溝によって掘 乱されている。
第15図 F8(8F16)	袋状 土壁	90×85cm	円形プラン。深さが60cm。床面は堅くしまっており、ほぼ平らである。南壁は崩れている。	縄文土器(第40図19~30) 石鏝、骨物出土。	
第18図 F9(8F21)	袋状 土壁	(不明)	円形プランと推定される。床面は平らで深さ37cm、挟り部分は10cmで上面は削平されている。	縄文土器片散点。 (第47図9~13)	P14, P5, P7, D1と重複。
第13図 F10(7G940)	袋状 土壁	77×60cm	小壁穴を切り込んであり、北面が大きく掘り込まれている。深さ75cm以上で床面は平らである。	遺物はほとんどない。土器片も小壁穴から掘り込んだものであろう。	小壁穴の北面を掘 り込む。



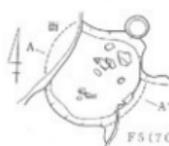
- I 砂礫土 ローム粒や中多量混入
- II 灰礫土 ローム粒、ロームブロック少量、黒土、粘土多量混入
- III 灰礫土 粘土ブロックや中多、ローム粒、黒土、粘土少量混入

- I 礫土 ローム粒少量混入
- II 礫土 ローム粒や中多、しまっている
- III 黄礫土 ローム粒、ロームブロック多、しまっている

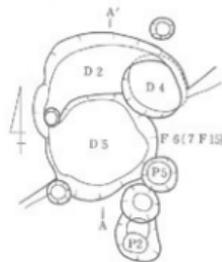
- I 礫土 ローム粒少量混入しまっている
- II 礫土 ローム粒、ロームブロック少量混入
- III 黄礫土 ロームブロック多量混入



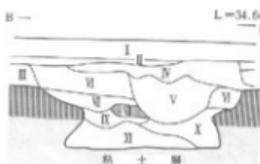
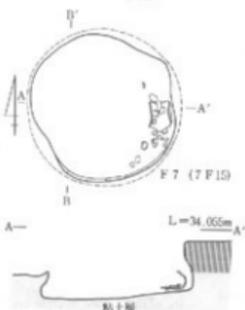
- I 礫土 ローム粒、焼土、CO少量混入
- II 礫土 ローム粒や中多、焼土、CO少量混入
- III 黄礫土 ロームブロックや中多、焼土、CO少量混入
- IV 黄礫土 ロームブロック多量混入



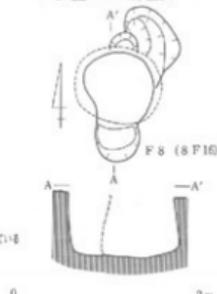
- I 砂礫土 ローム粒少量混入、焼土、CO混入
- II 灰礫土 ローム粒、焼土、COや中多量混入
- III 砂礫土 ロームブロックや中多、ローム粒、焼土混入
- IV 黄礫土 ロームブロックや中多、ローム粒少量混入
- V 黄礫土 ロームブロック多、焼土、焼土混入



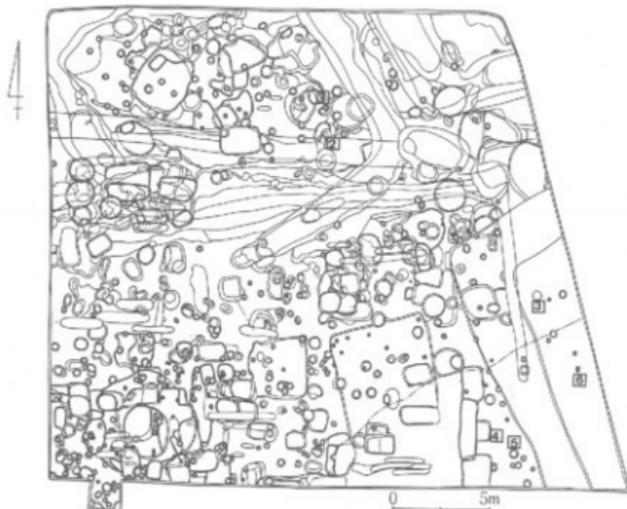
- I 砂礫土 ローム粒、ローム粒、粘土や中多
- II 砂礫土 ローム粒少量混入
- III 砂礫土 ローム粒少量混入
- IV 砂礫土 ローム粒や中多
- V 砂礫土 ローム粒少量混入



- I 砂礫土 (砂礫土) ローム粒少量混入
- II 砂礫土 ローム粒、粘土少量混入、堅くしまっている
- III 砂礫土 ローム粒、黒土粒や中多、しまっている
- IV 砂礫土 粘土粒多量、黒土粒少量混入、堅くしまっている
- V 砂礫土 ローム粒や中多、黒土粒多、CO少量混入、しまっている
- VI 礫土 ローム粒、粘土粒少量、焼土、CO少量混入、しまっている
- VII 赤礫土 (埋戻) の焼土、焼土粒多量、CO少量混入、しまっている
- VIII 小礫土 (埋戻) の焼土、焼土粒多量、CO少量混入、しまっている
- IX 灰礫土 ローム粒、焼土少量、CO少量混入、しまっている
- X 灰礫土 ローム粒多量、ロームブロック、焼土、CO少量混入



第15図 遺構群4一袋状土塊



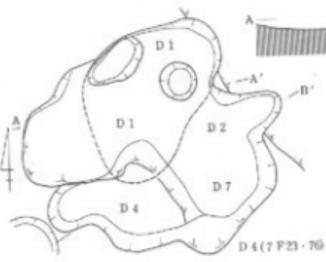
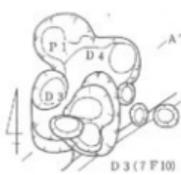
- I 暗褐色土 ローム粒少量混入
- II 黄褐色土 ローム粒多く混入
- III 黄褐色土 ローム粒、ロームブロック多く混入



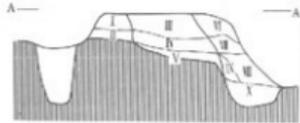
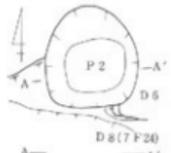
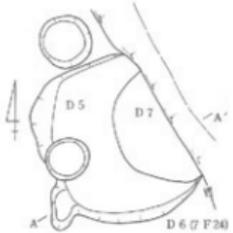
第16図 遺構図5-埋壁・ピット・集石遺構

表4 検出された遺構(縄文時代)

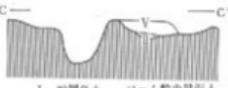
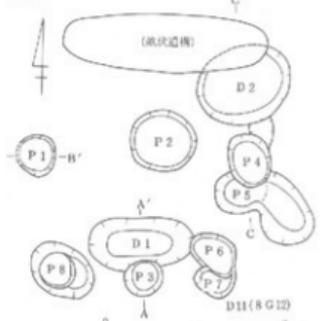
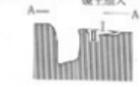
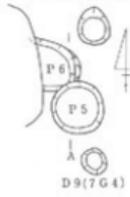
検出番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第16区 1(F24)	埋土	55×40cm [ピット]	深さ10cm程度の土層を下にしている。下には深さ10cm程度のピットがある。	(第56区3) 周辺に割石が散乱。 加EⅡ	埋没炉か?
第16区 2(F24)	埋土	1.1×1.25m [土層]	土層の中央付近には土層を下にしている。土層の下方には50cm、深さ55cmのピットがある。	(第56区7) 称名寺2	
第16区 3(F6)	埋土	(不明)	断面が崩壊。厚70cm、深さ50cmのピットの中にある。周辺に土器片が散乱している。	(第56区2) 加EⅡ	住居跡も存在している。
第16区 4(F13)	ピット (埋土)	60×55cm [P4]	深さ20cm程度のピットの中に土器が集中。周辺にも土器片や石器が同じレベルで出土している。	縄文土器(第54区1~4)	住居跡の可能性大。
第16区 5(F13)	ピット (埋土)	50×45cm	やや円筒っぽいピットで、上部に土器や骨が検出されている。	土器や石器の他に、骨粉が認められる。 周辺の土層(第54区13~22, 61, 62)	P6。
第16区 6(F7)	野石溝	40×30cm (石の範囲)	土層におかれた石は焼けている。下はピット状に窪んで溝沿の土も熱をうけて焼けている。	縄文土器(第55区48~73) 石鉢、石皿 加FⅡ, FⅢ, 称名寺, 内4片, 骨片	
第24区 1(F71)	土層	1.25×0.8m	楕円形プランで、東側(深さ25cm)と西側(深さ30cm)に分かれ、粘土層まで掘り込んでいる。	縄文土器片(第59区50~59) 加FⅡ~Ⅲ, 後部切羽。	東側に粘土塊。西側に小ピット。
第17区 D2(F23)	土層	(不明)	不整形プラン。数基の土層が重複しており、各土層のプランは不明。床面はほぼ平らである。	縄文土器(第41区29~38, 42, 46, 57, 61) 加EⅡ~Ⅲ, 称名寺。	D1A, Bより古くD4より新しい。
第17区 D3(F19)	土層	70×50cm	楕円形プラン。土層、ピットが集中している。深さは11.5mで床面は焼けて窪んでいる。	縄文土器(第41区1~15) 混在。	D1, D3, D7が重複。
第17区 D4(F23)	土層	(不明)	数基の土層が重複。形状は不明。床面はほぼ平らで比較的浅まっている。	縄文土器(第41区16~28) 混在。	D1, D2, D7が重複。
第17区 D5(F23)	土層	(不明)	方形に近いプランと思われる。床面はほぼ平らで浅く、壁の立ち上がりは緩く浅い。	縄文土器(第43区1~15) 混在。	D3, P1が重複。
第17区 D6(F24)	土層	1.7m×(不明)	楕円形プラン。床面は浅く傾斜している。D7は厚1.4m、粘土層まで掘り込んでいる。	縄文土器(第43区16~41, 41区) 行徳灰化体, 加EⅡ~Ⅲ, 堀之内, 称名寺	D5, D7と重複。
第17区 D7(F25)	土層	(不明)	東側を3対方形埋土溝。西側をP4、南側を大溝で切断された形状は不明。床面は平らである。	縄文土器(第43区1~7) 加EⅡ~EⅢ	D8, P4と重複。
第17区 D8(F25)	土層 (ピット)	1.1×1.0m	楕円形に近いプラン。D6を切り込んでいる。深さは96cmで床面は焼けて浅まっている。	縄文土器が数点(加EⅢ)	P2, D6と重複。
第17区 D9(F24)	土層 (ピット)	浅55cm 深30cm	上面は粘土層で削平されている。ピットの上部は粘土層で削平されている。	縄文土器数点(加EⅢ), 焼土, 炭化物混入(第60区11, 12)	P5, P6と重複。
第17区 D10(F13)	土層 (ピット)	1.15×0.6m	やや円筒っぽい楕円形プラン。床面は平らで浅く、壁の立ち上がりは15~20cmで急である。	遺物はほとんどなし。	P1を参照。
第17区 D11(F13)	土層 (ピット)	(不明)	厚が50cm程度の円形ピットで深さは8~10cmと浅く、壁の立ち上がりは緩やかである。	遺物はほとんどなし。 D1には焼土が混入。	P5, P4他に切断。
第18区 D12(F14)	土層	1.15×1.0m	方形に近いプラン。周辺に数基の土層、ピットが重複。深さは60cmで床面は平らで浅まっている。	縄文土器(第40区31~44, 45, 47, 1~9) 中層切羽+加EⅢ, 称名寺, 石器類。	D1, P14, D2, D3と重複。
第18区 D13(F21)	土層 (ピット)	1.05×0.9m	ほぼ円形に近いプラン。上面は崩壊して明確でないが、やや急な傾斜。床面はほぼ平らである。	縄文土器(第47区14~20) 磨石, 骨片 阿茶台+加FⅡ, FⅢ。	D15, 深さ85cm。
第18区 D14(F13)	土層	(不明)	3対方形埋土溝で上面を削平されて形状は不明。深さは緩く浅く、壁はややまっすぐ立ち上がる。	縄文土器片数点(第47区37~40) 出土。 (加FⅡ)	
第18区 D15(F13)	土層	1.3m×(不明)	3対方形埋土溝で南側を切断されて、明確な形状は不明。床面は緩く傾斜している。	縄文土器片数点(第47区35, 36) (阿茶台)	P2を参照。
第18区 D16(F23)	土層	1.35×1.35m	方形に近いプランで西側に160cm(深さ15cm)のピットがある。床面、壁は緩く傾斜している。	遺物はほとんどなし。	D2, D1と重複。
第18区 D17(F13)	土層	1.3m×(不明)	不整形プラン。南側は崩壊で切断され形状不明。壁の立ち上がりはやや急である。	遺物はほとんどなし。	D8, P12と重複。
第18区 D18(F13)	土層	1.85×1.1m	楕円形プラン。床面は浅く平らで、壁も厚く立ち上がりで、西側にピットが集中している。	遺物はほとんどなし。	D7。
第18区 D19(F24)	土層	1.85×1.7m	方形に近いプランだが、数基の土層、ピットの重複で形状は不明。床面は浅く平らである。	遺物はほとんどなし。	D1, P1, D2, D3, P4と重複。
第18区 D20(F23)	土層	93×60cm	楕円形プラン。深さ30cmで床面はほぼ平ら、壁は緩やかに立ち上がる。	遺物はほとんどなし。	D3。
第18区 D21(F23)	土層	65×60cm	不整形プラン。床面は平らで壁の立ち上がりはやや急である。岩根による変形を受けている。	遺物はほとんどなし。 深さ25cm。	P1。



- | | | | | | |
|----------|----------------|----------|---------------|----------|---------------|
| I 褐色土 | ローム粉少量、CO混入 | VI 褐色土 | ローム粉、細ロームブロック | VII 褐色土 | ローム粉、細ロームブロック |
| II 褐色土 | ローム粉少量、CO、焼土混入 | VII 褐色土 | ローム粉少量 | VIII 褐色土 | ローム粉、細ロームブロック |
| III 黄褐色土 | ローム粉、ロームブロック | VIII 褐色土 | ローム粉少量 | IX 褐色土 | ローム粉、細ロームブロック |
| IV 褐色土 | ローム粉少量、CO、焼土混入 | IX 黄褐色土 | ローム粉少量 | XIII 褐色土 | ローム粉、細ロームブロック |
| V 褐色土 | ローム粉やや多 | X 褐色土 | ローム粉やや多 | XIV 褐色土 | ローム粉、細ロームブロック |

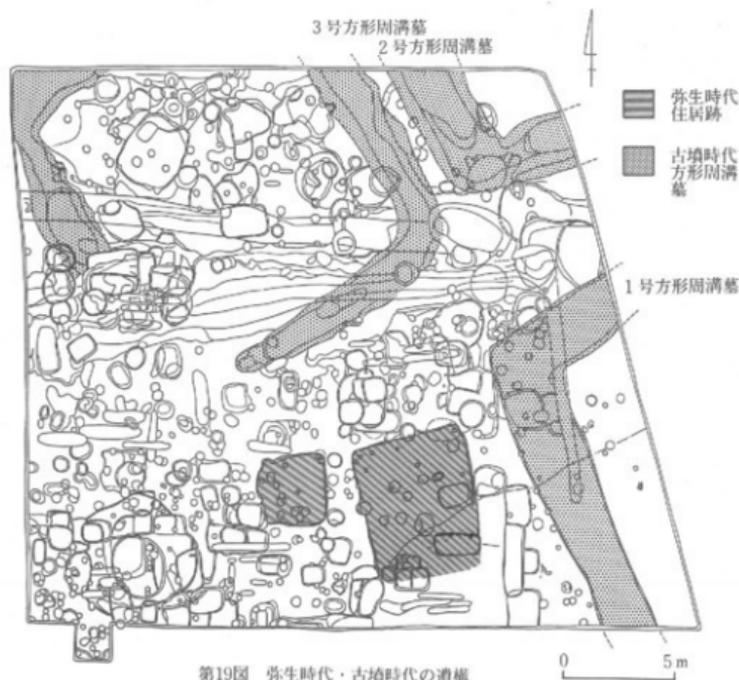


- | | | | |
|-----------|------------------|--------|------------------|
| I 褐色土 | ロームブロック少量混入 | IX 褐色土 | ローム粉、ロームブロック少量混入 |
| II 褐色土 | ローム粉、ロームブロック少量混入 | X 褐色土 | ローム粉、ロームブロック少量混入 |
| III 明茶褐色土 | ローム粉、ロームブロック少量混入 | | |
| IV 明茶褐色土 | ローム粉、ロームブロック少量混入 | | |
| V 明茶褐色土 | ローム粉、ロームブロック少量混入 | | |
| VI 褐色土 | ローム粉少量混入、CO、焼土混入 | | |
| VII 褐色土 | ローム粉少量混入、CO、焼土混入 | | |
| VIII 暗褐色土 | ローム粉少量混入、CO、焼土混入 | | |



- | | | | |
|---------|-----------------------------|-----------|----------|
| I 褐色土 | ローム粉少量、CO、焼土混入 | II 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| II 褐色土 | ローム粉、CO、焼土混入、ややしまっている | III 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| III 褐色土 | ローム粉少量、細ロームブロックや多く混入、しまっている | IV 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| IV 黄褐色土 | ローム粉、ロームブロック多く混入 | V 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | VI 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | VII 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | VIII 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | IX 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | X 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | XI 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | XII 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | XIII 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |
| | | XIV 暗褐色土 | ローム粉少量混入 |

第17号 遺構図6-土塊・ビット



第19図 弥生時代・古墳時代の遺構

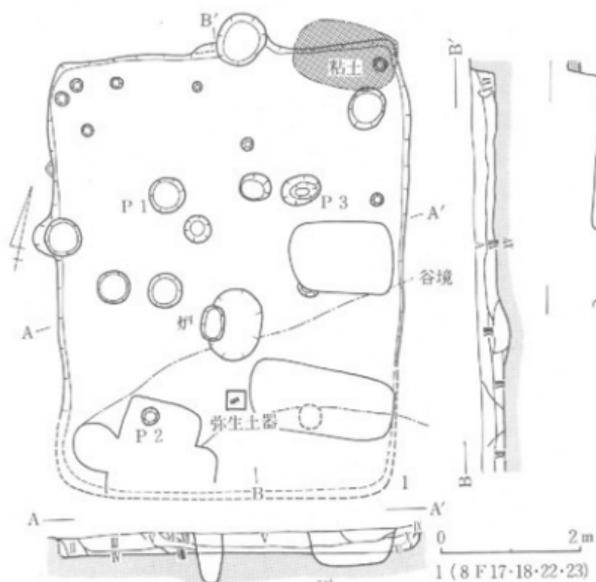
第5節 弥生時代の遺構

検出された遺構の中で弥生時代のものと判断されるのは調査区の南側に検出された住居跡2軒である。埋もれた谷の上面に構築されたもので、1の長軸は南側が攪乱されているため不明であるが6m程で、短軸は5.2m、谷の上面部分を除けば床面は堅くしまっている。柱穴は基本的に2対であろうが、その他のピットもあり不明確である。炉は柱穴間のほぼ中央にあるが、ほとんど焼成を受けていない。出土した遺物はほとんどが縄文土器で弥生土器は少ない。炉の南側の床面に弥生の小型壺(第81図)がほぼ完形で出土している。(第48図～50図91)

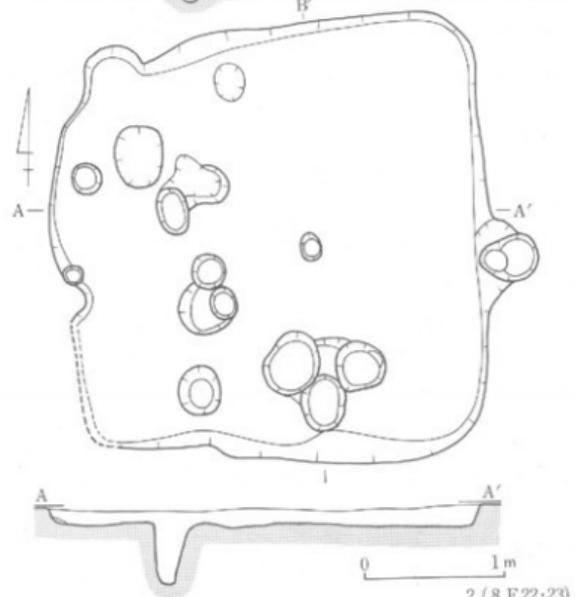
2は1辺が約3m程で、ほぼ正方形に近い。壁の立ち上がりは10cmで柱穴と考えられるピットや炉跡らしきものは不明である。床面もしまっておらず、1の住居の補助的な施設として用いられたのではないかと推測される。出土した遺物のほとんどは縄文土器で弥生土器は少ない。(第50図1～9)

第6節 古墳時代の遺構

第一年次の調査によると、円墳1基、方形周溝墓1基検出されており、基域としての性格を強くしていたが、今回の調査ではさらにその感を強める結果が出されている。すなわち、円墳



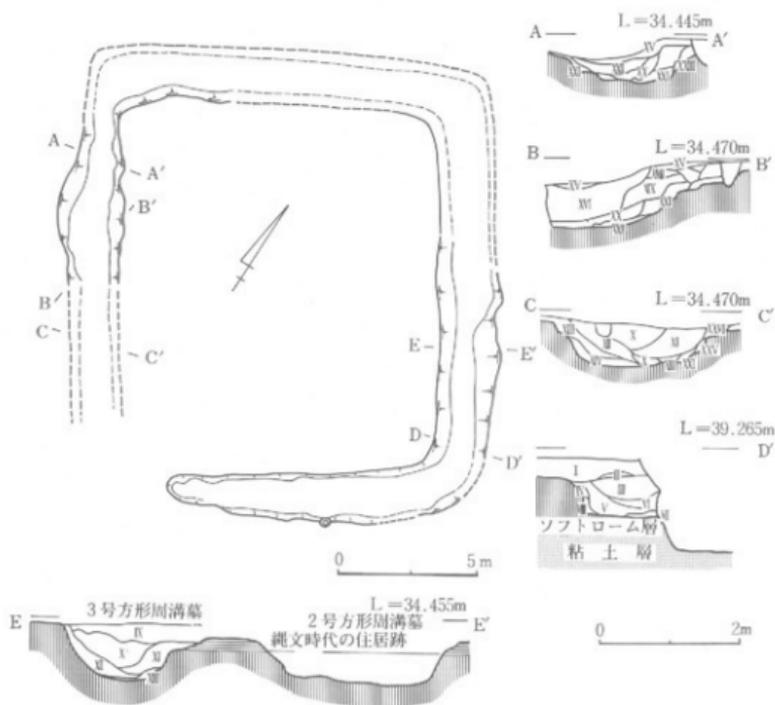
- I 暗茶褐色土 ローム粒、粘土粒多く混入
- II 黒褐色土 黒色土粒多量、ローム粒少量混入
- III 茶褐色土 ローム粒、粘土粒少量混入
- IV 茶褐色土 ローム粒、粘土粒、ブロック少量混入
- V 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック少量、黒色土粒多く混入
- VI 黄褐色土 ロームブロック多く混入
- VII 暗褐色土 ローム粒少量、粘土粒やや多く混入
- VIII 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック少量、粘土粒やや多く混入
- IX 暗茶褐色土 ローム粒少量、粘土粒やや多く混入
- X 暗茶褐色土 ローム粒、ロームブロック少量、粘土粒やや多く混入
- XI 暗茶褐色土 ローム粒少量、粘土粒多く混入
- XII 暗褐色土 ローム粒、粘土粒少量混入
- XIII 黒褐色土 黒色土粒少量、ローム粒極少量混入
- XIV 暗褐色土 ローム粒、粘土粒少量混入
- XV 暗褐色土 (断り床部分)
- XVI 黄褐色土 ロームブロック



- I 褐色土 ローム粒、ロームブロックやや混入
- II 黒褐色土 ローム粒極少量、黒色土粒やや多く混入

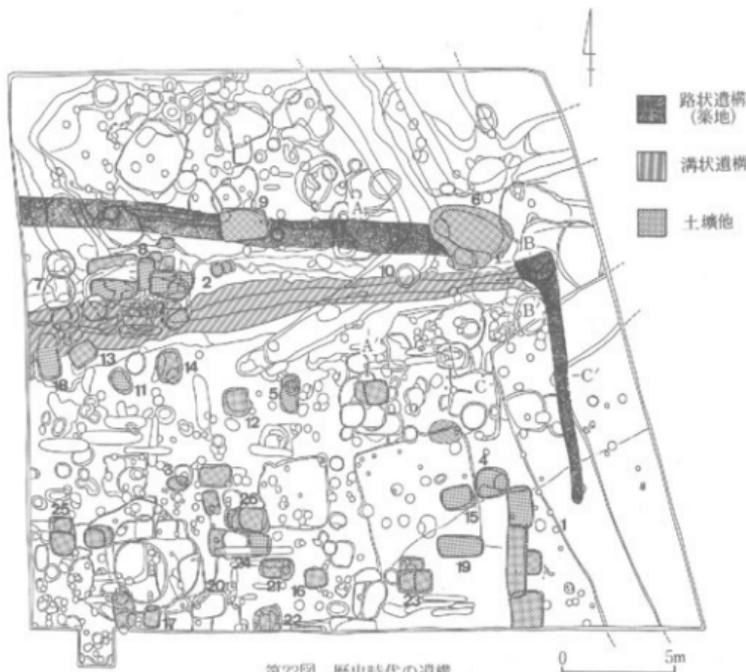
2 (8 F 22-23) (8 G 2-3)

第20図 遺構図8 弥生時代の住居跡



- | | | | |
|------------|------------------------|------------|------------------------|
| I 茶褐色土 | ローム粒、粘土粒、黒色土粒やや多く混入 | XIV 暗茶褐色土 | ローム粒少量混入 |
| II 明茶褐色土 | ローム粒少量、粘土粒少量混入 | XV 暗褐色土 | ローム粒極少量混入 |
| III 茶褐色土 | ローム粒やや多く、粘土粒少量混入しまっている | XVI 茶褐色土 | ローム粒多量、焼土粒、CO粒少量混入 |
| IV 暗褐色土 | ローム粒少量混入するがしまっている | XVII 暗褐色土 | ローム粒、黒色土粒極少量混入 |
| V 茶褐色土 | ローム粒やや多く、焼土粒、CO粒極少量混入 | XVIII 茶褐色土 | ローム粒少量、焼土粒極少量混入、しまっている |
| VI 明茶褐色土 | ローム粒多量、粘土粒、黒色土粒やや多く混入 | XIX 暗茶褐色土 | ローム粒多量、粘土粒やや多く混入 |
| VII 黄褐色土 | ローム粒多量混入(ソフトローム層移行層) | XX 暗茶褐色土 | ローム粒、粘土粒少量混入 |
| VIII 明褐色土 | ローム粒多く混入、ややブロック化 | XXI 褐色土 | ローム粒、細ロームブロック混入 |
| IX 黒褐色土 | ローム粒、粘土粒少量、黒色土粒多く混入 | XXII 暗褐色土 | ローム粒やや多く混入 |
| X 暗褐色土 | ローム粒、粘土粒やや多く、黒色土粒多く混入 | XXIII 黄褐色土 | ソフトローム層 |
| XI 暗茶褐色土 | ローム粒少量、焼土、CO粒少量混入 | XXIV 暗褐色土 | ローム粒多く混入 |
| XX 暗茶褐色土 | ローム粒少量、粘土粒極少量、黒色土下層に混入 | XXV 褐色土 | ローム粒、黒色土粒多く混入 |
| XXIII 黄褐色土 | ロームブロック層 | XXVI 暗褐色土 | ローム粒多量、焼土、CO粒少量混入 |

第21図 遺構図9-3号方形周溝墓



第22図 歴史時代の遺構

の西側に検出されたのはさらに2基の方形周溝墓であった。規模的にはやや小さいようであるが周溝幅や深さ、方向等はこれまでのものとほとんど変わらないものである。1号方形周溝墓は17.4×17mで南北にやや長い。溝幅は1.4~1.7m、深さは32~44cm。北西コーナーほぼ直角に折れる。溝のフク土に骨片や縄文土器が多く検出されているが骨は後世のもの(墓域)で縄文土器はかなりの量であるが、攪乱によるもので周囲から流れ込んだものである。(1号方形周溝墓の西側と内側には縄文時代の住居跡と思われる地点がある。) 2号方形周溝墓は1号方形周溝墓と方向を同じくして2.2m北側に構築されている。南側の一辺は15.5m、溝幅は2.5~3m、深さは36~56cm。南西コーナー部で縄文時代の住居跡や袋状土壌等を切り込んでおり、周溝のフク土には縄文土器が多く検出されている。3号方形周溝墓は2号方形周溝墓と並んで西側に検出されている。主軸方向は他の2基と同様に北北西にもつ。一辺の長さが約15mで溝幅が2~2.4m、深さは50~80cm。他の2基に比較して、溝幅(底面)がやや狭い。2号方形周溝墓とほとんど接近して構築されているが切り合い関係は見られない。南西隅が切れているが、東西に走る溝の斜面なので、攪乱されたものかも知れない。遺構に伴う遺物は検出されていない。

第7節 歴史時代以降の遺構

歴史時代以降の検出された遺構は路状遺構、築地状遺構、溝、土壌等である。土壌については性格を示す遺物がほとんどみられず、確認された平面プランのレベル、土層の状態、形状等で判断せざるを得なかった。

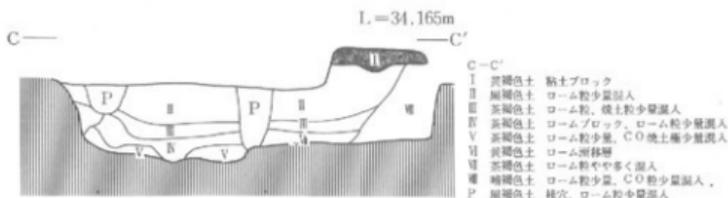
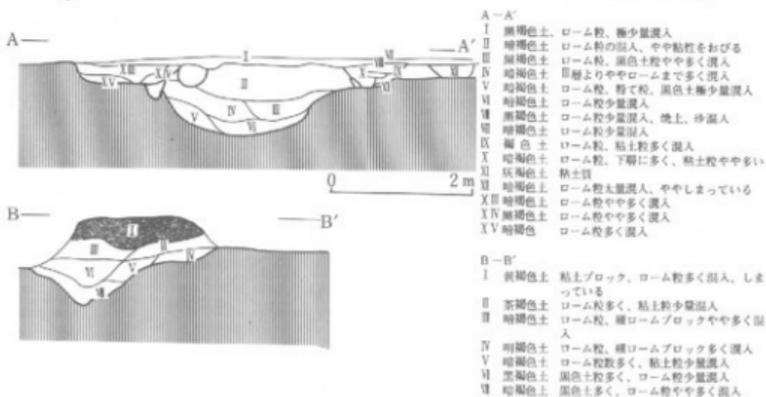
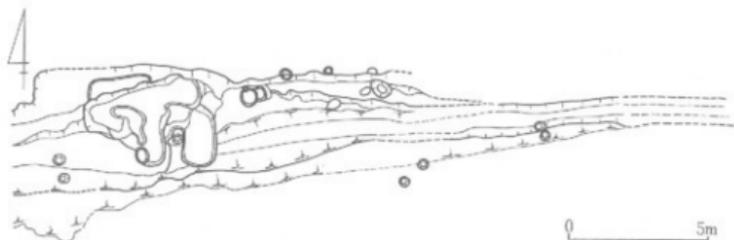
路状遺構は幅1.2~1.5m（厚さ25~36cm）で東西に走る。東側で築地状遺構と接続するかのようには消滅している。土層は堅くしまっており、土器が細片になって混入している。遺構の北側下面には遺構の方向に沿って幅30~40cm（深さ10cm）の小溝が走っている。堅い土を取り除くと下面はテラス状に平坦になっており、南端沿に大溝が平行して走っている。築地状遺構は南北に細長く構築されており、長さ約11m（厚さ15~20cm）、幅70~90cmで繊維質の混入する粘土で帯状に造られている。路状遺構も溝も東側はここで終わっており、この築地状遺構は路状遺構と共に、内側の施設を囲む（区画する）遺構であったのかも知れない。

表5 検出された遺構（歴史時代）

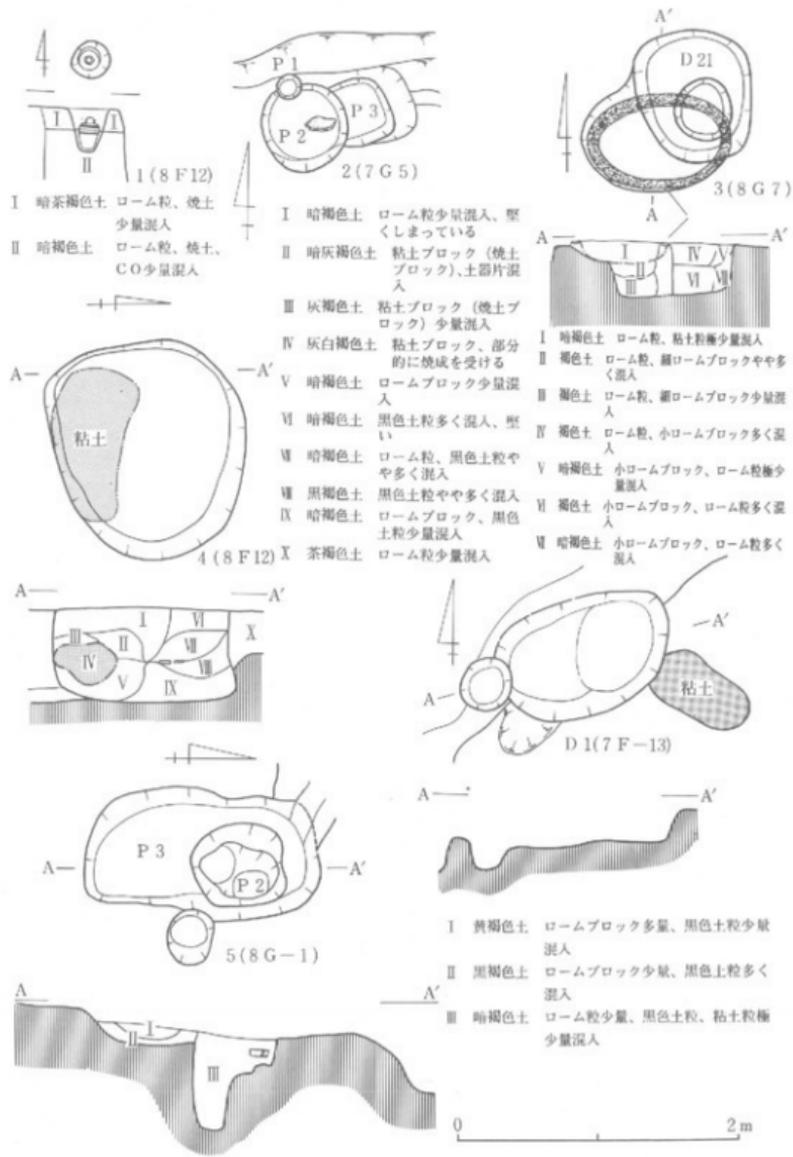
推定番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第24区 1(8F12)	ピット	径 26cm 深さ 33cm	ピットの中央にやや東に傾いた状態で出土。 上から12cmの所に、赤茶化した有機物が付着。	(第82区)割れた紙子を拵合せて再使用している。	P4 13世紀。
第24区 2(7G5)	ピット	径 64cm 深さ 24cm	溝の北側壁そばに他のピットと共に確認されている。溝上面からあげられたとも考えられる。	内耳片、河原石がピットの上面で出土。	P1→P2→P1 (古→新)
第24区 3(8G7)	土壌	1.1×0.7m	楕円形プラン。上方には炭化物(粉状)が土壌の形状にそって検出されている。深さ18cm。	縄文土器片(第57区1,2)	
第24区 4(8F12)	土壌	1.56×1.4m	円形に近いプラン。深さは38cmで床面は平らで、立ち上がりは垂直。南側に粘土塊が堆積。	床面から10~30cmに粘土塊、土器片が集中して出土。	土器焼成遺構。 12世紀。
第24区 5(8G1)	土壌	1.67×0.75m	やや傾斜している地形に構築されている。南側床面はほぼ平ら。P1の深さは71cm。	P2の土部に内耳片(第57区6)がやや浮いて出土。 (第57区3~5)	土壌。ピットが重複
第25区 6(7F14-19)	土壌	3.75×1.6m	粘土層まで掘り込んだ楕円形プランの土壌。床面は平らで、西壁下にピットがみられる。	フク土の中央部に灯明皿、石、貝殻が出土。 (第57区7~28)	深さ1.2m。 南壁に土壌あり。
第25区 7(7G15)	土壌	径1.4~1.55m 深さ 40cm	円形プラン。床面はほぼ平らであるが溝のフク土に構築されたもので重物が著しい。	縄文土器、弥生土器片。 (第57区29~39) 内耳片(第83区6, 14)	P4, P3→P4→ P1(古→新)
第25区 8(7G10)	土壌	1.94×1.28m	不整形の方形プラン。溝のフク土に集中して構築され重物が著しい。床面はほぼ平ら、深さ77cm。	縄文土器や内耳片(第83区1, 2)や灯明皿(61区18, 19)(60区13~29)	P5, P1とP5が最も新しい土壌。
第25区 9(7G4)	土壌	2.14×1.46m	路状遺構の上に検出された残存状態が最も良好で方形プラン。床面は平らでしまっている。	縄文土器片、河原石片が出土。	北東隅は小ピット。 (P1)に切断。

表6 検出された遺構(歴史時代)

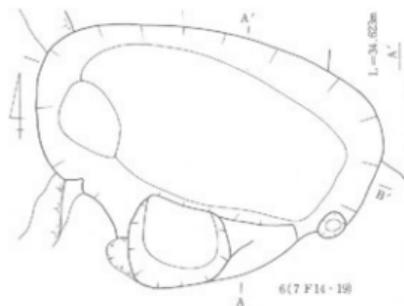
棟目番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第25区 10(7F20)	土城	径0.97~1.12m 深さ 33cm	ほぼ円形プラン。溝を切って構築されているが深さ10cmで床面も弱く不明確である。	遺物はほとんどなし。	
第25区 11(8G6)	土城	1.22×0.88m	楕円形プラン。深さ80cmで床面はほぼ平らで北側から粘土層が入り込んでいる。	遺物はほとんどなし。	
第26区 12(8C1)	土城	1.24×1.12m	正方形に近いプラン。壁の立ち上がりは垂直に近く、床面はほぼ平らで粘土層まで掘り込んでいる。	遺物はほとんどなし。	深さ54cm 東側に小ピットあり
第26区 13(8G11)	土城	1.22×0.93m	長方形プラン。溝の傾斜面に構築されている。立ち上がりは直立気味で、床面は粘土層まで切り込む。	遺物はほとんどなし。	深さ40cm
第26区 14(8G6)	土城	1.42×1.14m	隅刃の長方形プラン。上面で2つの土城に分かれるが、下面は平らで1つの土城である。	遺物はほとんどなし。	深さ30cm 粘土層に切り込む
第26区 15(8F17)	土城	1.5×1.02m	長方形プラン。弥生時代の住居跡の東側床面に掘り込んでいる。床面は緩く傾斜している。	遺物はほとんどなし。	深さ65cm
第26区 16(8F23)	土城	1.02×0.9m	長方形プラン。床面は緩く傾斜して、壁はほぼまっ直に立ち上がる。	遺物はほとんどなし。	深さ25cm 壁に小ピットあり
第26区 17(8G8)	土城	1.57×1.0m 98×77cm	長方形プラン。床面は粘土層まで掘り込んでいるがほぼ平ら。壁はほぼ垂直に立ち上がる。	縄文土器片(第58回D1.2.5)	深さ25~34cm 上部に遺構重複
第26区 18(8C1)	土城	2.04×1.04m	溝のフタ土に掘り込んでいる長方形プランの土城。北側壁は擾乱を受けて不明。	縄文土器片(加EⅡ)	深さ50cm
第26区 19(8F18)	土城	(2.05)×0.97m	弥生時代の住居跡の南東隅床面を切り込んでいる。床面はほぼ平らである。	縄文土器片(加EⅡ~Ⅲ)	深さ60cm
第26区 20(8G8)	土城	1.8×1.1m	不整形の方形プラン。床面は平らで、下部には遺溝が重複している。	縄文土器片(第58回45)、内耳片(4)、摺り鉢(5)	西側壁に小ピットあり。
第26区 21(8G3)	土城	1.55×0.9m	長方形プラン。上部はD2や欹状遺構で擾乱されている。床面は平らでまっ直に立ち上がる。	遺物はほとんどなし。	D2は樹根による擾乱か?
第26区 22(8G3)	土城	(不明)×1.1m	南側は未発掘で不明だが、長方形プランと推定される。遺構の重複がみられる。	遺物はほとんどなし。	D4、北西隅に小ピットあり。
第26区 23(8F18)	土城	1.5×1.0m	3基以上の土城が重複している。上部は長方形プランで床面もほぼ平らである。	縄文土器片(第58回46~12)や内耳片(7)	D2、D3、D4と重複
第26区 24(8G2-3)	土城	2.8×1.1m	長方形プランの大地溝に小土城が2基検出されている。西側床と南壁に小ピットあり。	遺物はほとんどなし。	上部は欹状遺構で擾乱
第26区 25(8G12-13)	土城	1.66×1.14m 1.40×1.0m	深さ43cm。遺構の重複が著しい。上部では2基以上の土城が検出されている。	縄文土器片が少量(加EⅡ)	D3、D4と重複
第26区 26(8G2)	土城	1.88×1.04m 1.28×1.04m	長方形プランで土城が5基重複している。床面はほぼ平らでしまっている。	縄文土器片(第58回13~16)(加EⅡ~EⅣ)	D6、D4、D7、D8と重複



第23図 遺構10一溝跡・築地状遺構断面



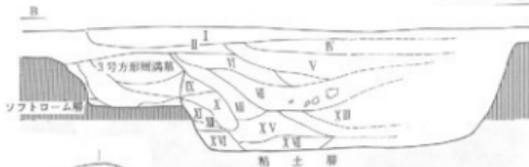
第24図 遺構11-土坑・ピット



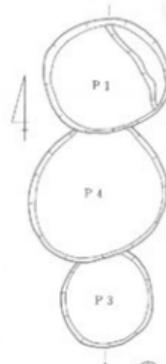
L=34.625m



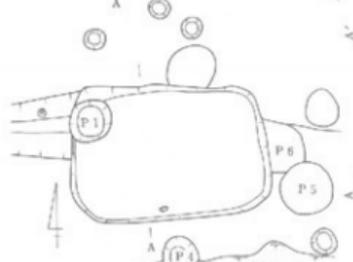
L=34.205m



粘土層



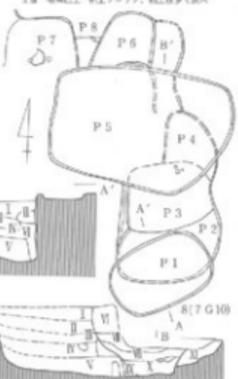
- I 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- II 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- III 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- IV 塔礎土 粘土層
- V 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- VI 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- VII 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- VIII 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- IX 塔礎土 粘土層
- X 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- XI 塔礎土 ローム層、粘土層、小ロームブロック少量混入
- XII 塔礎土 粘土層



第25図 遺構図12-土壌・ピット

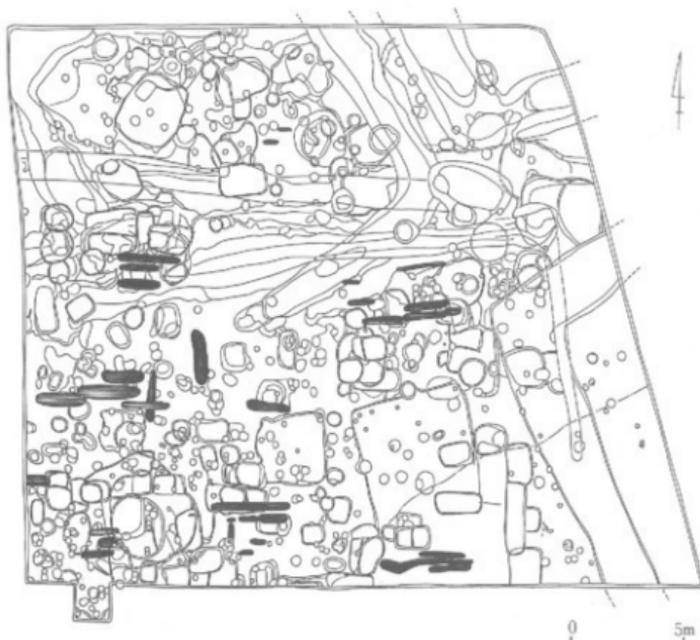
- I 黒色土 黒色土が多い
- II 黒褐色土 ローム少量、ロームブロックや多く混入
- III 褐色土 黒ロームブロック多く、褐色土少量混入

- I 塔礎土 塔礎土、ローム少量混入
- II 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層混入
- III 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- IV 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- V 塔礎土 粘土層、ローム少量、粘土、CO混入
- VI 塔礎土 粘土層、粘土ブロック少量混入
- VII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土ブロック少量混入
- VIII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- IX 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- X 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XI 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XIII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XIV 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XV 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XVI 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XVII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XVIII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XIX 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XX 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXI 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXIII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXIV 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXV 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXVI 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXVII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXVIII 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXIX 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入
- XXX 塔礎土 ローム層、粘土層、粘土層少量混入



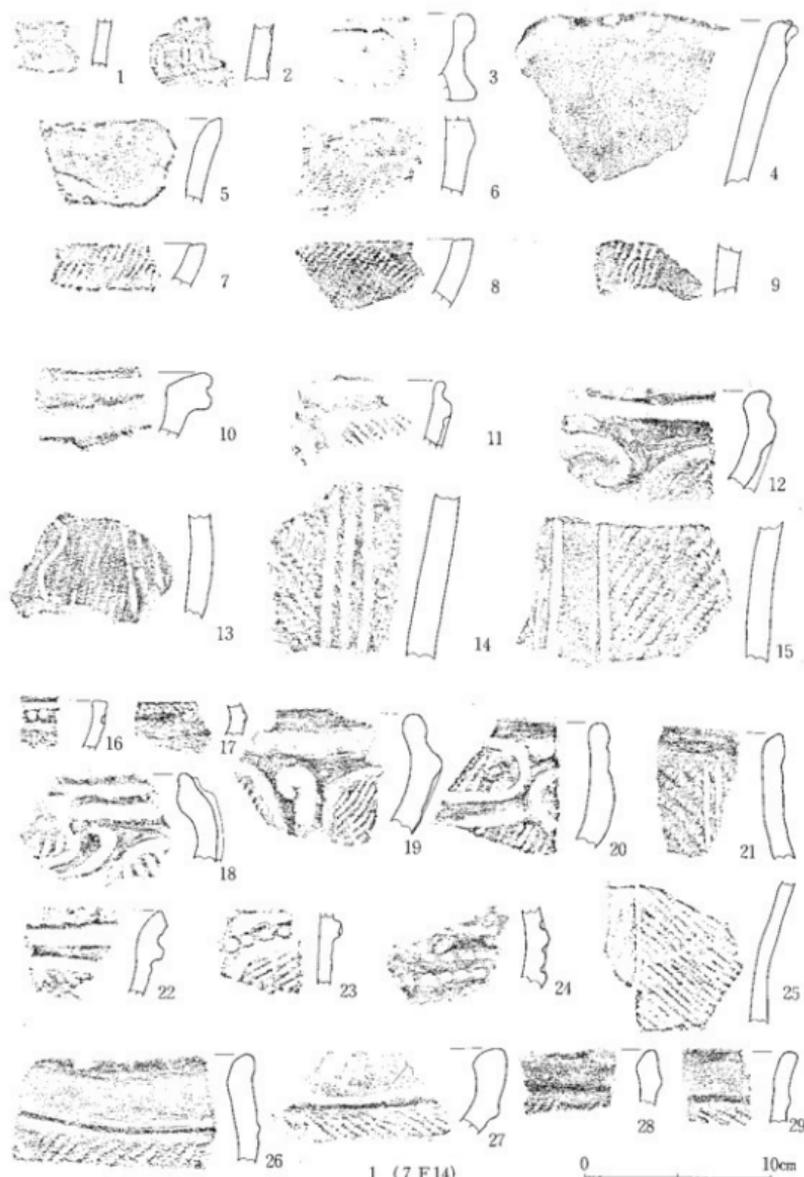
- I 塔礎土 ローム少量混入
- II 塔礎土 ローム少量混入
- III 塔礎土 ロームブロック
- IV 塔礎土 ローム層、粘土層少量
- V 塔礎土 ローム少量、粘土層少量混入
- VI 塔礎土 ローム少量、粘土層少量混入
- VII 塔礎土 粘土層、ロームブロックや多く混入
- VIII 塔礎土 粘土層少量混入
- IX 塔礎土 粘土層
- X 塔礎土 粘土層少量混入

2m

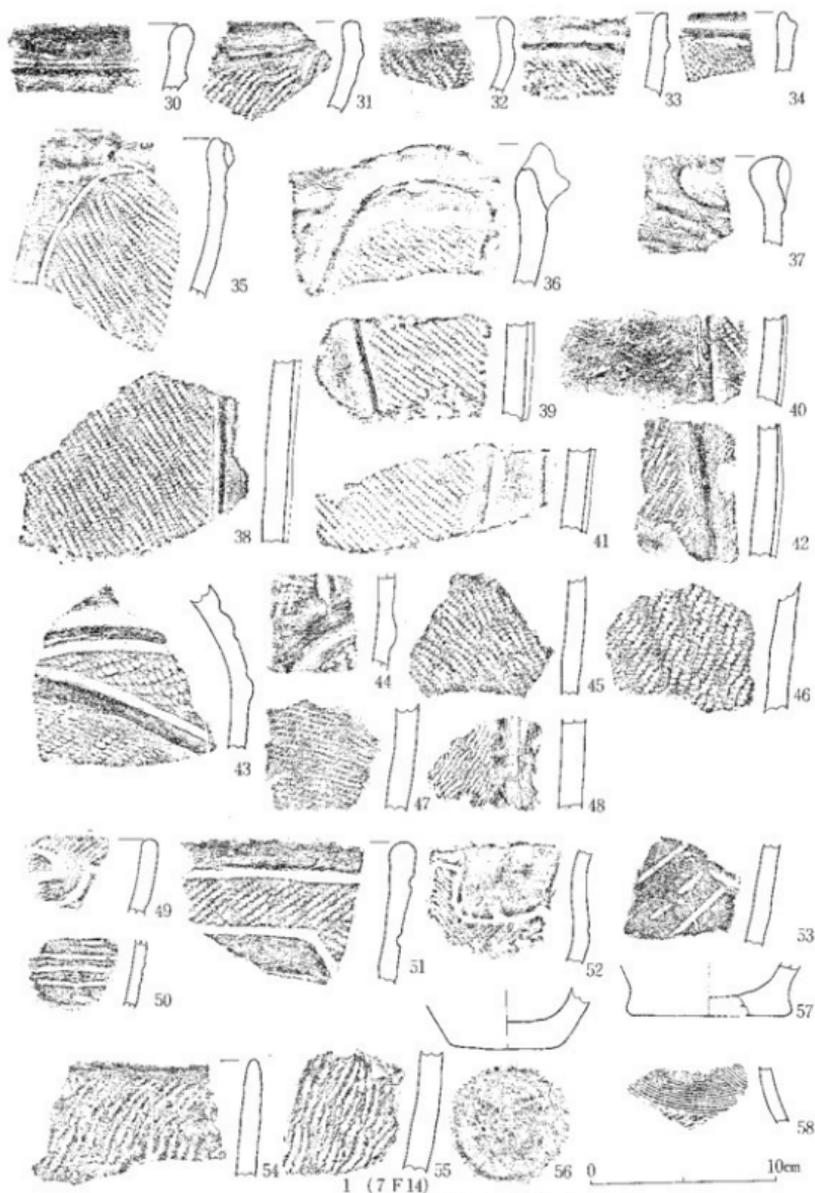


第27図 畝状遺構

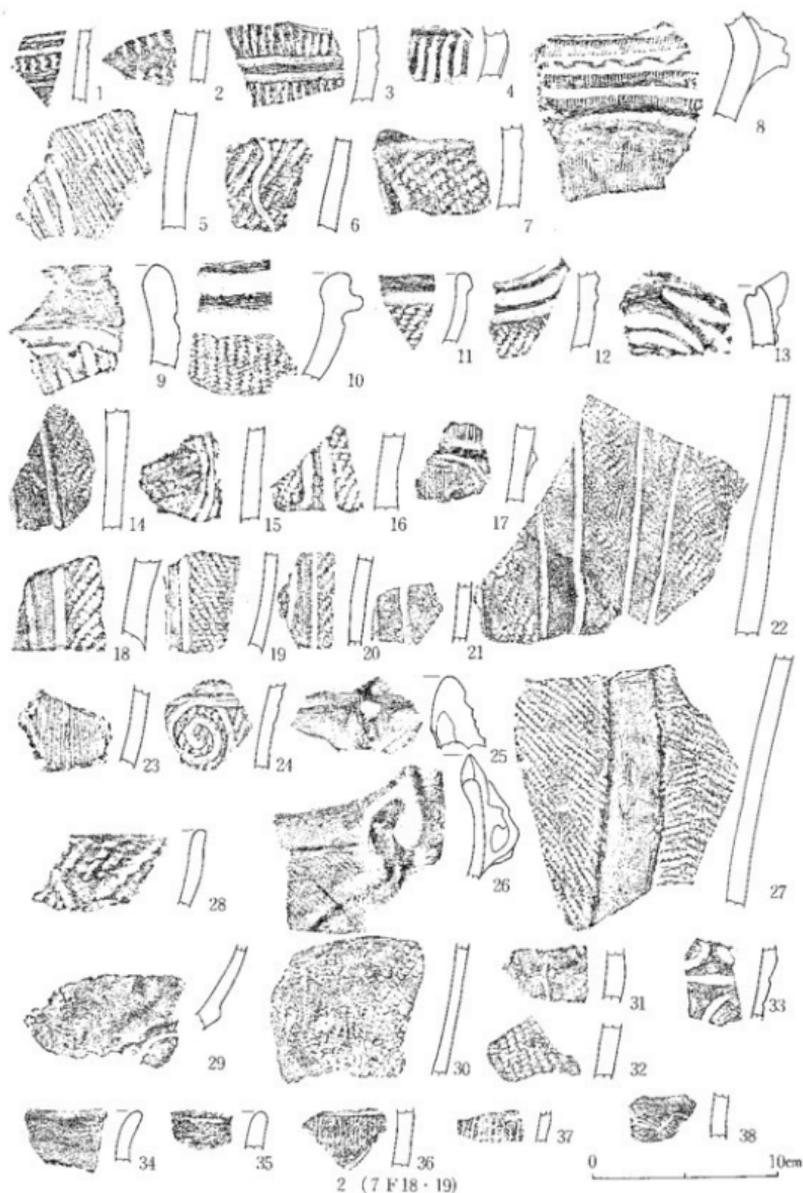
溝は調査区の中央付近を東西に走っている。西側は広く(幅4.5m)、東側はだんだん狭くなっており、築地状遺構とほぼ直角になって消滅、先は検出されなかった。溝の深さは場所によって異っており一様ではないが、東側から西側に緩く傾斜している。さらに西側の土壌等の遺構が集中している部分では、底面を粘土層まで深く掘り込んでいる。この部分は調査区中最も深い所で、溝の両側の傾斜もこの部分に入ってきて、水が流れていれば溜め池のようになる。土壌やピットはこの溝が埋まった後に構築されたものがほとんどで、暗褐色土の中に掘り込まれている。プランはやや隅の丸い長方形や、楕円形のものが多い。特殊なものとして6のような深くて大きな井戸状の遺構もある。これは粘土層まで掘り込んであるが、半分程埋まった段階で墓域として二次利用されたものらしい。4は土壌の中に粘土ブロックがあり、杯形土器の未焼成のものが多く検出されている。完形になるのはまったくみられず、ほとんどが破片である。土器焼成遺構と考えられるが、詳細は検討中。1は三筋壺と呼ばれる瓶子を検出したピットで、瓶子は一度割れたものをニカワの様なもので接合して埋置されていた。建物の鎮壇具として用られたものかも知れない。これ等の土壌やピットは全て路状遺構と築地状遺構の内側に存在していることから、墓域を区画する施設として構築された可能性がある。なお、この他に畑の畝と思われる細長い落ち込みが多くみられるが、性格については現在不明である。



第28圖 出土遺物(1) 縄文土器拓影

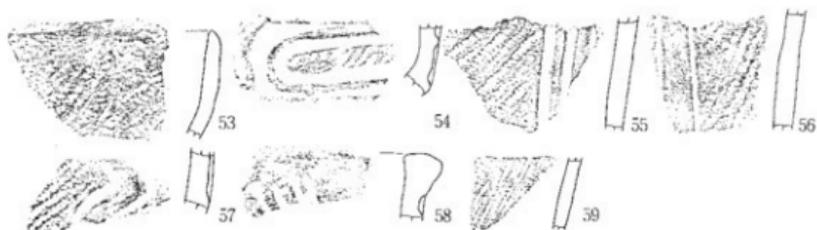


1 (7 F 14)
 第29圖 出土遺物(2) 縄文土器拓影・他



2 (7 F 18 · 19)

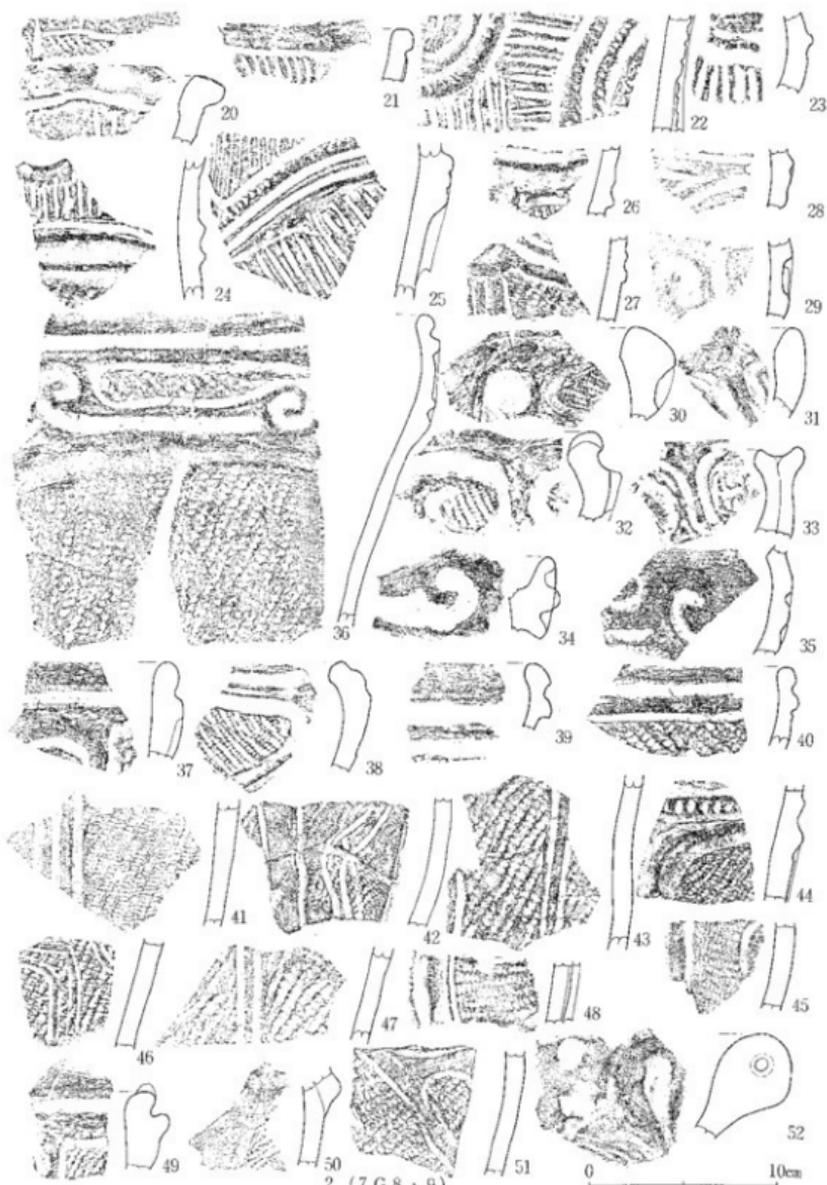
第30回 出土遺物 (3) 縄文土器拓影



2 (7G8·9)



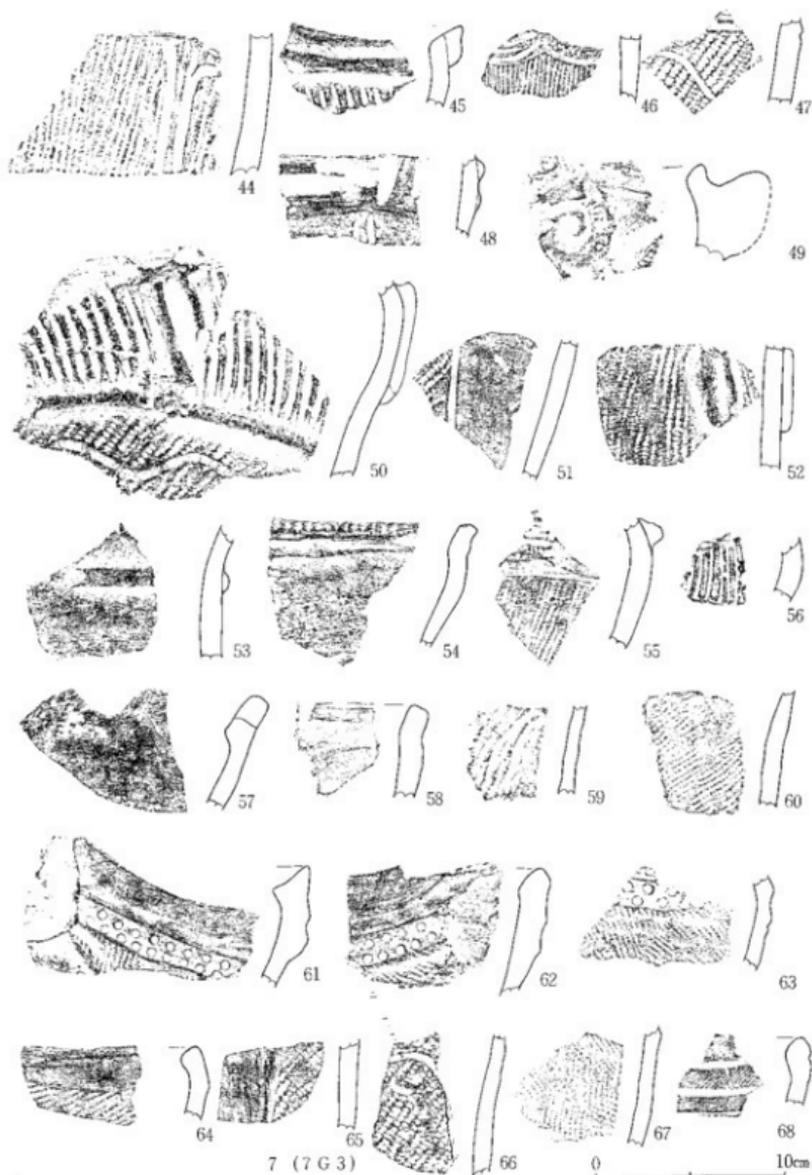
第31图 出土遗物(4) 縄文土器拓影



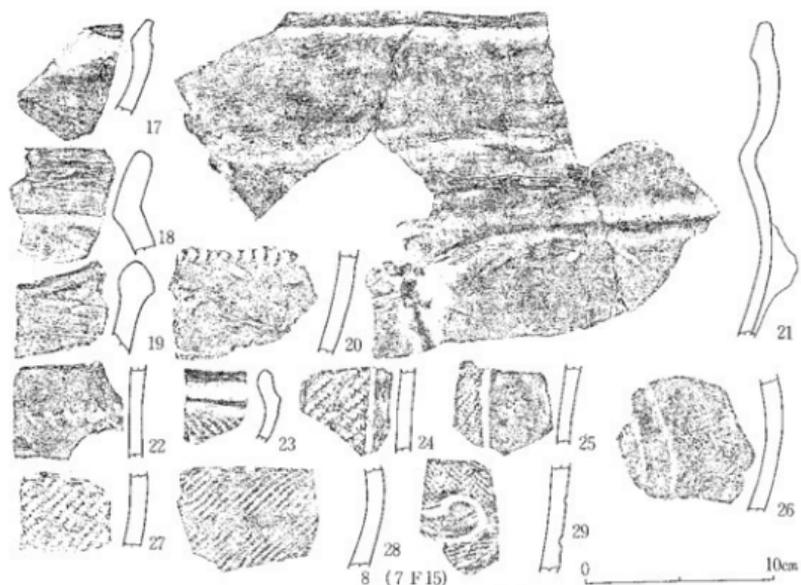
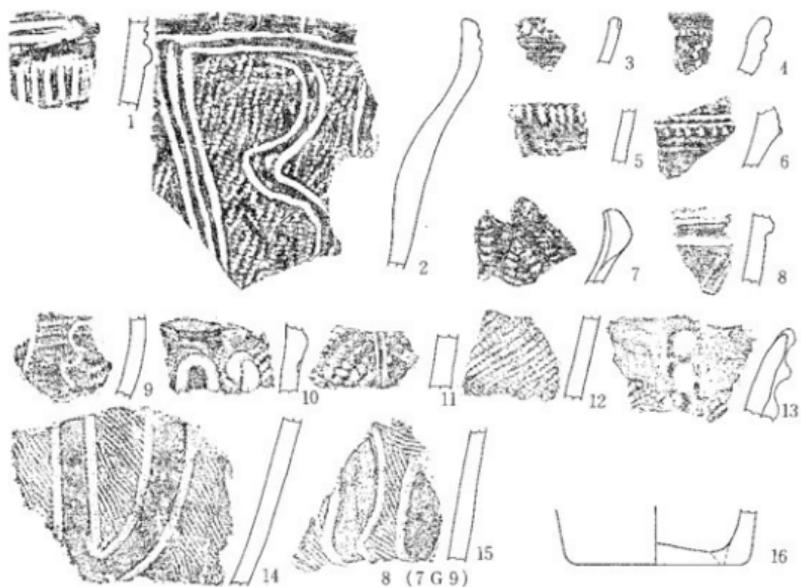
第32圖 出土遺物(5) 縄文土器拓影



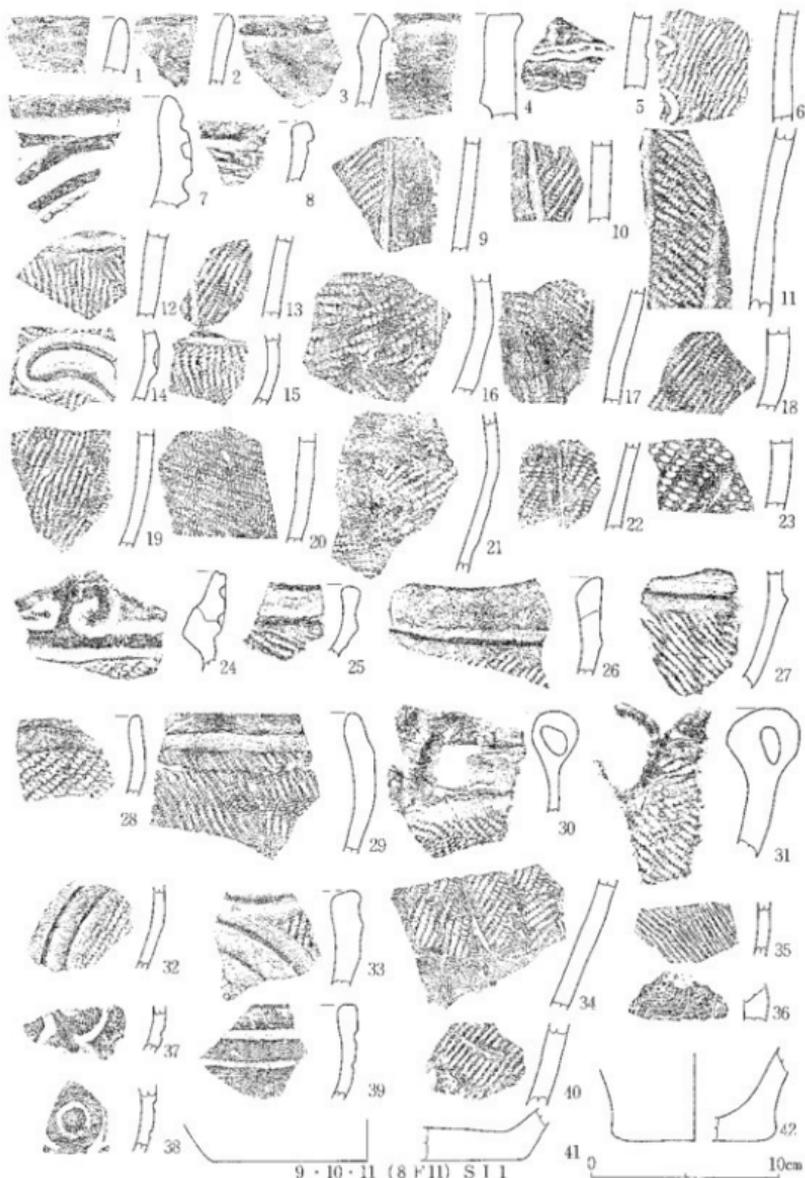
第33圖 出土遺物 (6) 縄文土器拓影



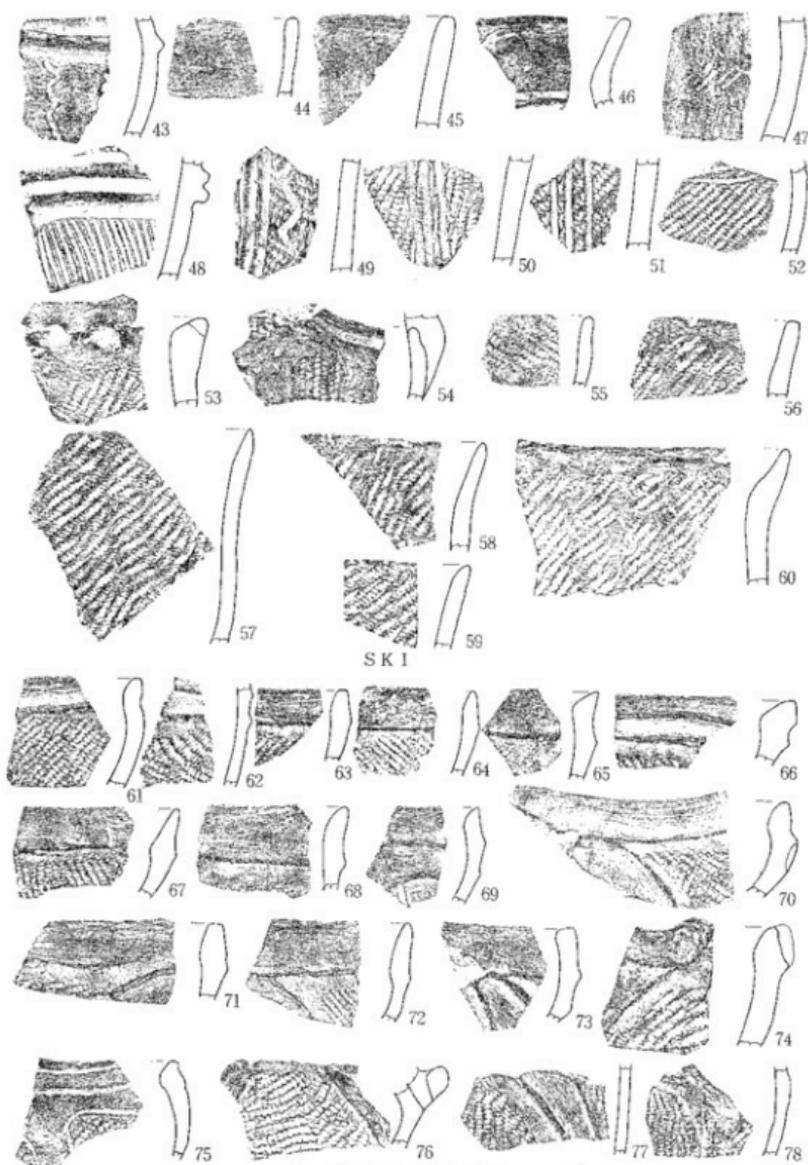
第34团 出土遺物(7) 縄文土器拓影



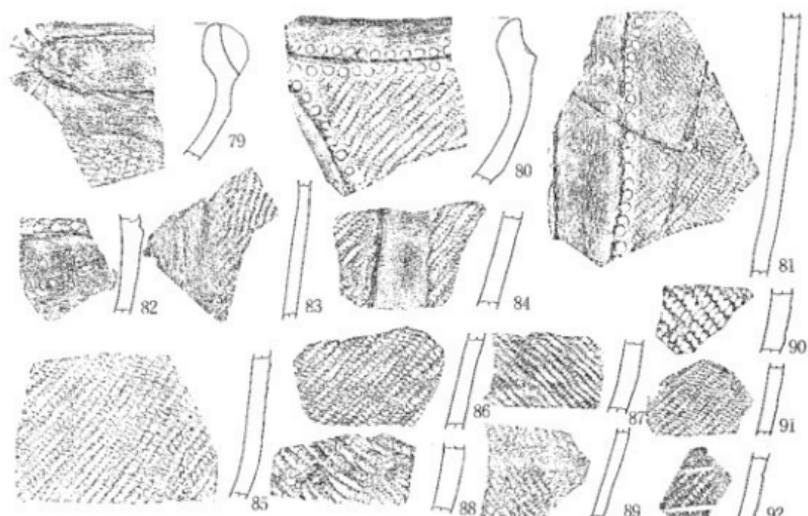
第35图 出土遺物(8) 縄文土器拓影



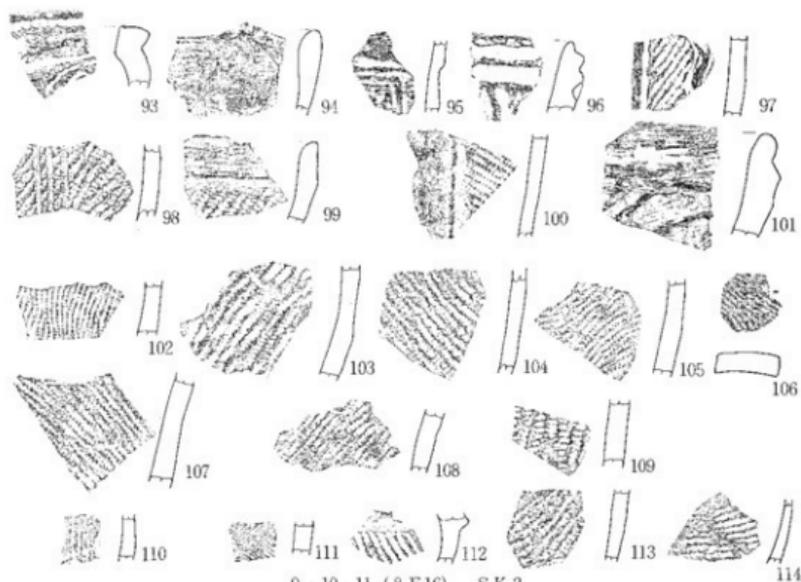
第36图 出土遺物(9) 陶文土器拓影



9・10・11 (8F16) S I I
 第37图 出土遗物 (10) 絹文上器拓影



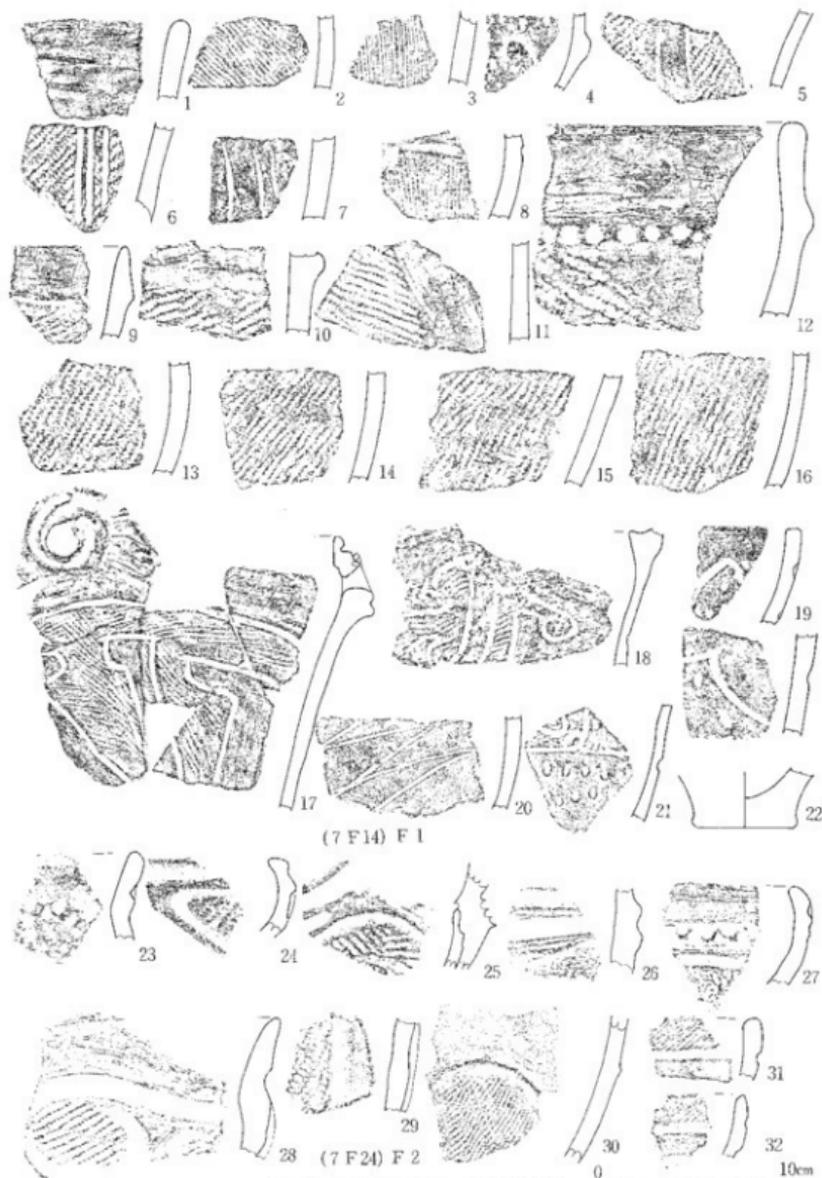
(8 F16) -SK 1



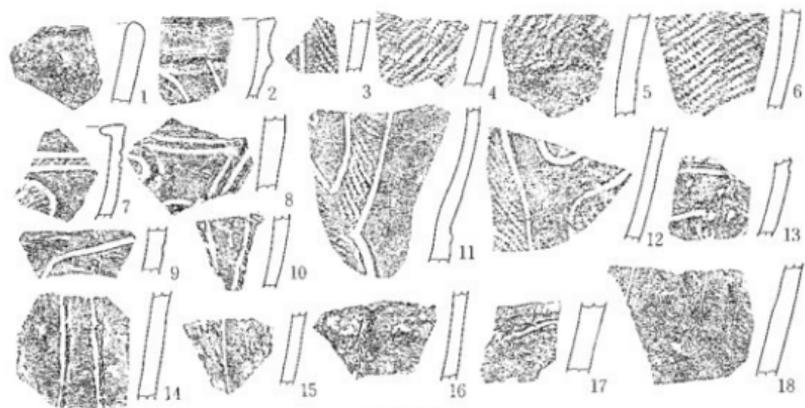
9 · 10 · 11 (8 F16) -SK 2

0 10cm

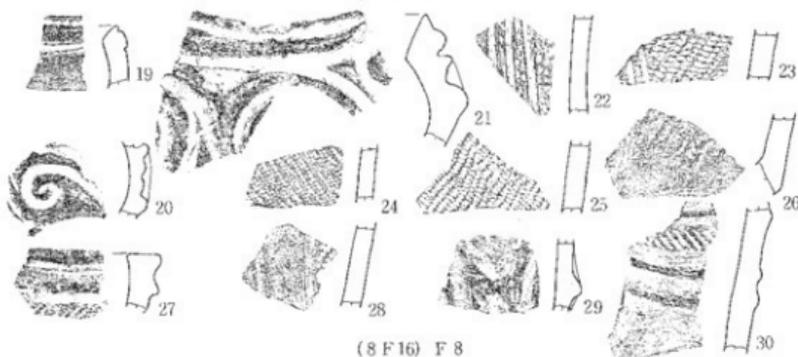
第384 出土遺物 (11) 縄文土器拓影



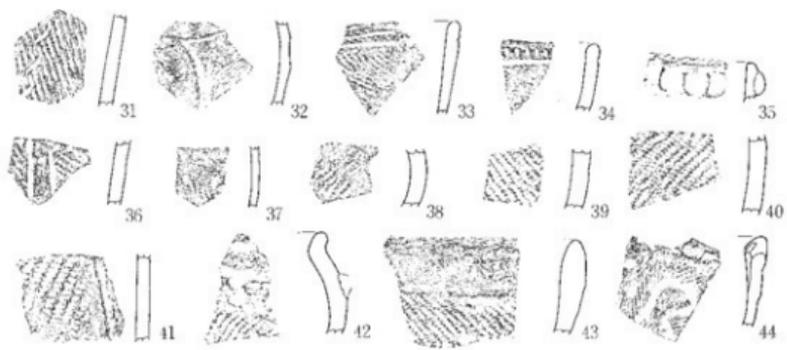
第39图 出土遺物 (12) 縄文土器拓影



(7 F 15) F 7



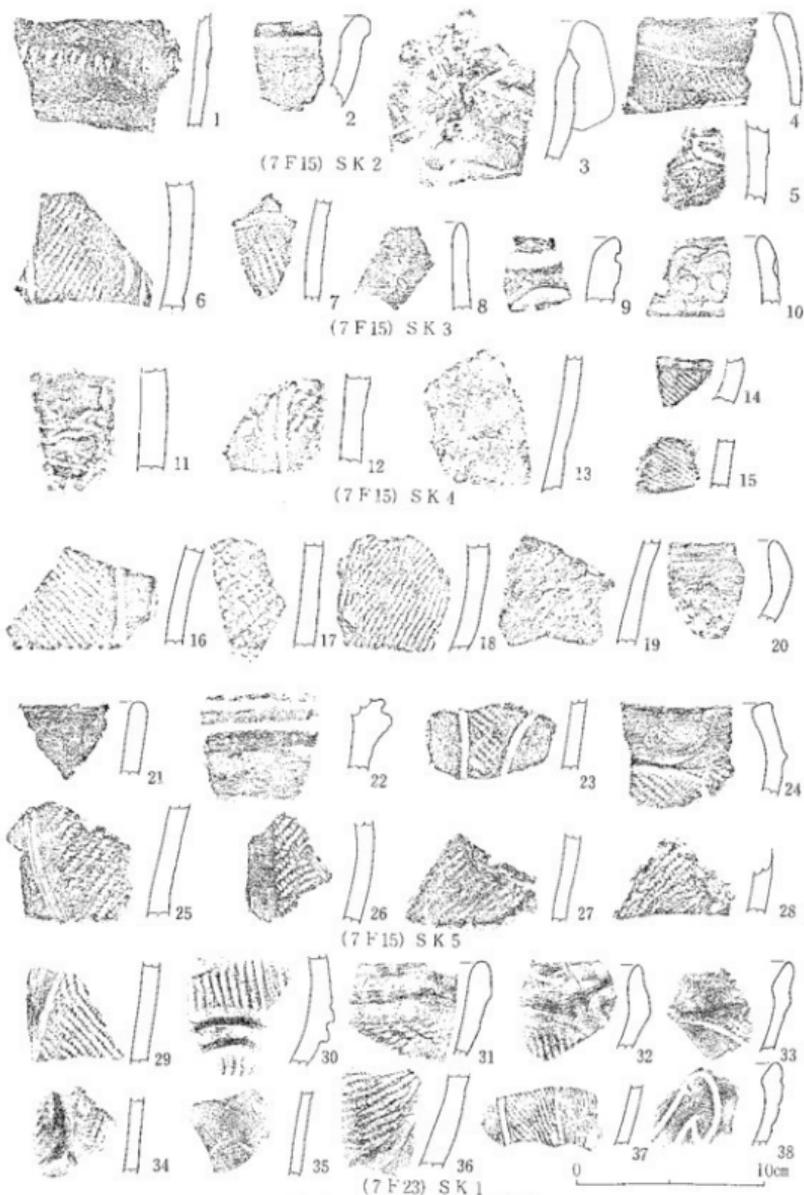
(8 F 16) F 8



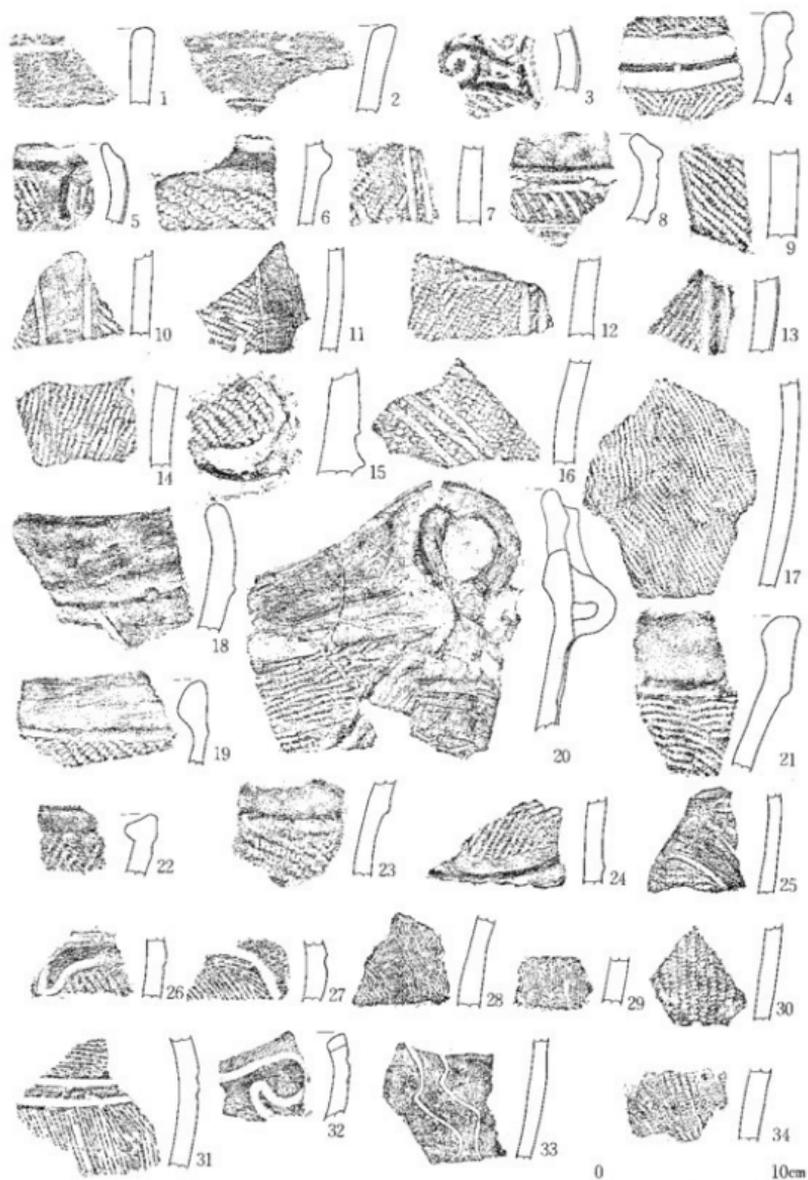
(8 F 21) SK 1

0 10cm

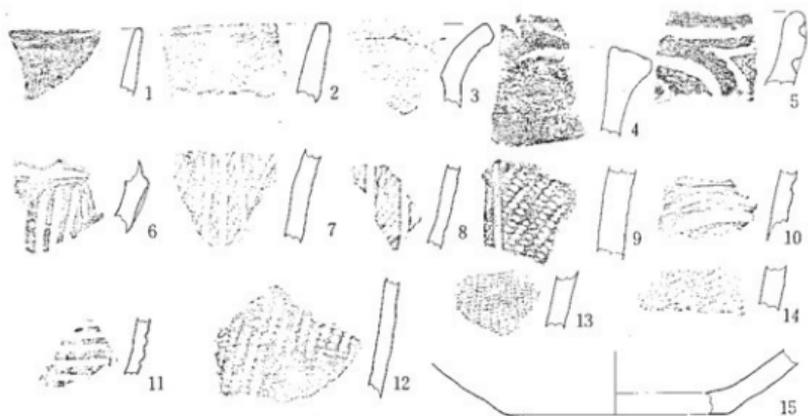
第40图 出土遺物 (13) 縄文土器拓影



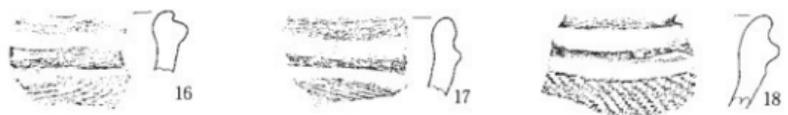
第41图 出土遺物 (14) 縄文土器拓影



第42圖 出土遺物 (15) 繩文土器拓影



(7F24) SK 2 . SK 3



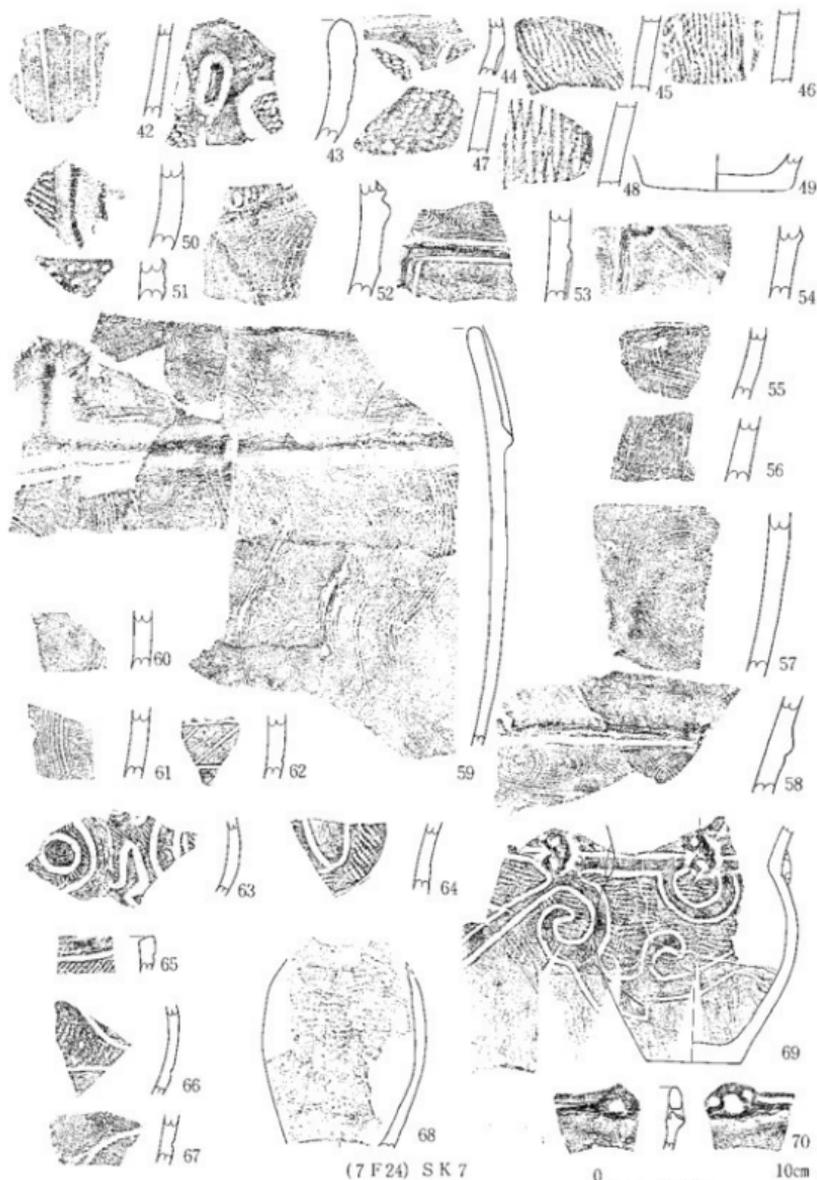
(7F23) SK 5



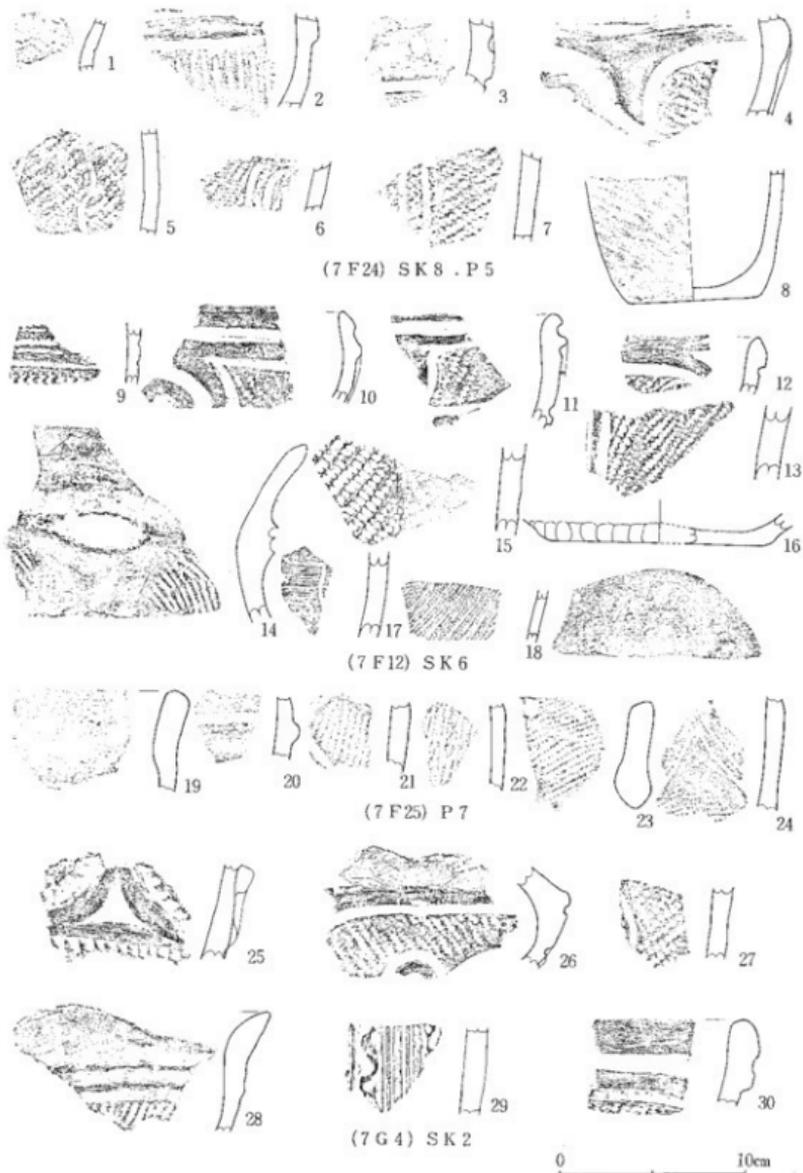
(7F23) SK 7

第43圖 出土遺物 (16) 縄文土器拓影

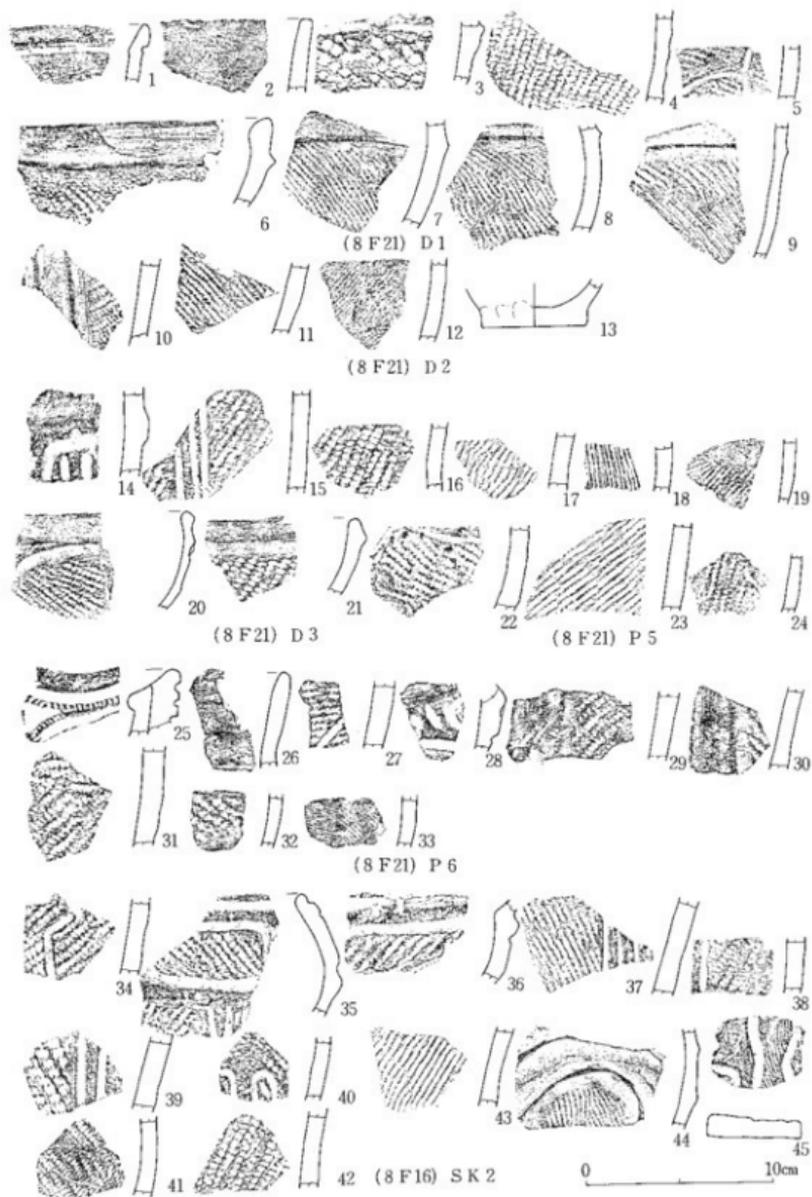
0 10cm



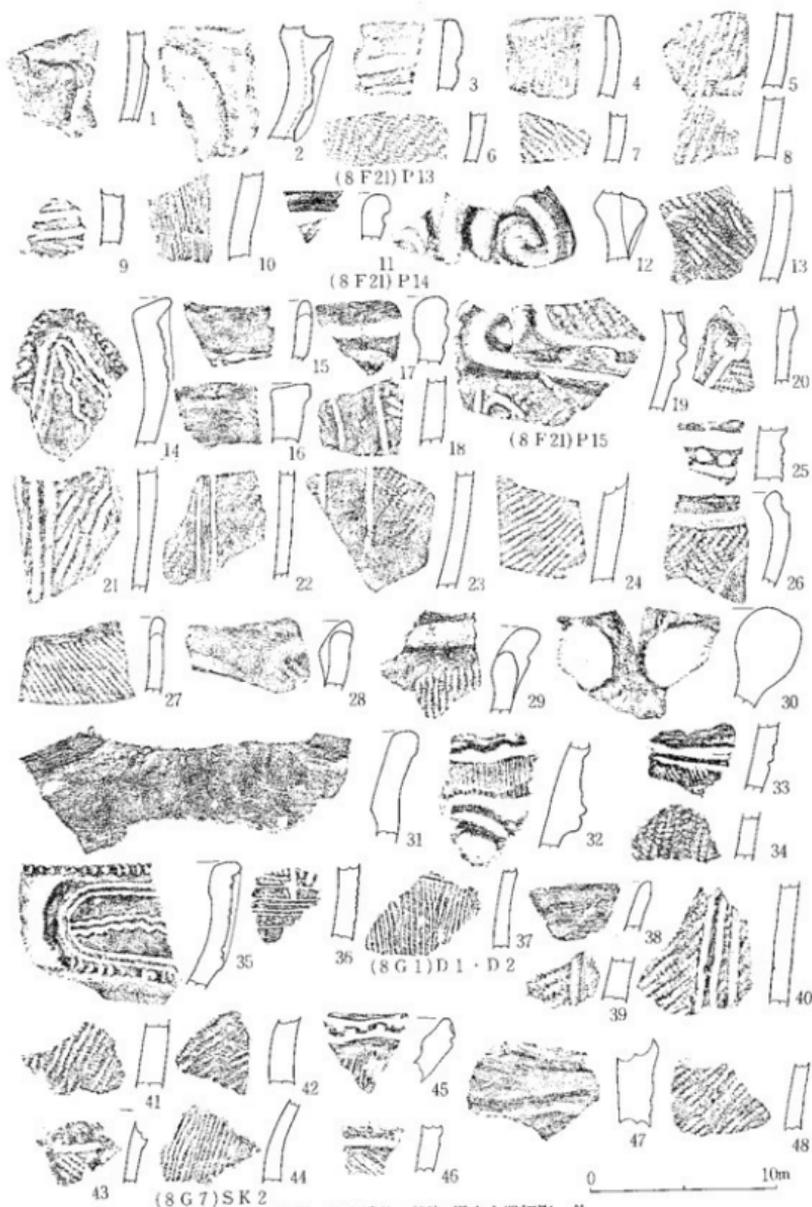
第44圖 出土遺物 (17) 縄文土器拓影



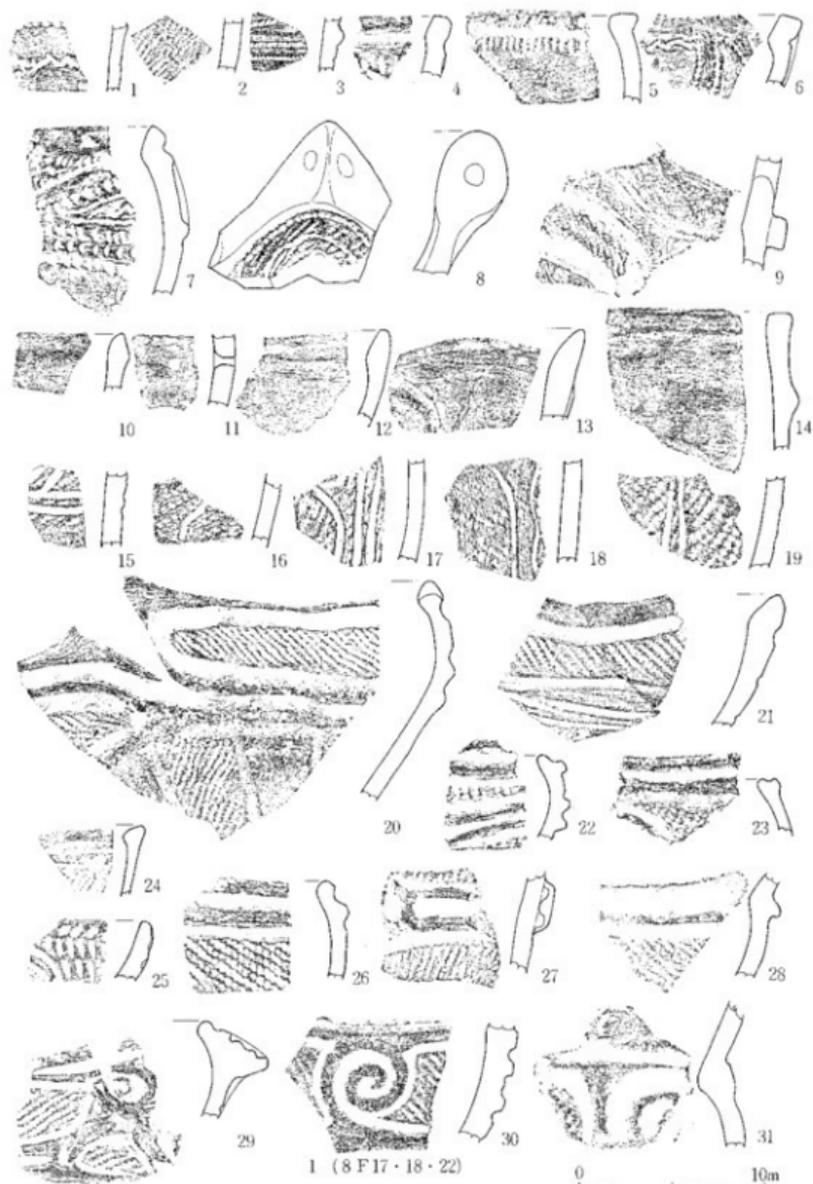
第45図 出土遺物 (18) 縄文土器拓影・他



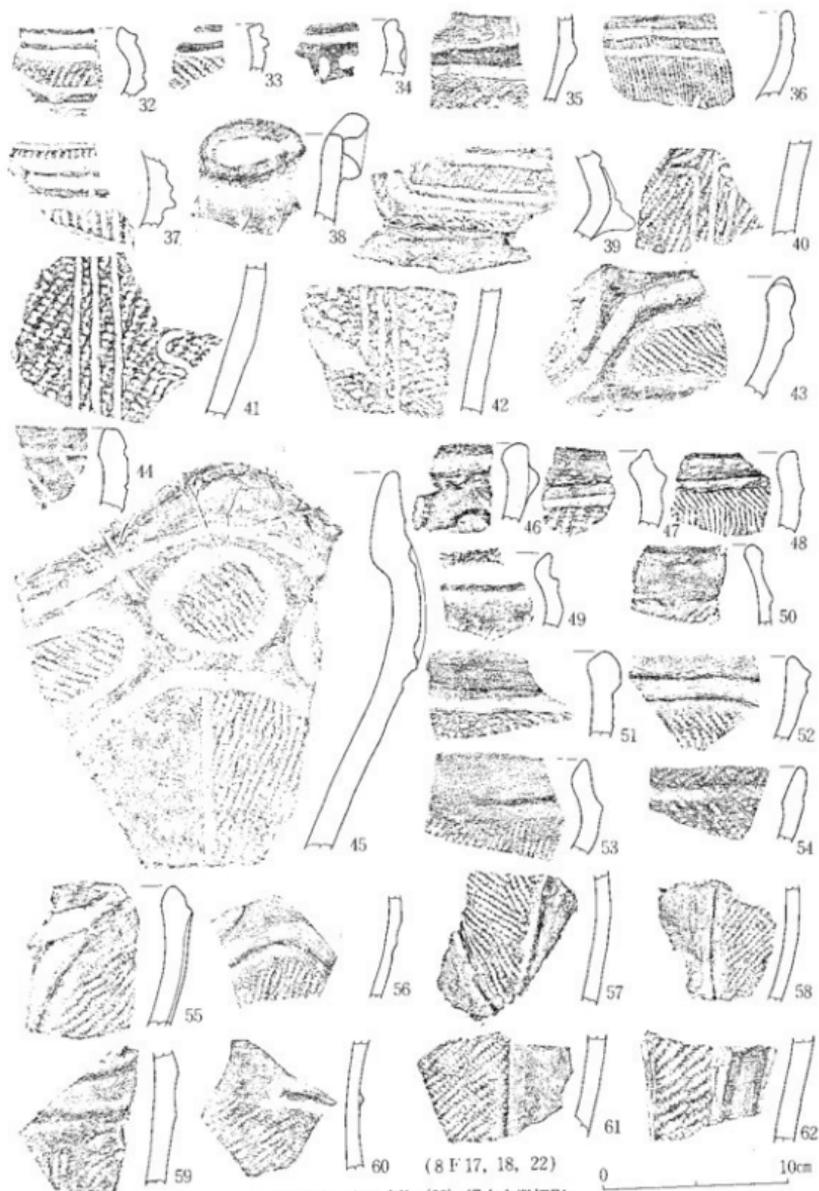
第46図 出土遺物 (19) 縄文土器拓影



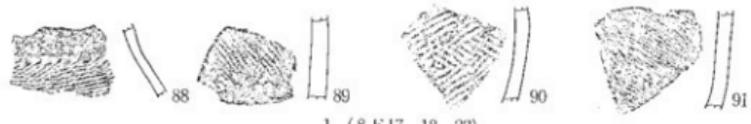
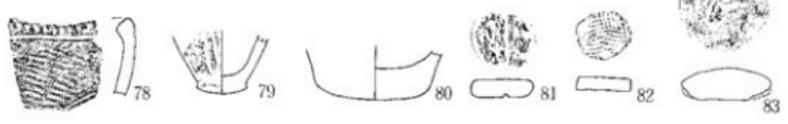
第47图 出土遺物 (20) 縄文土器拓影・他



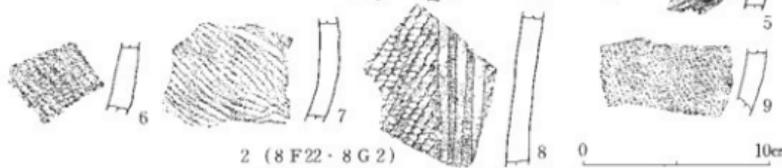
第48图 出土遺物 (21) 縄文土器拓影



第49圖 出土遺物 (22) 縄文土器拓影



1 (8 F 17. 18. 22)



2 (8 F 22 · 8 G 2)

10cm

第50图 出土遺物 (23) 縄文土器拓影・他



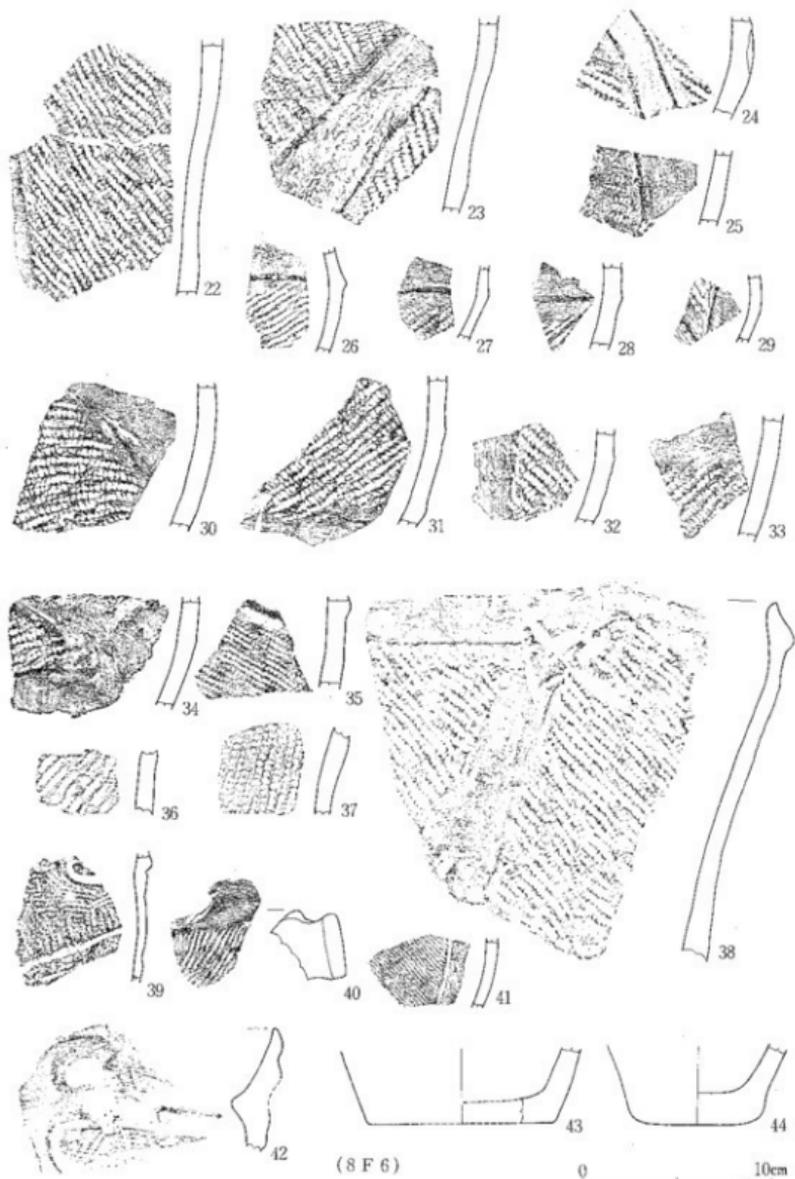
(7 G 13)

0 10cm

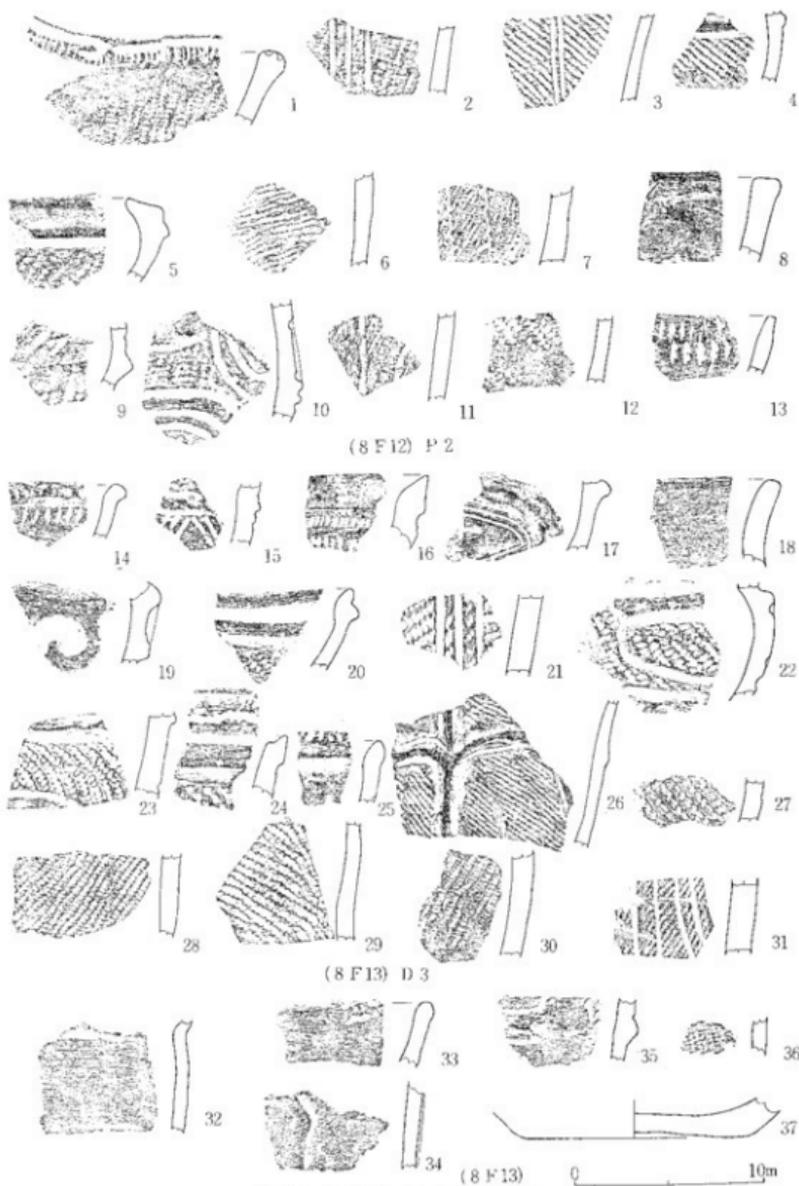
第51图 出土遗物 (24) 縄文土器拓影·他



第52圖 出土遺物 (25) 縄文土器拓影



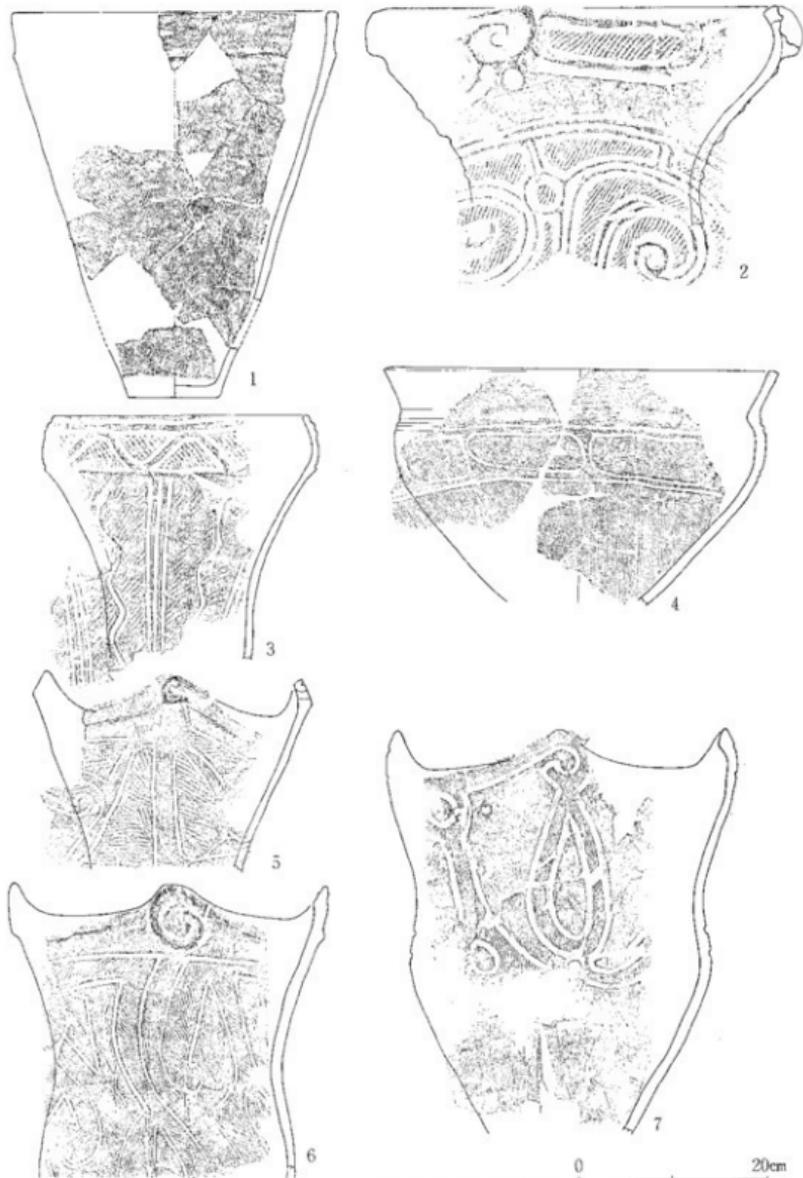
(8 F 6)
 第53图 出土遺物 (26) 縄文土器拓影



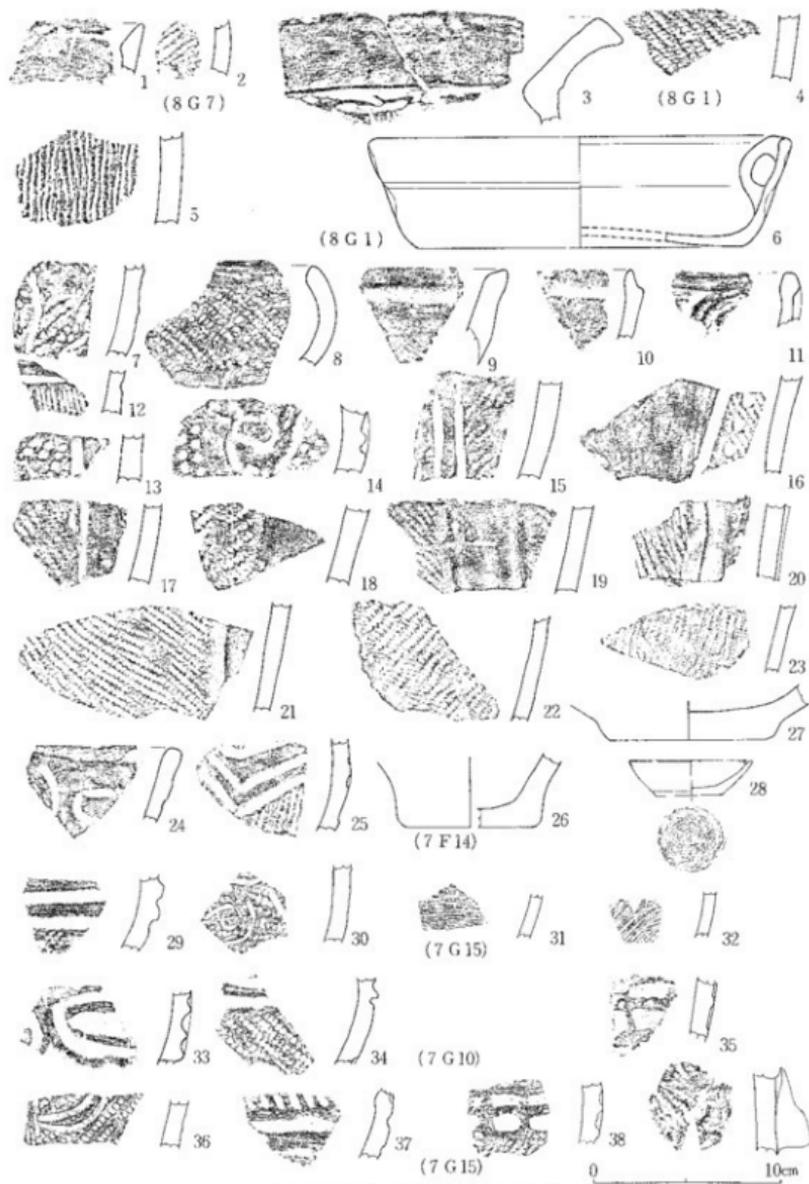
第54图 出土遺物 (27) 縄文土器拓影



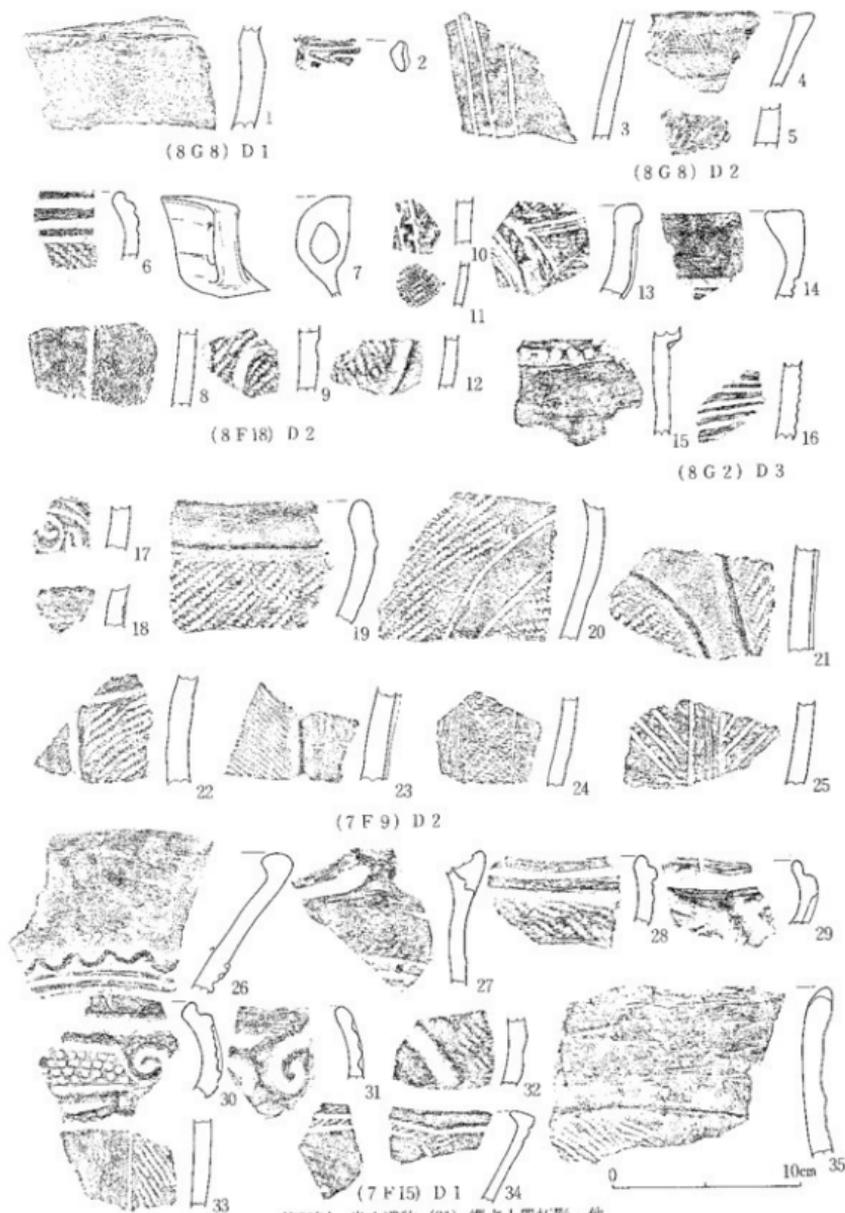
第55圖 出土遺物 (28) 縄文土器拓影



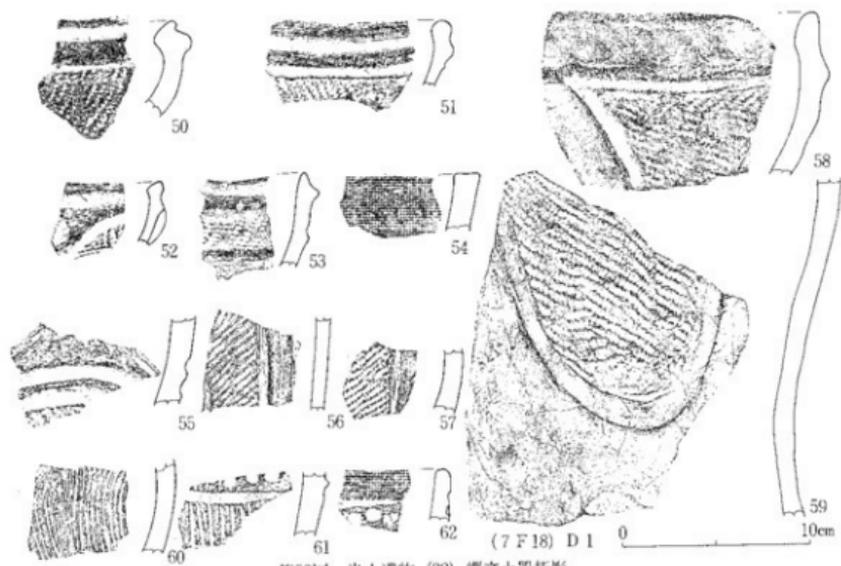
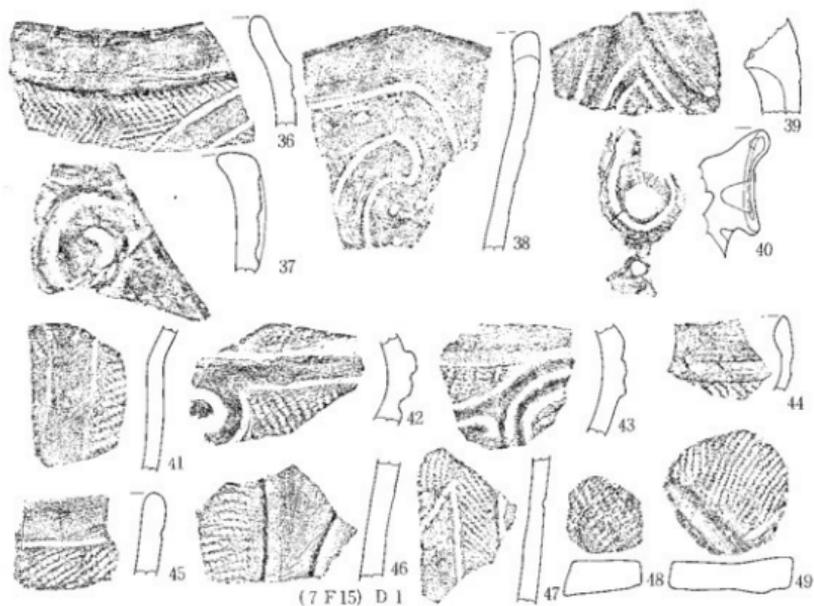
第56图 出土遗物 (29) 绳文土器拓影



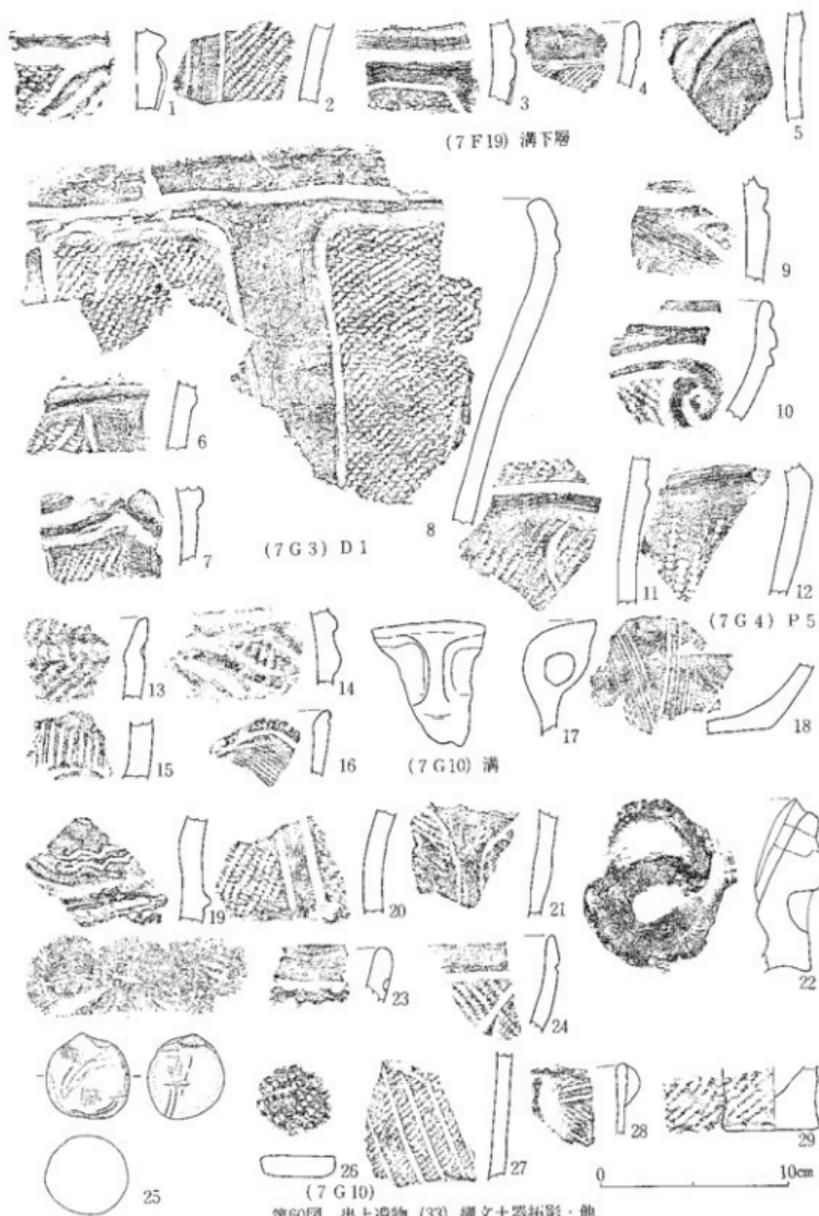
第57図 出土遺物 (30) 縄文土器拓影・他



第58図 出土遺物 (31) 縄文土器拓影・他



第59回 出土遺物 (32) 縄文土器拓影



(7 F 19) 溝下層

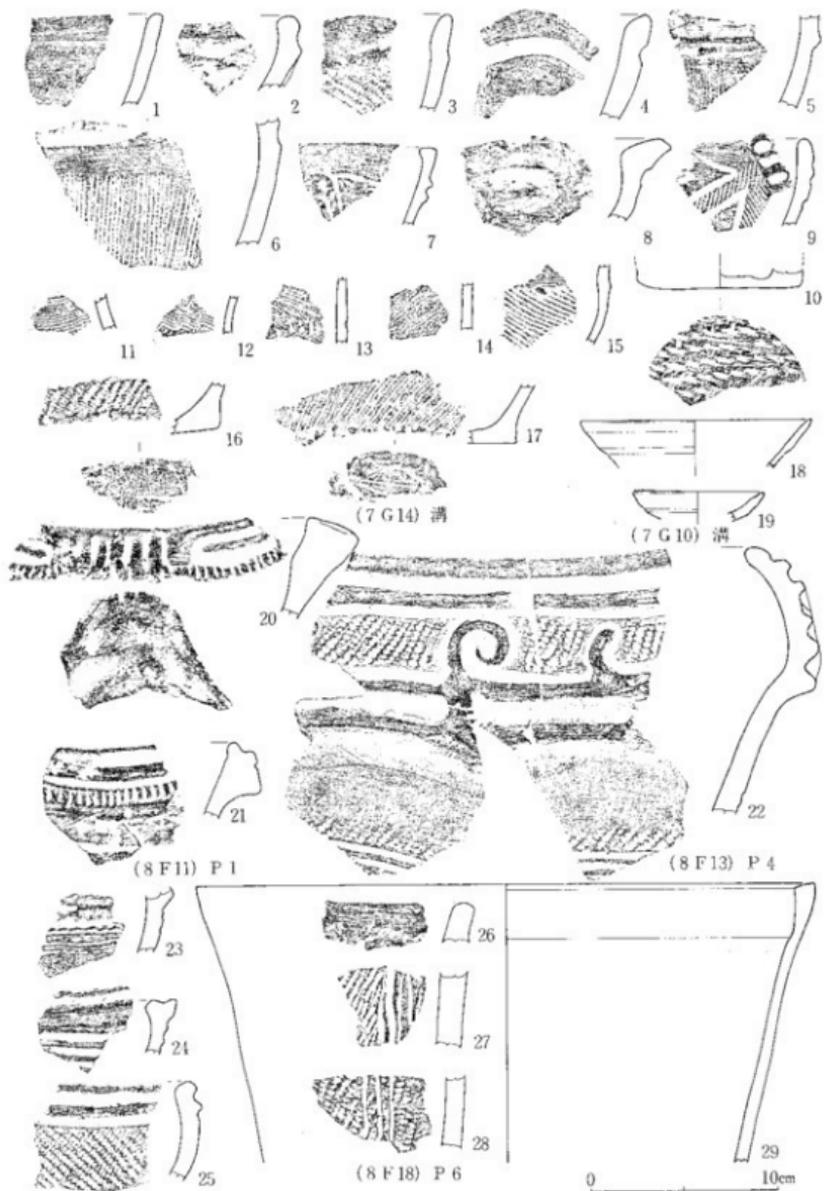
(7 G 3) D 1

(7 G 4) P 5

(7 G 10) 溝

(7 G 10)

第60圖 出土遺物 (33) 縄文土器拓影・他

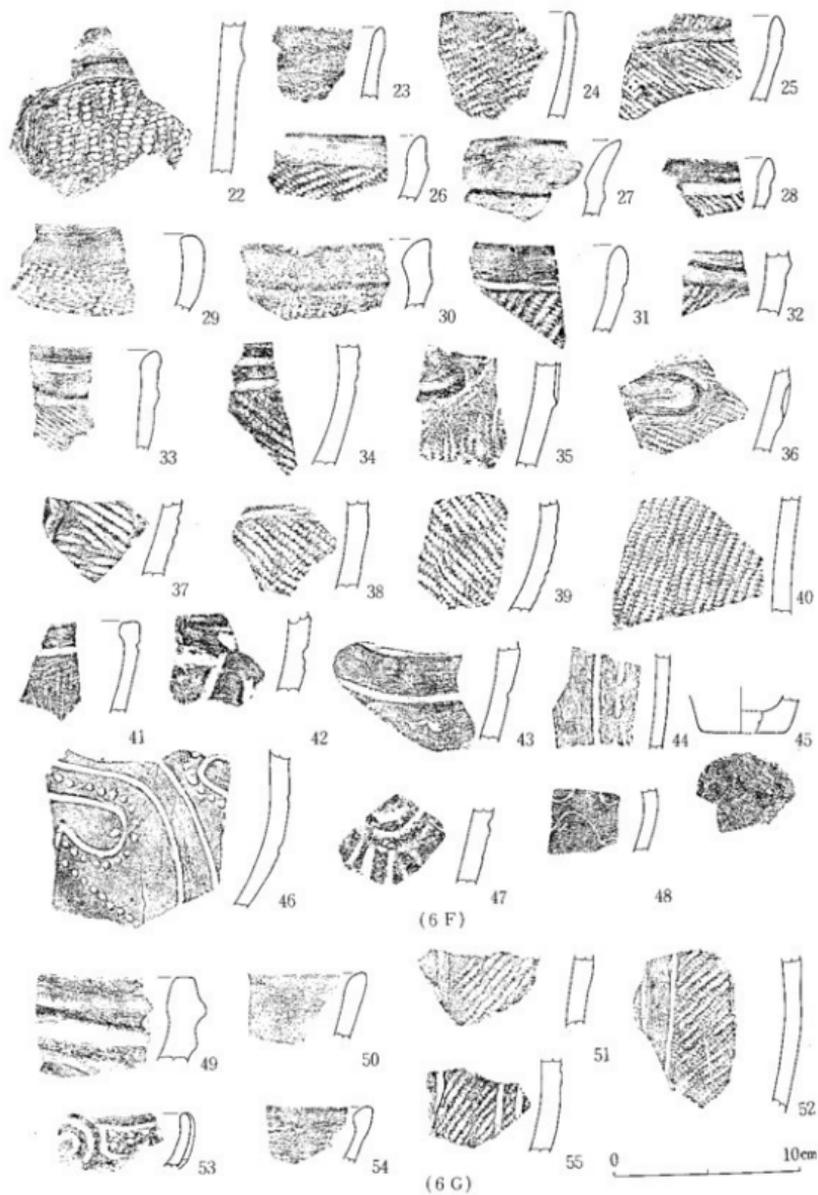


第61图 出土遺物 (34) 縄文土器拓影・他

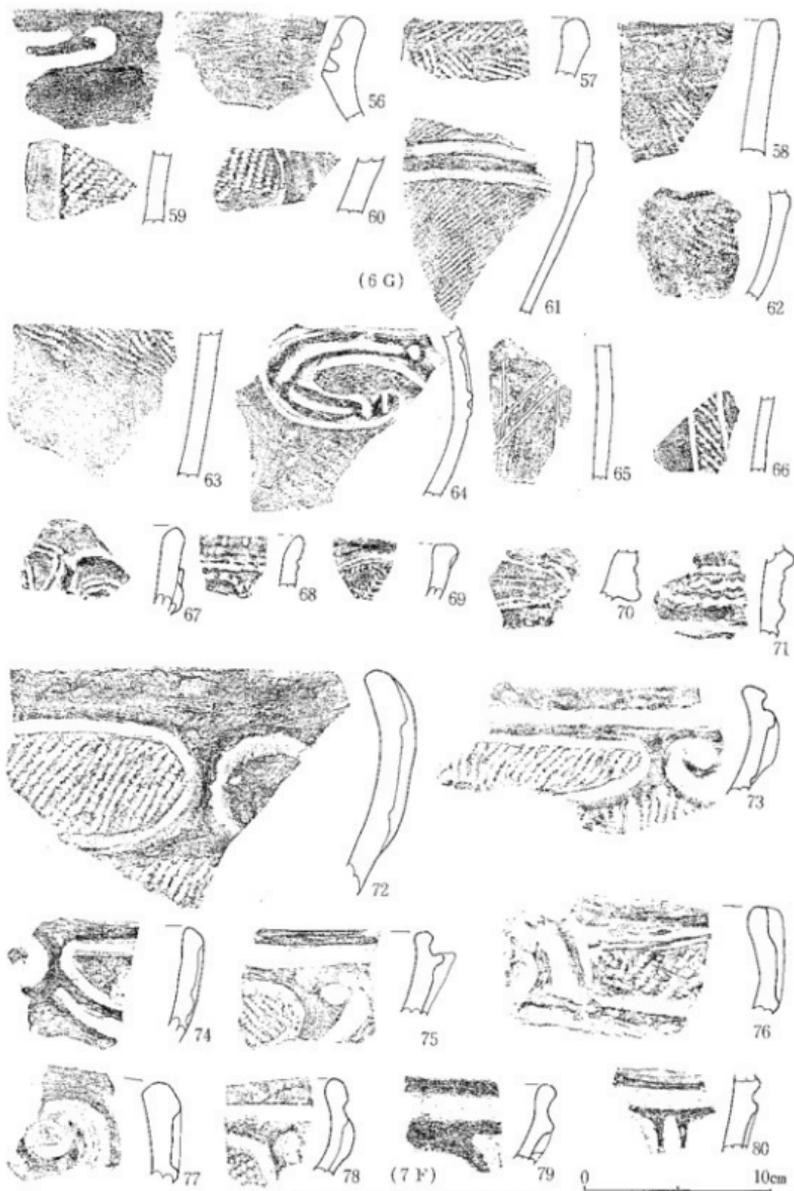


第62図 出土遺物 (35) 縄文土器拓影

0 10cm



第63图 出土遺物 (36) 縄文土器拓影

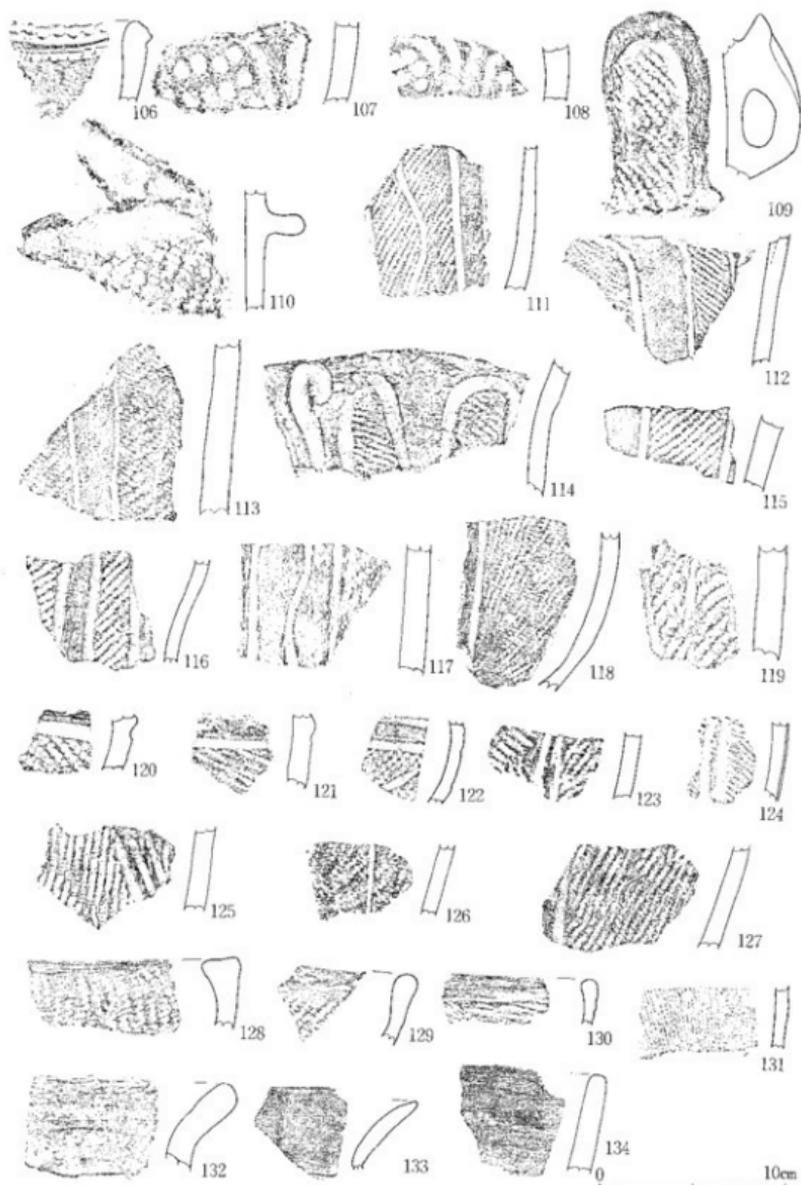


第64图 出土遺物 (37) 縄文土器拓影



(7 F)
 第65b图 出土器物 (38) 绳文土器拓影

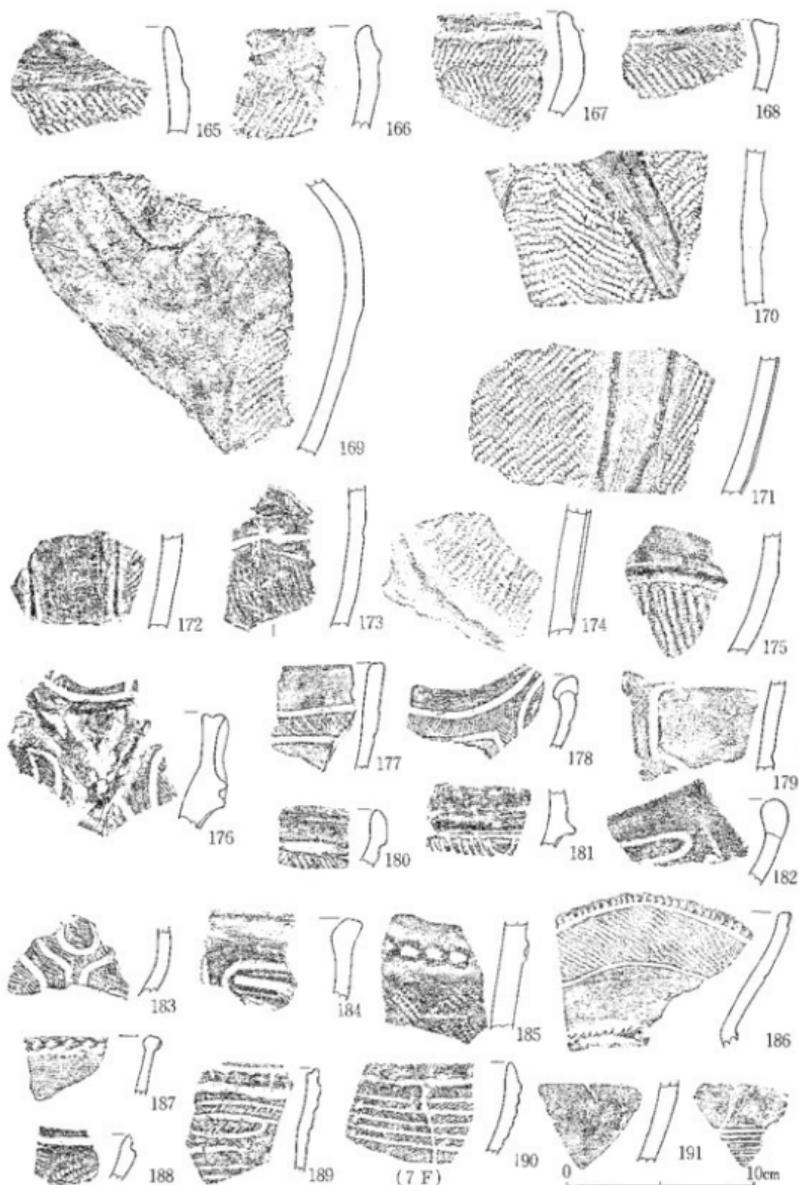
0 10cm



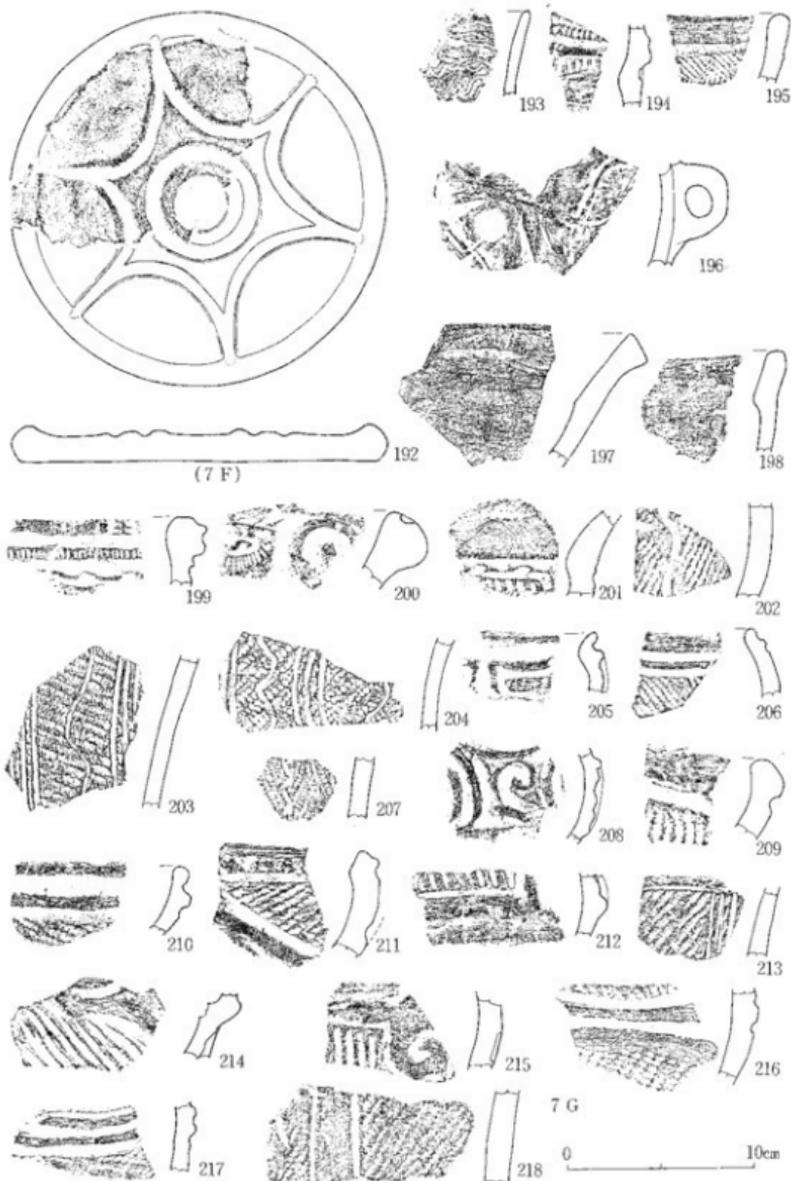
第66图 出土遗物(39) 绳文土器拓影



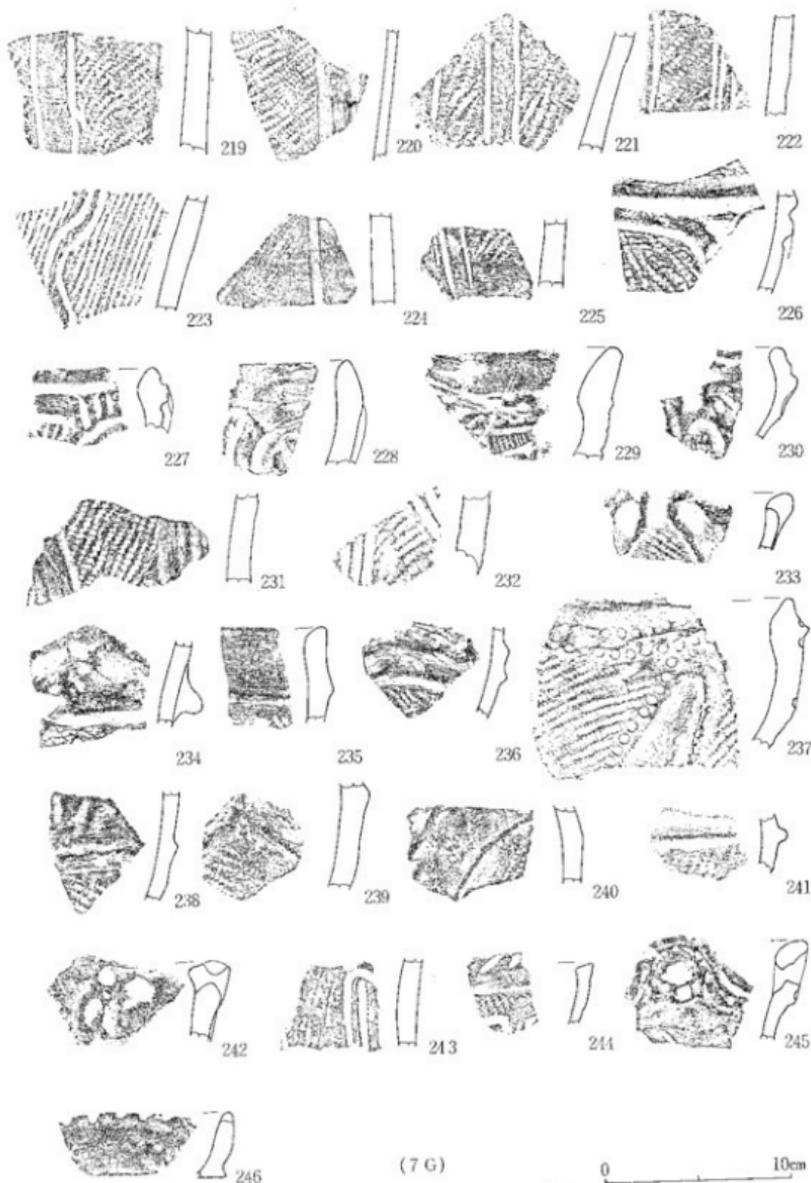
第67圖 出土遺物 (40) 縄文土器拓影



第68圖 出土遺物 (41) 縄文土器拓影



第69圖 出土遺物(42) 縄文土器拓影

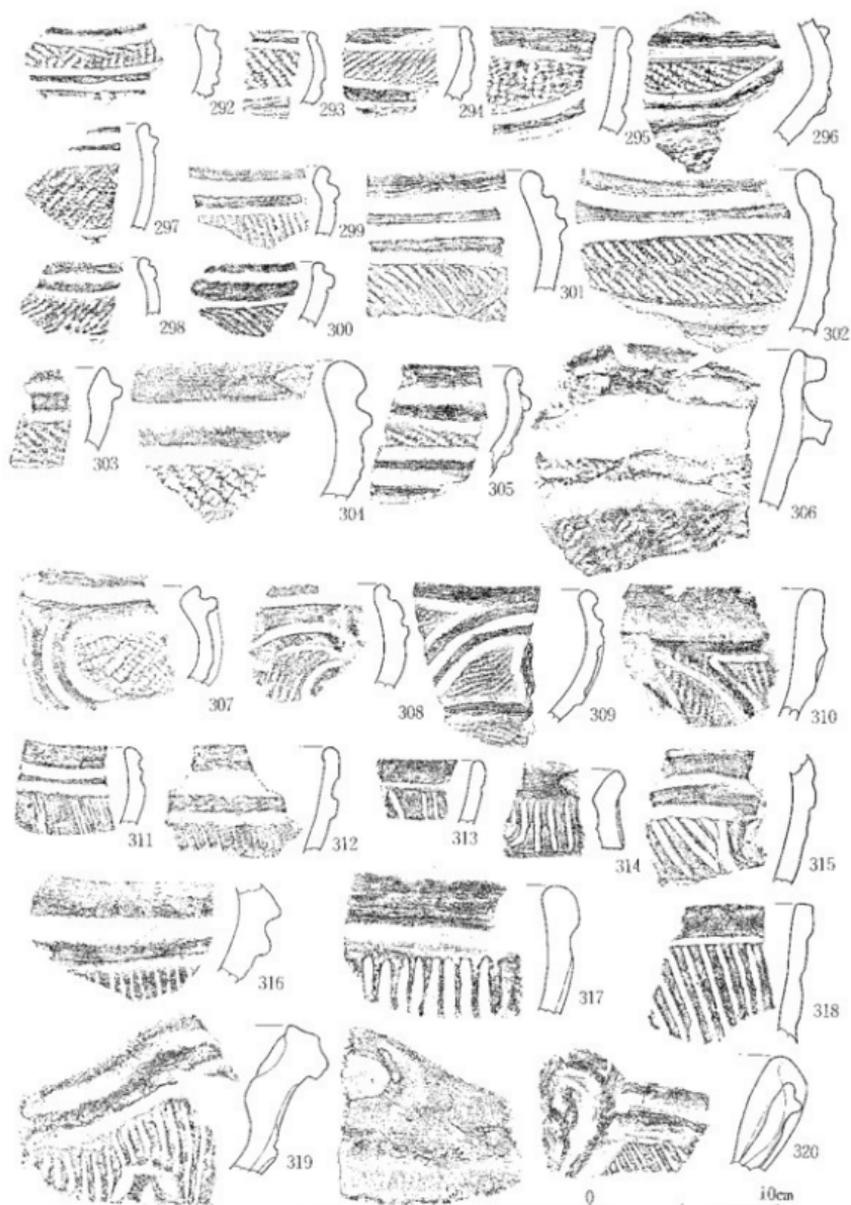


(7 G)

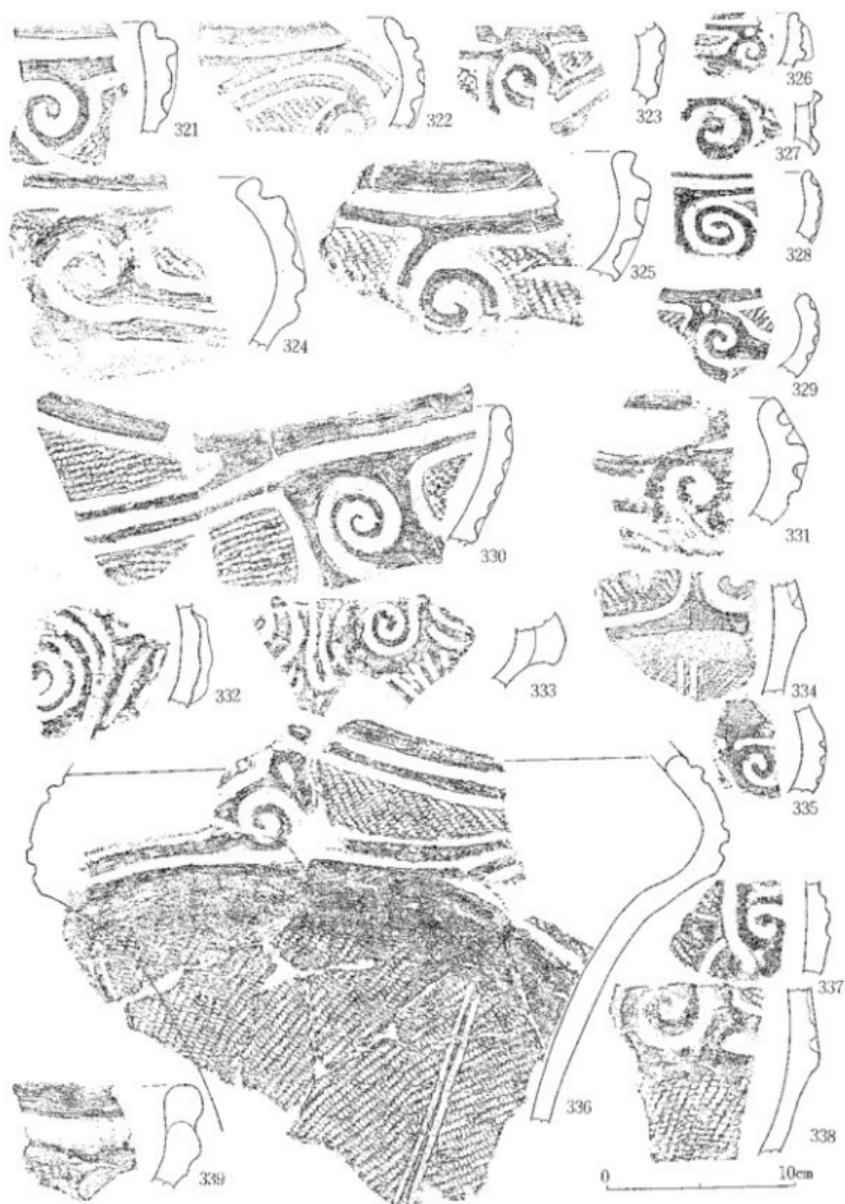
第70图 出土遺物 (43) 縄文土器拓影



第71四 出土遺物(44) 縄文土器拓影



第72圖 出土遺物 (45) 繩文土器拓影



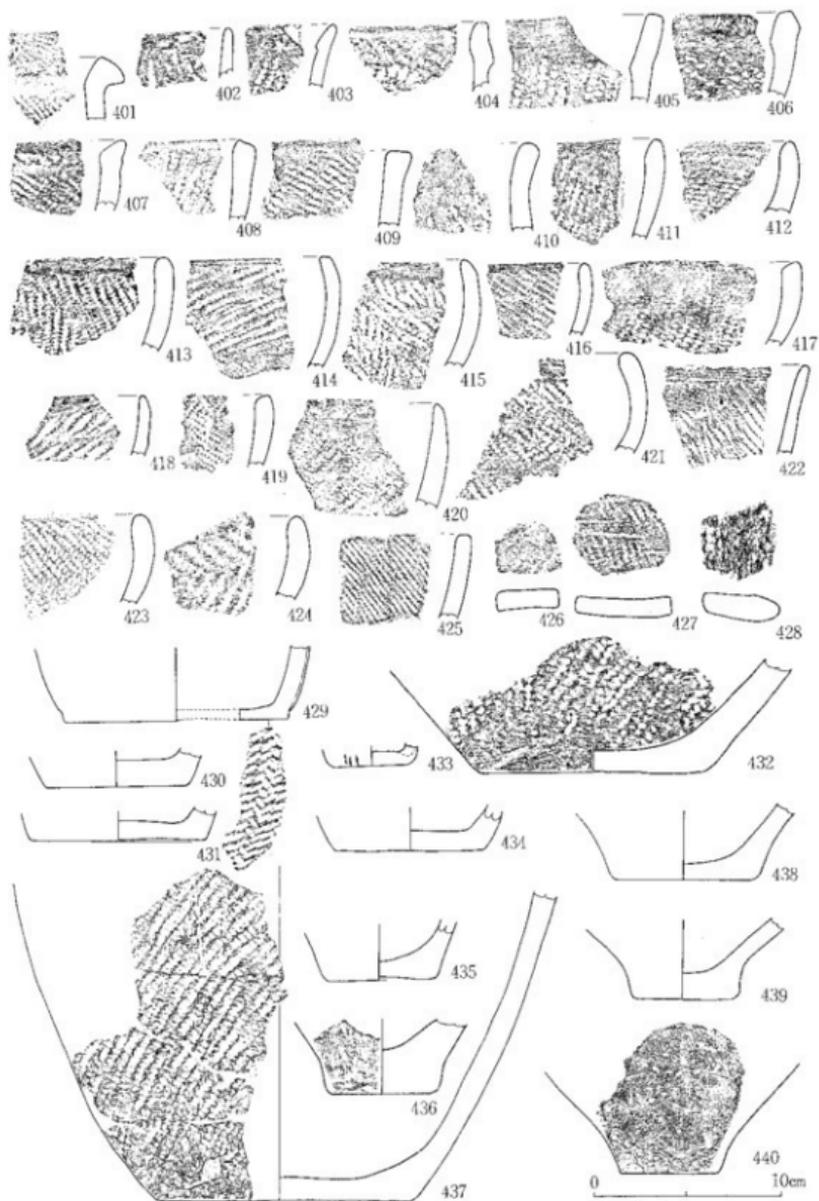
第73图 出土遗物(46) 陶文土器拓影



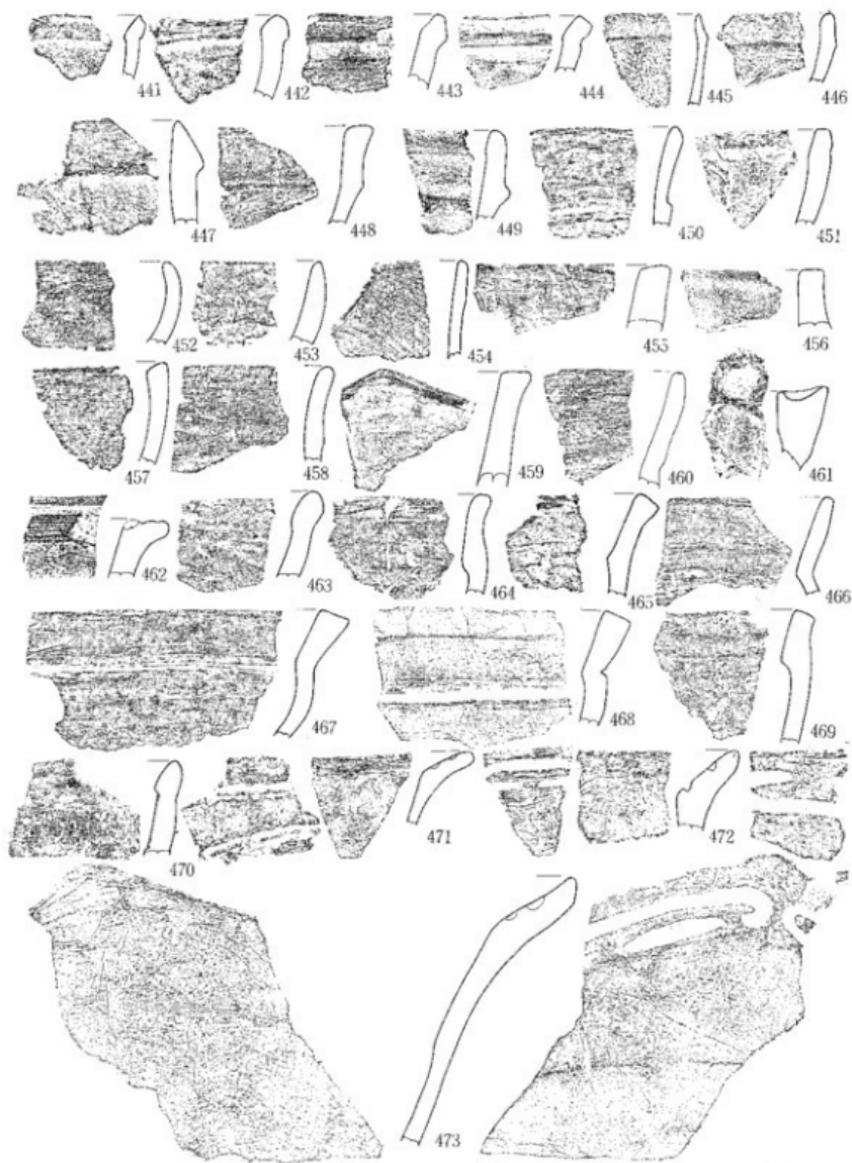
第74图 出土遗物 (17) 绳文土器拓影



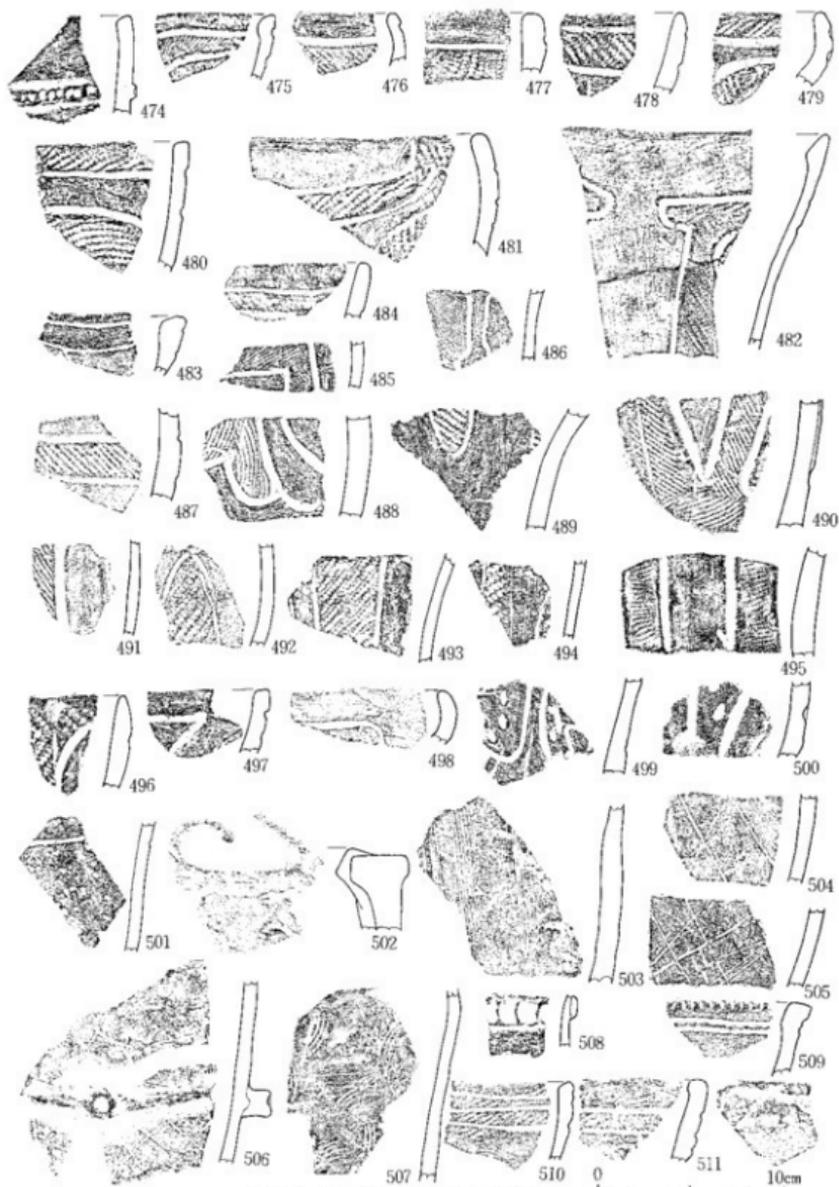
第75図 出土遺物 (48) 縄文土器拓影



第76回 出土遺物 (49) 縄文土器拓影



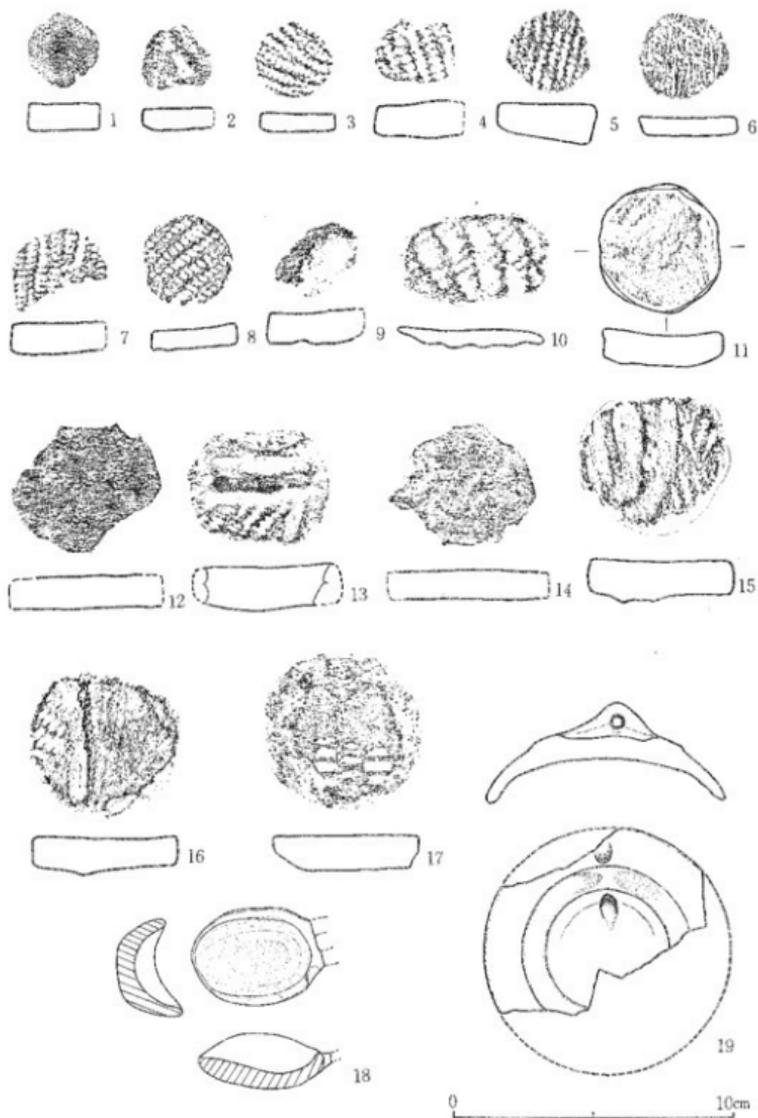
第77図 出土遺物 (50) 縄文土器拓影



第78圖 出土遺物 (51) 縄文土器拓影



第79图 出土遺物 (52) 繩文土器拓影

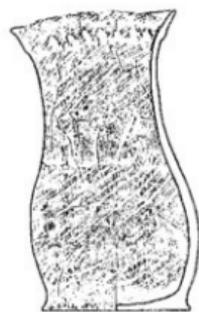


第80回 出土遺物 (53) 土製品

第4章 出土遺物

第1節 旧石器時代の遺物

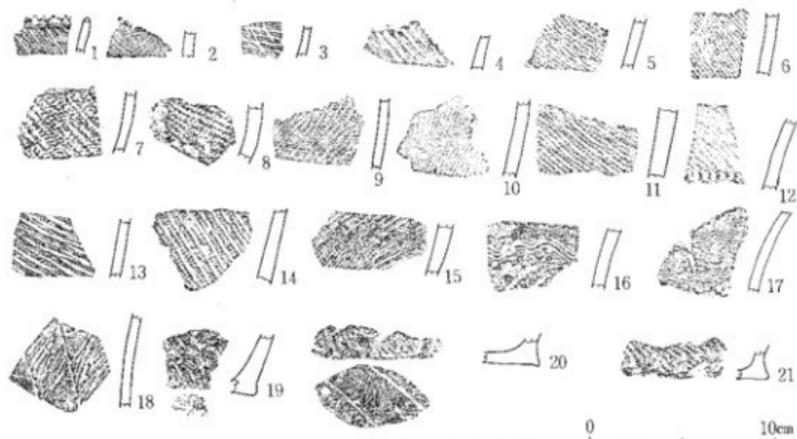
本遺跡内では当初、旧石器は存在しないということであったが、表採資料の中に頁岩の尖頭器（第85図4）が見つかり、その存在の可能性を確信させた。その後も調査中に遺構の中から何点が検出されるに及んで、存在は明確になった。しかし、遺構の重複が著しく、旧石器時代の遺構や遺物をするまでには至らず、今後の課題として残すことにした。検出された遺物はすべて、縄文時代以降の他の遺構を調査中に見つかったものである。第84図1、3は安山岩の石核で、2は剣片、4はやや特異なもので握斧かと思われるが疑問が残るところである。ナイフ形石器（第85図1）、や掻器（2）は片面加工で、尖頭器（3、4）は両面加工で一部を欠く。この他にチャート製の彫器（6）や刮器（8）もみられるが、黒曜石の製品は少ない。なお、剣片や他の石器についてはさらに検討する必要があると思われる。



弥生土器（住岡跡1出土）

第2節 縄文時代の遺物

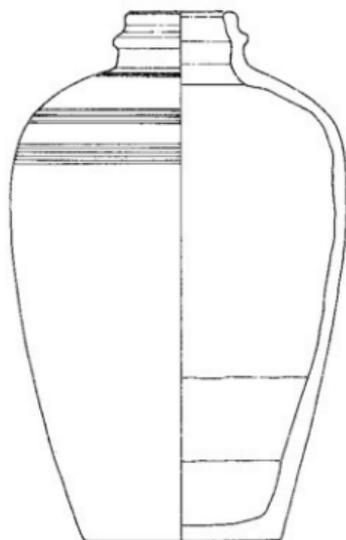
本遺跡では旧石器時代から歴史時代まで長い期間にわたって生活が営まれており、各時代の遺物が検出されているが、縄文時代の遺物が最も多く、含持遺跡の中心をなしている。



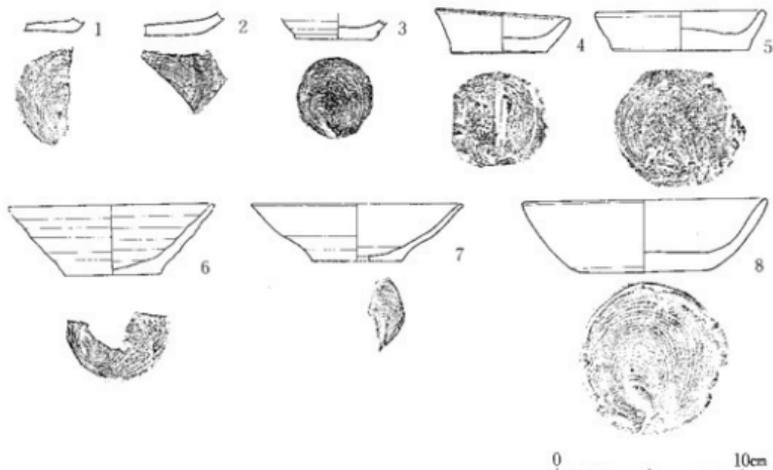
第81図 出土遺物 (54) 弥生土器

一年次の調査では縄文時代早期のものから晩期に至るまでの土器が検出されているが、二年次の調査では中、後期の土器がほとんどで、特に中期後半から後期前半のものが多くみられる。土器の型式分類については最終的な検討を待って結論を出す予定なので、今回は資料報告にとどめておく。土器は遺構から出土したものを先に載せて、その他のものはグリッドごとにまとめて後に載せた。出土資料の報告ということで細かい説明は加えず、できるだけ多くの資料を掲載することに努めたが、土器の中には東北の縄文土器の影響を受けたものや信州、南関東地方の影響を受けているものも少なくない。これ等の詳細な研究調査に関しては、今後推し進めていく予定である。

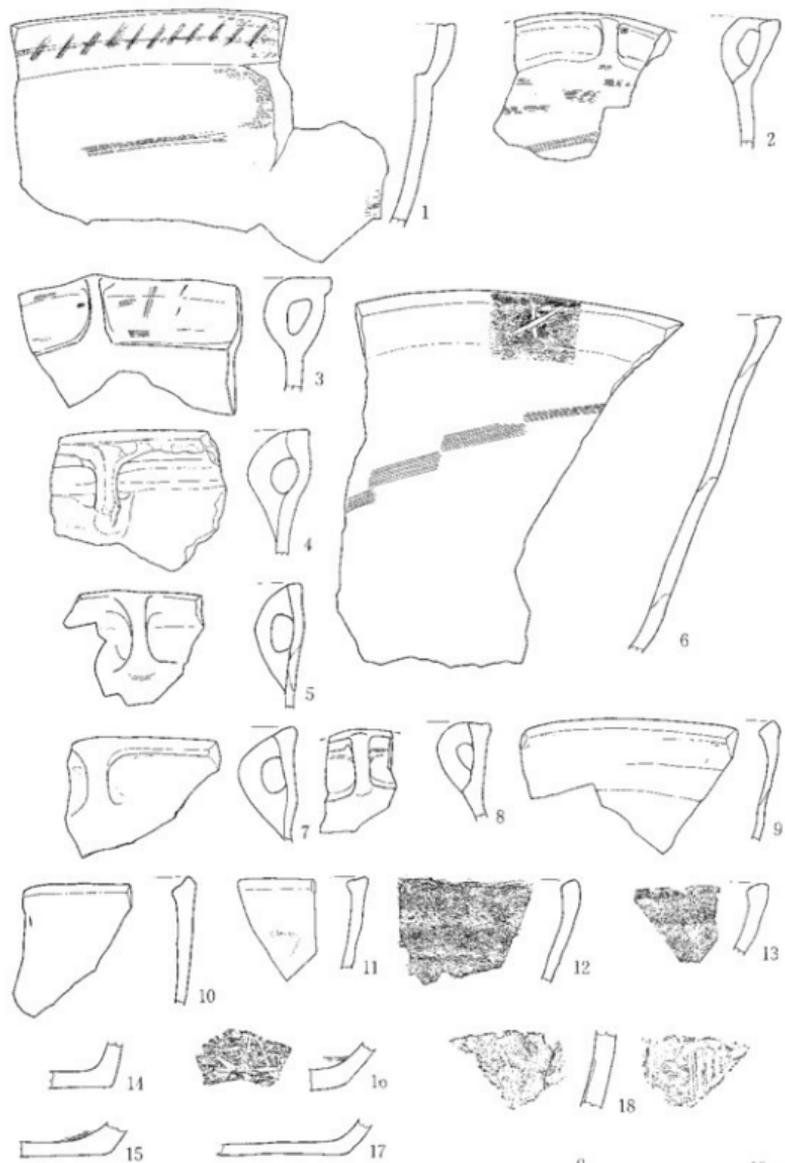
石器については、石鏃や石斧（打製・磨製）、磨石、凹石等が多く、中期後半から後期にかけての遺



瓶子 (8 F12P 4 出土)

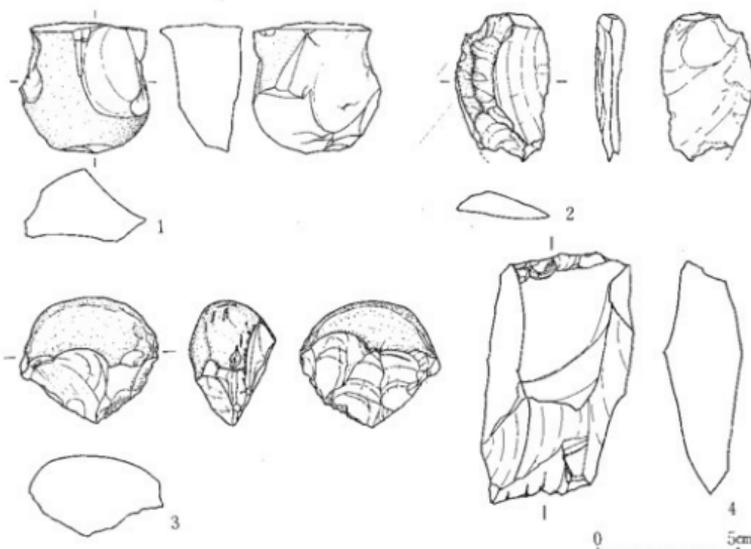


第82図 出土遺物 (55) 灯明皿・杯形土器



第83図 出土遺物 (56) 内耳・摺り鉢

0 10cm



第84図 出土遺物 (59) 石器実測図(1)

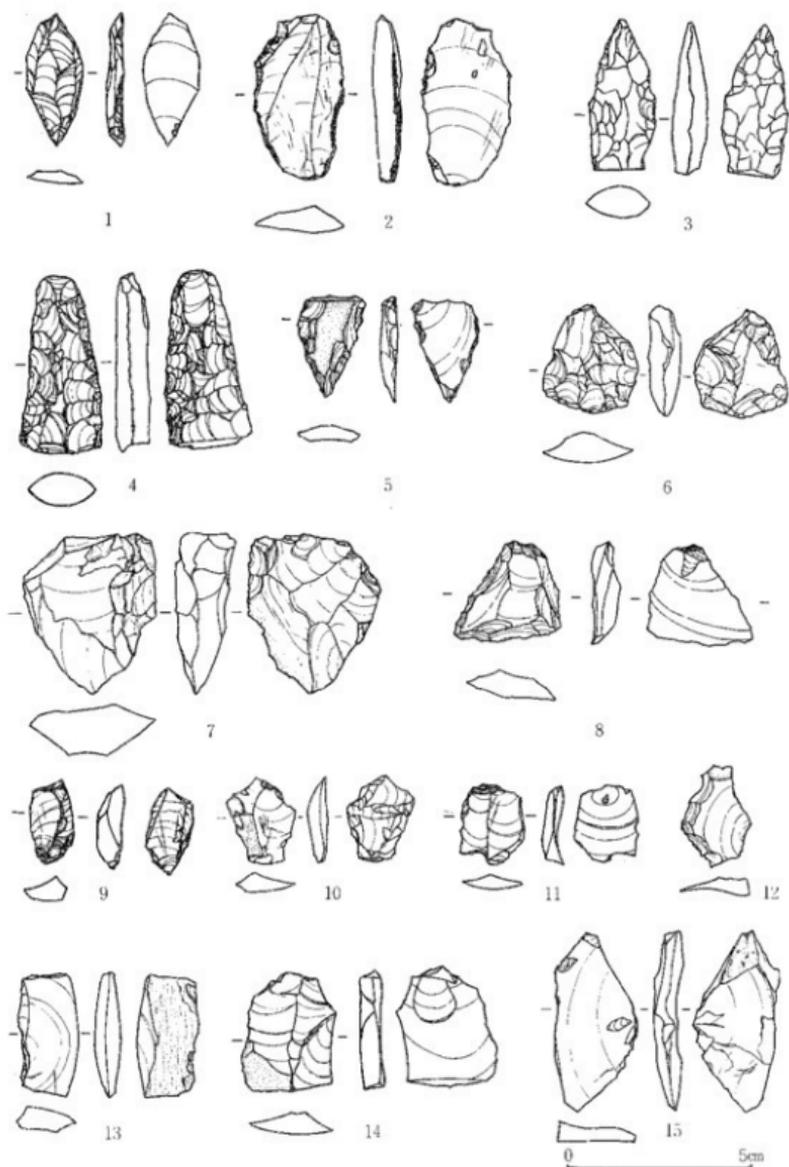
跡の性格を知る上で貴重である。特に叩き石等については、石器の打削や調整等にも使用されるもので、丸い河原礫の端部に使用痕がみられる。他には石錘、石皿、石棒（凹石と兼用）、装飾品の大珠がある。石錘は1点のみ見つかっている。土製品では土製円盤が多く、他に蓋形やスプーン形のもの、縄文を施した土製丸玉等用途不明のものも検出されている。

第3節 弥生・古墳時代の遺物

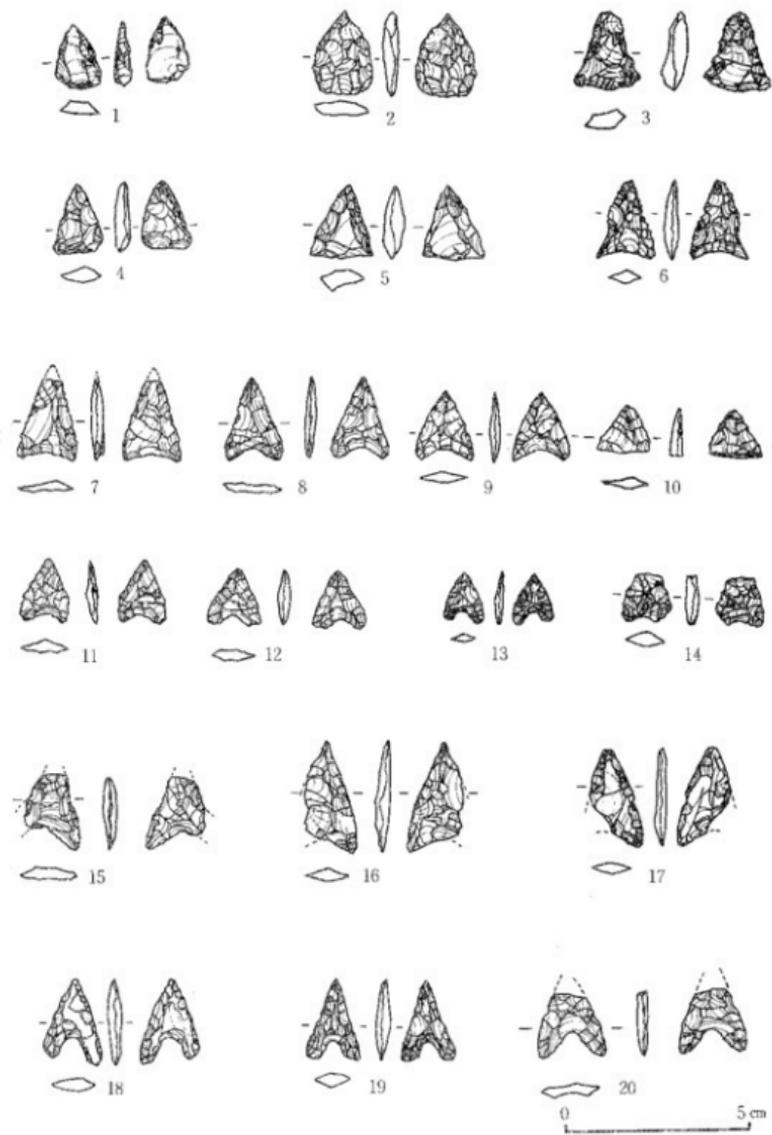
弥生時代、古墳時代の遺物は土器片以外はほとんどみられない。一年次の調査では方形周溝墓の溝から古式の土師器（壺）や器台、刀子等が検出されているが、今回の調査では、弥生時代、古墳時代の遺構が少ないこともあるが、遺構に伴う遺物もほとんど検出されていない。

第4節 歴史時代の遺物

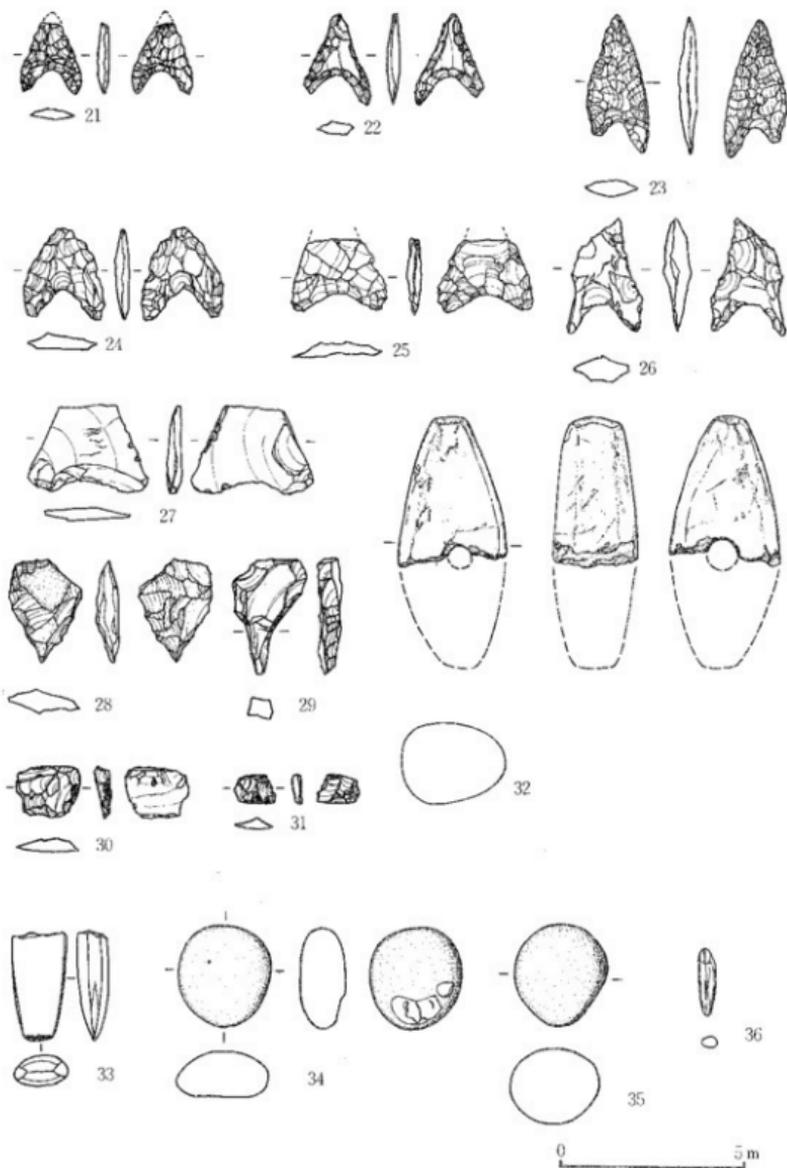
歴史時代のものと考えられる遺構は少なく、遺物もそれ程多くない。遺構に伴うものとしては土壌4の杯類、P4(8F12)の三筋壺（瓶子）や内耳土器で、他には摺り鉢片等の陶器片、青磁片、灯明皿、石臼等で極くわずかである。なお、古銭（寛永通宝）も1枚検出されている。



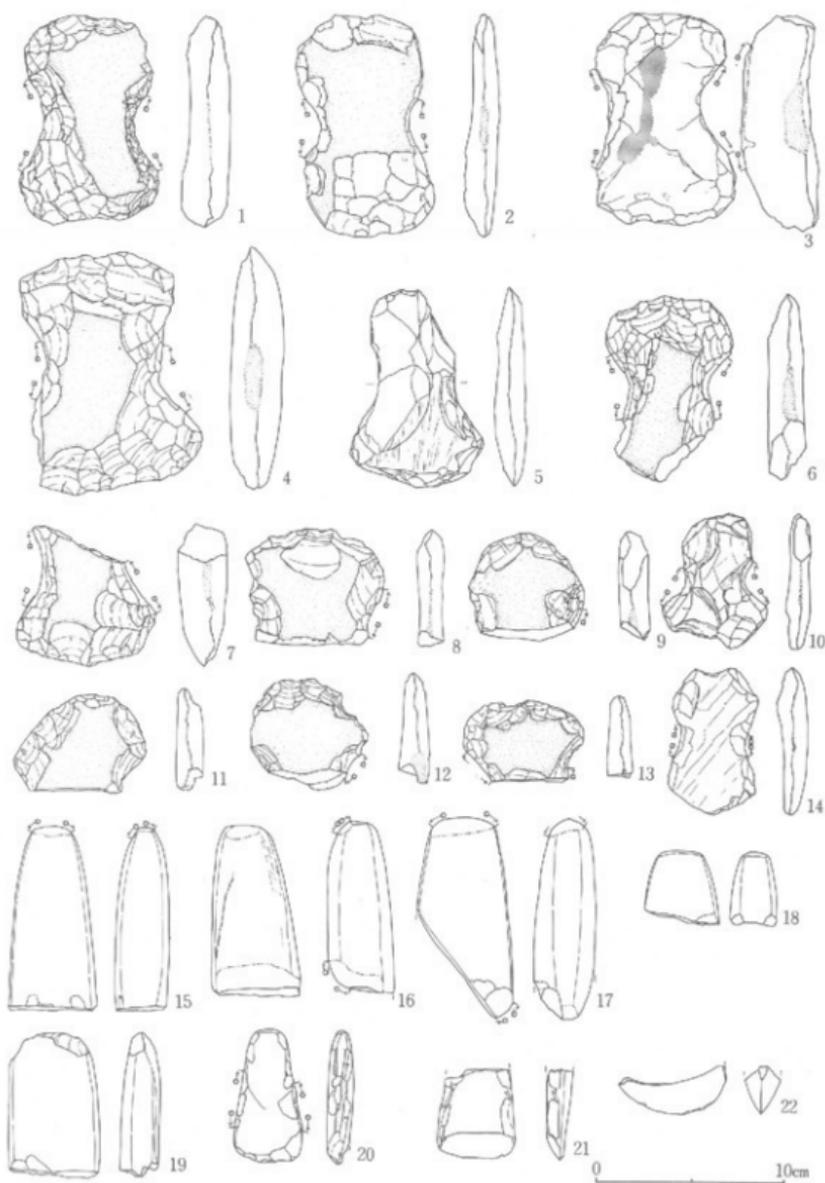
第85图 出土遗物 (58) 石器夹测图(2)



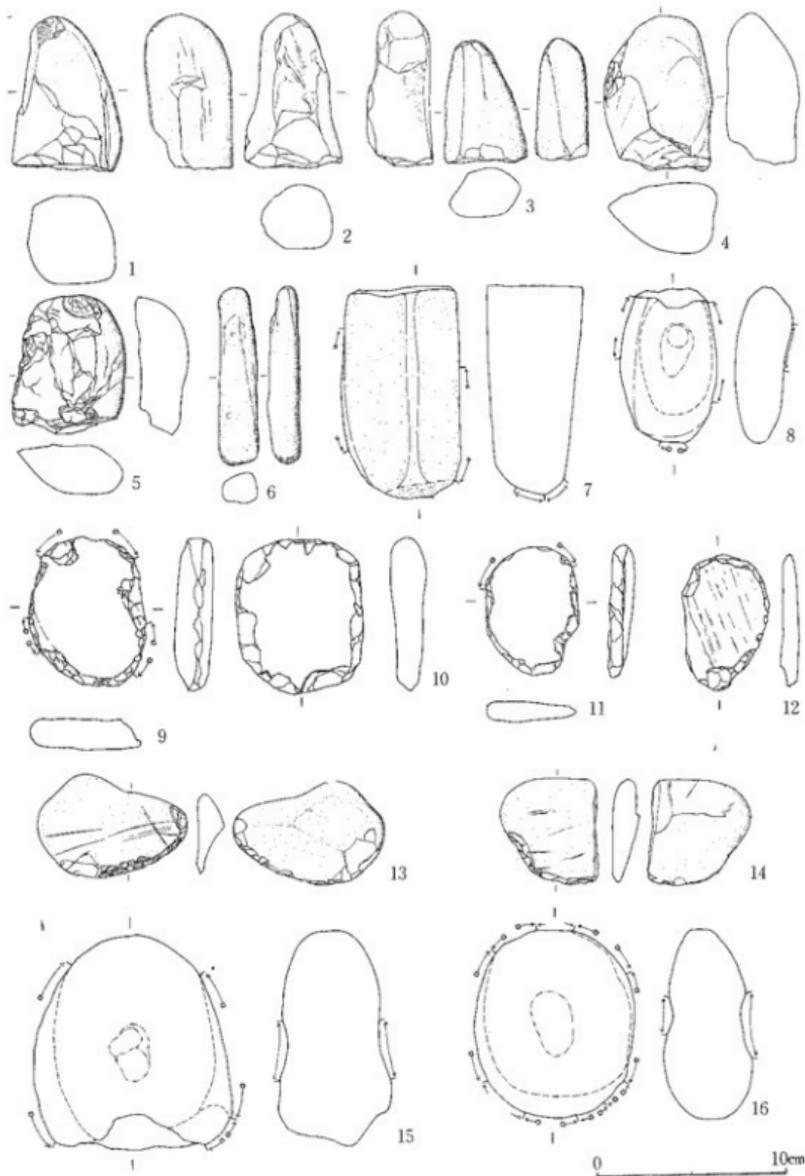
第86图 出土遗物 (59) 石器(尖刺网(3))



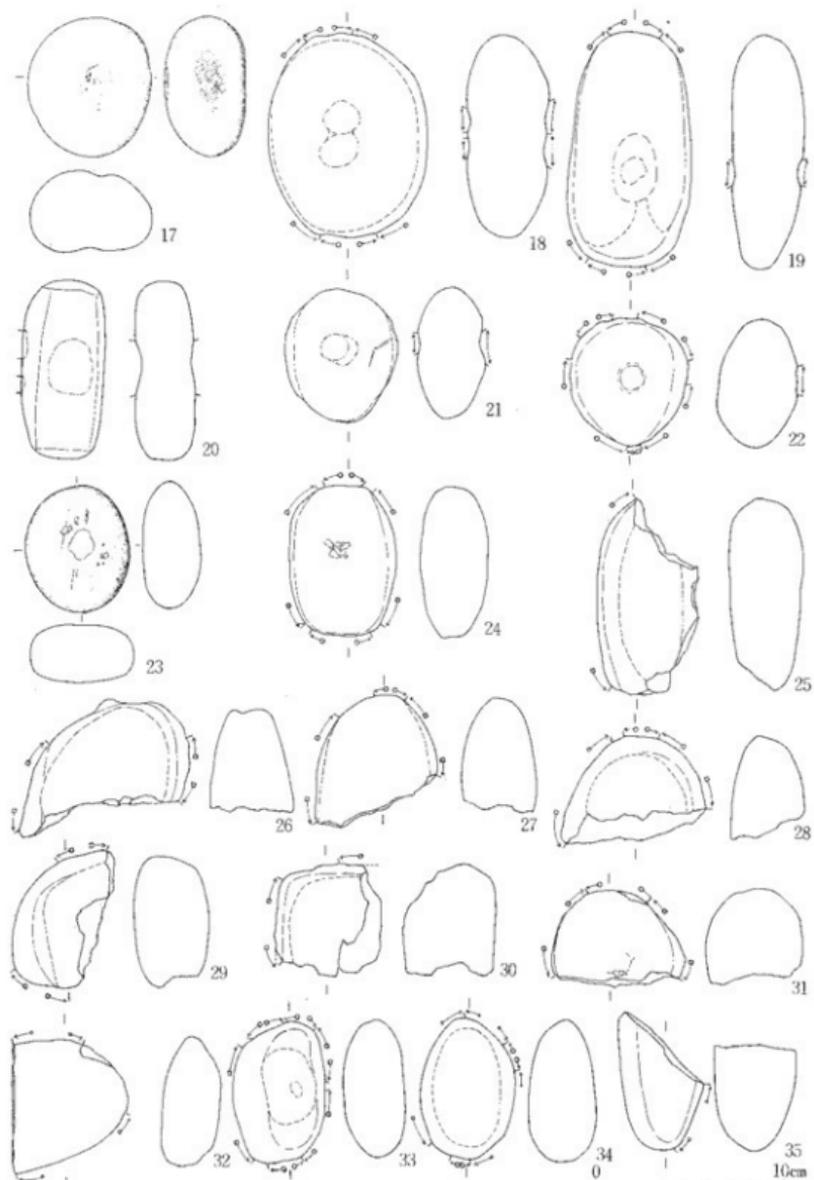
第87图 出土遗物 (60) 石器·骨角器实测图(4)



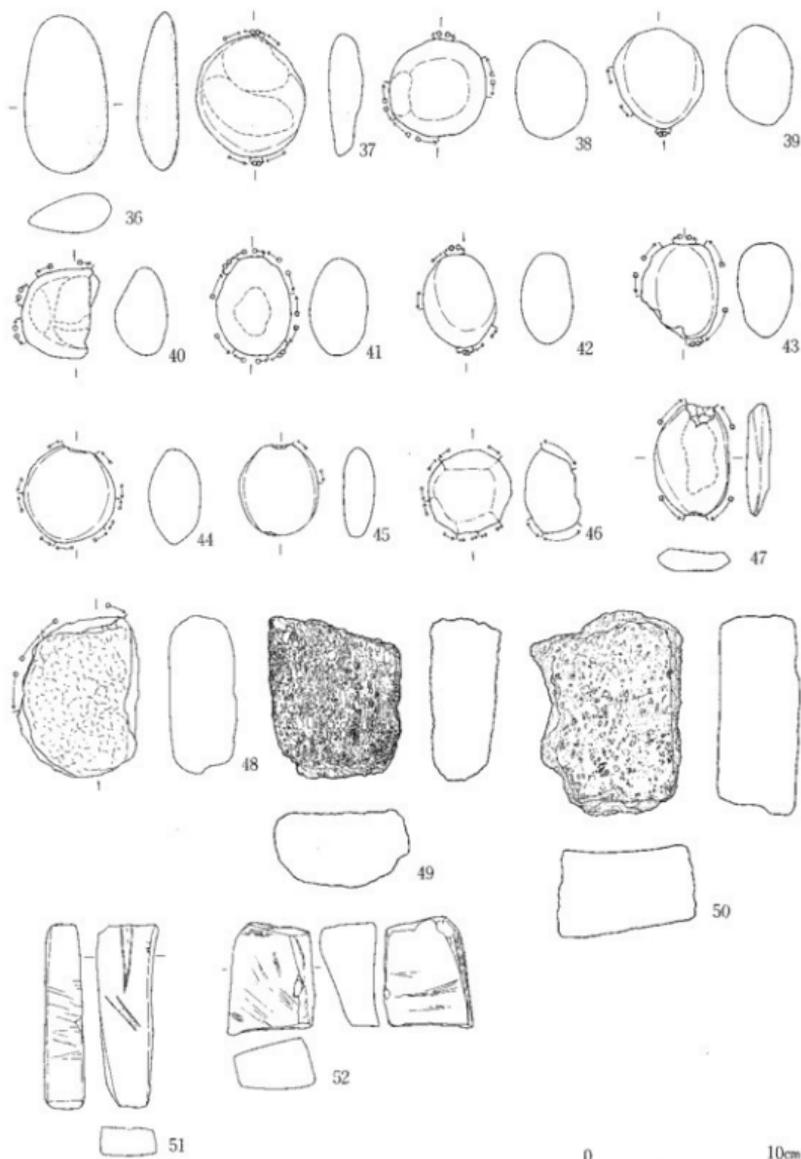
第88图 出土遗物 (61) 石器类图(5)



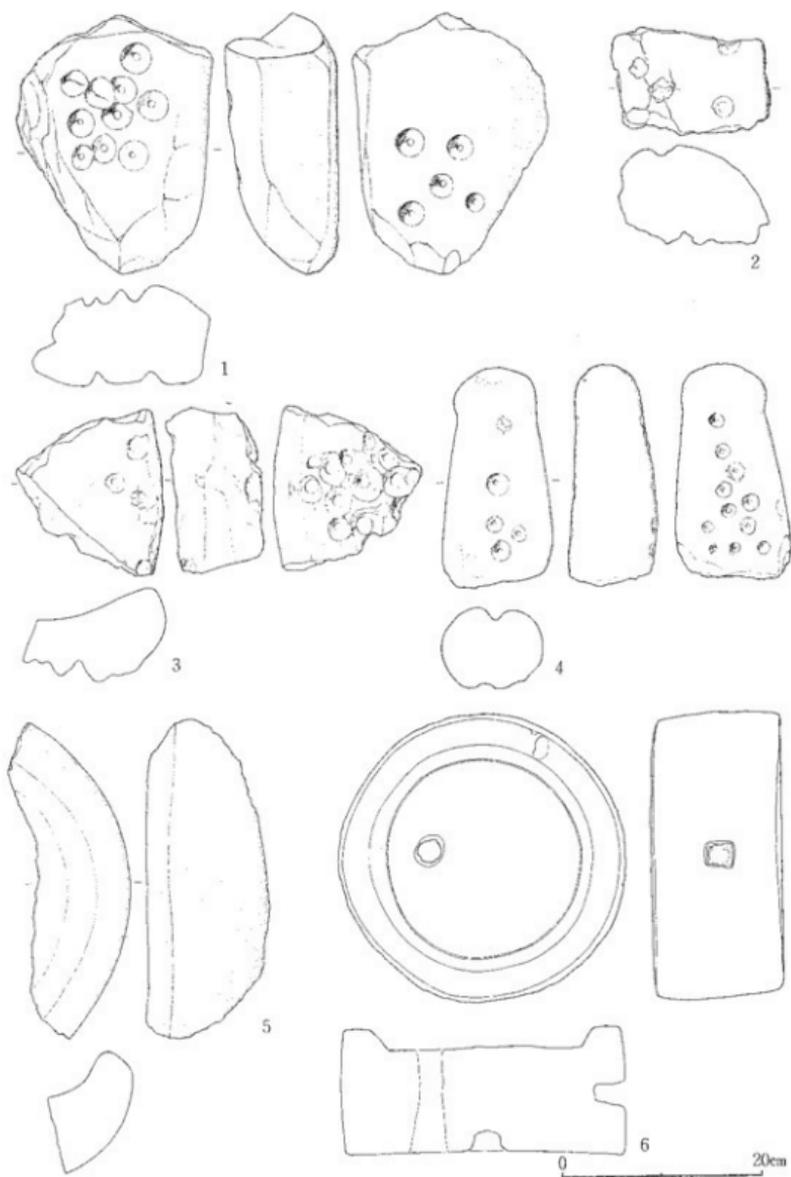
第89圖 出土遺物 (62) 石器尖頭圖(6)



第90圖 出土遺物 (63) 石器尖湖河(7)



第91图 出土遺物 (64) 石器・石製品実測图(8)



第92図 出土遺物 (65) 石器・石製品実測図(9)

出
土
遺
物
表

表7 出土遺物—繩文土器

挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考		
第62回	1	表面採集	中・初		32	6 F	加EⅣ		63	7 F	中		
	2	*	阿		33	6 F	加EⅣ		64	7 F	網		
	3	*	加EⅡ		34	6 F	加EⅢ		65	7 F	後		
	4	*	加EⅡ		35	6 F	加EⅣ		66	7 F	後		
	5	*	加EⅡ		36	6 F	加EⅣ		67	7 F	阿		
	6	*	加EⅡ		37	6 F	加EⅣ		68	7 F	阿		
	7	*	加EⅢ		38	6 F	中		69	7 F	阿		
	8	*	中		39	6 F	中		70	7 F	阿		
	9	*	加EⅣ		40	6 F	中		71	7 F	阿		
	10	*	中		41	6 F	称		72	7 F	加EⅡ		
	11	5 G	中		42	6 F	称		73	7 F	加EⅡ		
	12	5 G	中		43	6 F	称		74	7 F	加EⅡ		
	13	5 G	加EⅡ		44	6 F	称		75	7 F	加EⅡ		
	14	5 G	加EⅣ		45	6 F	中		76	7 F ²⁴	加EⅡ	埋藏2	
	15	5 G	中		46	6 F	称		77	7 F	加EⅡ		
	16	5 G	中		47	6 F	壺		78	7 F	加EⅡ		
	17	6 F	加EⅢ		48	6 F	後?		79	7 F	加EⅡ		
	18	6 F	加EⅢ		49	6 G	加EⅡ		80	7 F	加EⅡ		
	19	6 F	中		50	6 G	加EⅡ		第65回	81	7 F	加EⅡ	
	20	6 F	加EⅢ		51	6 G	加EⅡ			82	7 F	加EⅡ	
	21	6 F	加EⅢ		52	6 G	加EⅢ			83	7 F	加EⅡ	
第63回	22	6 F	加EⅡ		53	6 G	加EⅡ		84	7 F	加EⅡ		
	23	6 F	加EⅡ		54	6 G	後		85	7 F	加EⅡ		
	24	6 F	加EⅡ		55	6 G	加EⅡ		86	7 F	加EⅡ		
	25	6 F	加EⅣ		第64回	56	6 G	加EⅡ		87	7 F	加EⅡ	
	26	6 F	加EⅣ			57	6 G	加E中		88	7 F	加EⅢ	
	27	6 F	加EⅣ		58	6 G	加E中		89	7 F	加EⅡ		
	28	6 F	加EⅡ		59	6 G	加EⅣ		90	7 F	加EⅡ		
	29	6 F	加EⅣ		60	6 G	加EⅣ		91	7 F	加EⅡ		
	30	6 F	加EⅣ		61	6 G	加EⅢ	?	92	7 F	加EⅡ		
	31	6 F	加EⅣ		62	6 G	中		93	7 F	加EⅢ		

表8 出土遺物—繩文土器

挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考
94	7 F	加E II		126	7 F	加E II		158	7 F	加E N	
95	7 F	加E II		127	7 F	加E II		159	7 F	加E N	
96	7 F	加E II		128	7 F	中?		160	7 F	加E N	
97	7 F	加E II		129	7 F	中?		161	7 F	加F N	
98	7 F	加E II		130	7 F	中?		162	7 F	加E N	
99	7 F	加E II		131	7 F	中?		163	7 F	加E N	
100	7 F	加E II		132	7 F	中?		164	7 F	加E N	
101	7 F	加E II		133	7 F	後?		第68図165	7 F	加E N	
102	7 F	加E II		134	7 F	後?		166	7 F	加F N	
103	7 F	加E II		第67図135	7 F	加E II		167	7 F	加E N	
104	7 F	加E II		136	7 F	加E III		168	7 F	加E N	
105	7 F	加E II		137	7 F	加E III		169	7 F	加E N	
第66図106	7 F	阿		138	7 F	加E II		170	7 F	加F N	
107	7 F	加E II		139	7 F	加E II		171	7 F	加E N	
108	7 F	加E II		140	7 F	加E II		172	7 F	加E N	
109	7 F	加E IV		141	7 F	加E II		173	7 F	加F N	
110	7 F	加E II		142	7 F	加E II		174	7 F	加E N	
111	7 F	加E II		143	7 F	加E II		175	7 F	加F N	
112	7 F	加E III		144	7 F	加E III		176	7 F	称	
113	7 F	加E II		145	7 F	加E III		177	7 F	称	
114	7 F	加E III		146	7 F	加E III		178	7 F	称	
115	7 F	加E II		147	7 F	加E II		179	7 F	称	
116	7 F	加E II		148	7 F	加E III		180	7 F	加E N	
117	7 F	加E II		149	7 F	加E II		181	7 F	加E N	
118	7 F	加E II		150	7 F	加E III		182	7 F	称	
119	7 F	加E II		151	7 F	加E IV		183	7 F	称	
120	7 F	加E II		152	7 F	加E IV		184	7 F	後初?	
121	7 F	加E		153	7 F	加E N		185	7 F	後?	
122	7 F	加F		154	7 F	加E N		186	7 F	加B	
123	7 F	加F		155	7 F	加E N		187	7 F	加B	
124	7 F	加E		156	7 F	加E N		188	7 F	堀	
125	7 F	加E		157	7 F	加E N		189	7 F	加B	

表9 出土遺物—繩文土器

挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考
190	7 F	加B		222	7 G	加E II		254	8 F 23	阿	
191	7 F	加B		223	7 G	加E II		255	8 F 23	勝	
第69回192	7 F 24	中	方3	224	7 G	加E II		256	8 F 13	阿	
193	7 G	中・初		225	7 G	加E II		257	8 F 11	阿	
194	7 G	阿		226	7 G	加E II		258	8 F 6	阿	
195	7 G	加E IV		227	7 G	加E II		259	8 F 6	阿	
196	7 G	阿		228	7 G	加E II		260	8 F 7	阿	
197	7 G	阿		229	7 G	加E II		261	8 F 6	阿	
198	7 G	阿		230	7 G	加E II		262	8 F 6	五	
199	7 G	加E 糖		231	7 G	加E IV		263	8 F 13	阿	
200	7 G	加E 糖		232	7 G	加E III		264	8 F 12	阿	
201	7 G	加E II		3233	7 G	加E IV		265	8 F 23	阿	
202	7 G	加E II		234	7 G	加E IV		266	8 F 11	阿	
203	7 G	加E II		235	7 G	加E IV		267	8 F 13	阿	
204	7 G	加E I		236	7 G	加E IV		268	8 F 7	阿	
205	7 G	加E II		237	7 G	加E IV		269	8 F 18	阿	
206	7 G	加E II		238	7 G	加E IV		270	8 F 12	阿	
207	7 G	中		239	7 G	加E IV		271	8 F 23	阿	
208	7 G	加E II		240	7 G	加E IV		272	8 F 18	阿	
209	7 G	加E II		241	7 G	加E IV		273	8 F 11	阿	
210	7 G	加E II		242	7 F	後		274	8 F 7	阿	
211	7 G	加E II		243	7 G	後		275	8 F 8	阿	
212	7 G	加E II		244	7 G	終		276	8 F 11	阿	
213	7 G	加E II		245	7 G	強		277	8 F 7	阿	
114	7 G	加E II		246	7 G	強		278	8 F 12	阿	
215	7 G	加E II		第71回247	8 F 11	中初		279	8 F 8	中	
216	7 G	加E II		248	8 F 12	阿		280	8 F 7	中	
217	7 G	加E II		249	8 F 6	阿		281	8 F 12	阿	
218	7 G	加E II		250	8 F	阿		282	8 F 7	中	
第70回219	7 G	加E II		251	8 F	阿		283	8 F 7	加E III	
220	7 G	加E II		252	8 F 8	阿		284	8 F 12	加E III	
221	7 G	加E II		253	8 F 13	阿		285	8 F 7	後	

表10 出土遺物—繩文土器

挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	
	286	8 F 7	後		318	8 F 7	加E II		350	8 F 8	加E II	
	287	7 F 12	中		319	8 F 11	加E II		351	8 F 7	加E II	
	288	8 F 12	中		320	8 F 8	加E II		352	8 F 7	加E II	
	289	8 F 6	中	第73図	321	8 F 12	加E II		353	8 F 7	加E II	
	290	8 F 12	加E II		322	8 F 12	加E II		354	8 F 7	加E II	
	291	8 F 13	加E II		323	8 F 13	加E II		355	8 F 17	加E II	
第72図	292	8 F 13	加E II		324	8 F 12	加E II		356	8 F 13	加E II	
	293	8 F 7	加E II		325	8 F 13	加E II		357	8 F 7	加E II	
	294	8 F 13	加E II		326	8 F 12	加E II		358	8 F 6	加E II	
	295	8 F 7	加E II		327	8 F 6	加E II		359	8 F 8	加E II	
	296	8 F 8	加E II		328	8 F 13	加E II		360	8 F 8	加E II	
	297	8 F 7	加E II		329	8 F 12	加E II		361	8 F 8	加E II	
	298	8 F 7	加E II		330	8 F 13	加E II		362	8 F 7	短	
	299	8 F 12	加E II		331	8 F 7	加E II		第75図	363	8 F 6	加E II
	300	8 F 8	加E II		332	8 F 8	加E II		364	8 F 18	加E II	
	301	8 F 11	加E II		333	8 F 8	加E II	大木系	365	8 F 8	加E IV	
	302	8 F 11	加E II		334	8 F 11	加E II		366	8 F 13	加E IV	
	303	8 F 11	加E II		335	8 F 12	加E II		367	8 F 12	加E IV	
	304	8 F 12	加E II		336	8 F 13	加E II	No. 3	368	8 F 6	加E IV	
	305	8 F 8	加E II		337	8 F 7	加E II		369	8 F 6	加E IV	
	306	8 F 7	加E II		338	8 F 7	加E II		370	8 F 12	加E IV	
	307	8 F 18	加E II		339	8 F 6	加E II		371	8 F 8	加E IV	
	308	8 F 11	加E II	第74図	340	8 F 18	加E II		372	8 F 12	加E IV	
	309	8 F 13	加E II		341	8 F 6	加E II		373	8 F 12	加E IV	
	310	8 F 12	加E II		342	8 F 8	加E II		374	8 F 16	加E IV	
	311	8 F 7	加E II		343	8 F 12	加E II		375	8 F 7	加E IV	
	312	8 F 12	加E II		344	8 F 8	加E II		376	8 F 7	加E IV	
	313	8 F 7	加E II		345	8 F 7	加E II		377	8 F 12	加E IV	
	314	8 F 12	加E II		346	8 F 8	加E II		378	8 F 12	加E IV	
	315	8 F 11	加E II		347	8 F 12	加E II		379	8 F 12	加E IV	
	316	8 F 12	加E II		348	8 F 8	加E II		380	8 F 23	加E IV	
	317	8 F 7	加E II		349	8 F 7	加E II		381	8 F 7	加E IV	

表11 出土遺物—繩文土器

挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考
382	8 F 7	加EⅣ		414	8 F 7	加EⅣ		446	8 F 12	加E	
383	8 F 12	加EⅣ		415	8 F 7	加EⅣ		447	8 F 11	加E	
384	8 F 7	加EⅣ		416	8 F 7	加EⅣ		448	8 F 7	加E	
385	8 F 12	加EⅣ		417	8 F 12	加EⅣ		449	8 F 11	加E	
386	8 F 7	加EⅣ		418	8 F 7	加EⅣ		450	8 F 7	加E	
387	8 F 6	加EⅣ		419	8 F 11	加EⅣ		451	8 F 11		
388	8 F 11	加EⅣ		420	8 F 7	加EⅣ		452	8 F 13		
389	8 F 7	加EⅣ		421	8 F 11	加EⅣ		453	8 F 7		
390	8 F 7	加EⅣ		422	8 F 7	加EⅣ		454	8 F 12		
391	8 F 7	加EⅣ		423	8 F 12	加EⅣ		455	8 F 12		
392	8 F 7	加EⅣ		424	8 F 7	加EⅣ		456	8 F 23		
393	8 F 12	加EⅣ		425	8 F 12	加EⅣ		457	8 F 8		
394	8 F 12	加EⅣ		426	8 F 12	加EⅣ		458	8 F 7		
395	8 F 12	加EⅣ		427	8 F 12	加EⅣ		459	8 F 12	中?	
396	8 F 8	加EⅣ		428	8 F 7	加EⅣ		460	8 F 22		
397	8 F 12	加EⅣ		429	8 F 7	加EⅣ		461	8 F 22		
398	8 F 8	加EⅣ		430	8 F 7	加EⅣ		462	8 F 12		
399	8 F 12	加EⅣ		431	8 F 12	加EⅣ		463	8 F 12		
400	8 F 7	加EⅣ		432	8 F 7	加EⅣ		464	8 F 7		
第76回401	8 F 12	加EⅣ		433	8 F 8	加EⅣ		465	8 F 7		
402	8 F 11	加EⅣ		433	8 F 12	加EⅣ		466	8 F 8		
403	8 F 8	加EⅣ		435	8 F 12	加EⅣ		467	8 F 8		
404	8 F 11	加EⅣ		436	8 F 12	加EⅣ		468	8 F 8		
405	8 F 12	加EⅣ		437	8 F 13	加EⅣ		469	8 F 12		
406	8 F 23	加EⅣ		438	8 F 7	加EⅣ		470	8 F 7		
407	8 F 12	加EⅣ		439	8 F 7	加EⅣ		471	8 F 7		
408	8 F 7	加EⅣ		440	8 F	加EⅣ		472	8 F 7		
409	8 F 12	加EⅣ		第77回441	8 F 6	加EⅣ		473	8 F 12	中?	
410	8 F 7	加EⅣ		442	8 F 8	加EⅣ		第78回474	8 F 8	称	
411	8 F 7	加EⅣ		443	8 F 13	加EⅣ		475	8 F 7	称	
412	8 F 12	加EⅣ		444	8 F 12	加EⅣ		476	8 F 7	称	
413	8 F 8	加EⅣ		445	8 F 12	加EⅣ		477	8 F 11	称	

表12 出土遺物—繩文土器

挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考	挿図番号	出土地点	時期	備考
第78図478	8 F 18	称		501	8 F 7	称		524	8 G 8	加E III	
479	8 F 16	称		502	8 F 8	中?		525	8 G 8	加E IV	
480	8 F 16	称		503	8 F 7	称		526	8 G 1	加E IV	
481	8 F 11	称		504	8 F 12	称		527	8 G 8	加E IV	
482	8 F 6 A	称		505	8 F 7	称		528	8 G 6	加E IV	
483	8 F 12	称		506	8 F 12	称	加E IV?	529	8 G 6	加E IV	
484	8 F 7	称		507	8 F 7	加B		530	8 G 6	加E IV	
485	8 F 12	称		508	8 F 12			531	8 G 6	加E IV	
486	8 F 11	称		509	8 F 12			532	8 G 6	加E IV	
487	8 F 7	称		510	8 F 7			533	8 G 6	加E IV	
488	8 F 7	称		511	8 F 7	称		534	8 G 8	加E IV	
489	8 F 12	称		第79図512	8 G 1	中初		535	8 G 2	加E IV	
490	8 F 11	称		513	8 G 1	加E I		536	8 G 6	中	
491	8 F 11	称		514	8 G 6			537	8 G 8	中	
492	8 F 7	称		515	8 G 6			538	8 G 11	中	
493	8 F 16	称		516	8 G 2	加E II		539	8 G 11	中	
494	8 F 7	称		517	8 G 11	加E I		540	8 G 1	中	
495	8 F 7	称		518	8 G 12	加E II		541	8 G 12	中	
496	8 F 7	称		519	8 G 6	加E II		542	8 G 12	中	
497	8 F 11	称		520	8 G 6	加E III		543	8 G 12	中	
498	8 F 7	称		521	8 G 8	加E III		544	8 G 12	中	
499	8 F 7	称		522	8 G 6	加E III		545	8 G 12	中	
500	8 F 23	称		523	8 G 8	加E III		546	8 G 11	後初	

※阿…阿土台 中…中期 加E I~VI…加曾利E I~IV

中・初…中期初頭 器…器取 称…称名寺 堀…堀之内

後…後期 加B…加曾利B

表13 出土遺物 弥生土器・内耳・灯明皿・土製品他

挿図番号	出土地点	名称	時期	挿図番号	出土地点	名称	時期	挿図番号	出土地点	名称	時期
第80図	1 8F23	土製円盤		第81図	1 7G15・方3	弥生土器	後期	第82図	1 7G10溝	灯明皿	*
	2 8F7	*	2 8F16		*	2 8G6溝	陶器		*		
	3 8F7	*	3 7G15溝		*	3 表採資料	灯明皿		*		
	4 8F7	*	4 7G10		*	4 8G1	*		*		
	5 7F20溝	*	5 8G6		*	5 8F11	*		*		
	6 7F20溝	*	6 7G14・方2		*	6 8G1溝	杯形土器 (須恵巻)		平安		
	7 8F7	*	7 8F7		*	7 8F11	*		*		
	8 8F7・方1	*	8 7G14・方3		*	8 表採資料	(土師器)		*		
	9 8F2	*	9 7G14・方3		*	第83図	1 7G10		内耳口縁	中世	
	10 7F12・方2	*	10 8F11・方1		*	2 7G10	*		*		
	11 8F6A	*	11 7F24・方2		*	3 7G15溝	*		*		
	12 8F7	*	12 8F11・方1		*	4 8G1溝	*		*		
	13 8F11・方1	*	13 7F24・方2		*	5 7G9溝	*		*		
	14 8F7	*	14 7G14・方3		*	6 7G15	*		*		
	15 8F7	*	15 8F7		*	7 8F13	*		*		
	16 7F12・方1	*	16 7G14・方3		*	8 7G14	*		*		
	17 表採資料	*	17 7G14・方3		*	9 7F24溝	*		*		
18 7F13・方2 (スプーン形)		18 8G1溝	*	10 7F25溝	*	*					
19 7F20溝	蓋形土器	加EIV	19 7F13・方2	11 7F25溝	*	*					
			20 7G15溝	12 8G6溝	*	*					
			21 7G15溝	13 7F20溝	*	*					
				14 7G15	内耳底部	*					
				15 7F25溝	*	*					
				16 7G9溝	*	*					
				17 8G6溝	*	*					
				18 7G5溝	摺り鉢	*					

表14 出土遺物—石器

検出 番号	名 称	出土地点	法 量	石 質	備 考	検出 番号	名 称	出土地点	法 量	石 質	備 考
84回 -1	石核(Cove)	7G3・住2	4.5×4.6×2.4	安山岩	旧石器	13	石 鏃	表採資料	1.4×1.1×0.2	黒曜石	
	剥片(Fake)	8F7	5.3×3.3×0.8	安山岩	旧石器	14	石 鏃	7F15・D6	1.5×1.4×0.4	黒曜石	部分欠
3	石核(Cove)	5G5	4.4×4.9×2.9	安山岩	旧石器	15	石 鏃	6G8・表土	2.0×1.6×0.3	チャート	部分欠
4	握斧?	7G3・住2	8.4×5.0×2.7	砂 岩	旧石器	16	石 鏃	8G3・D4	1.9×1.6×0.3	チャート	
85回 -1	ナイフ形石器	8F6・B	3.6×1.5×0.3	チャート	旧石器	17	石 鏃	8F18・住1	2.6×1.5×0.3	チャート	一部欠
2	種 器	7F13・方2	4.5×2.5×0.7	黒曜石	旧石器	18	石 鏃	8F12・D4	2.3×1.7×0.4	頁 岩	
3	尖頭器	表採資料	4.1×1.8×0.9	安山岩	旧石器 器欠	19	石 鏃	表採資料	2.2×1.5×0.4	チャート	
4	尖頭器	表採資料	4.8×2.3×0.9	頁 岩	旧石器 器欠	20	石 鏃	8F16・P1	1.8×1.8×0.3	チャート	先端部欠
5	尖頭器	7F23・方3	2.8×1.9×0.4	チャート	片面加工	87回 -21	石 鏃	表採資料	1.8×1.5×0.3	チャート	
6	彫 器	表採資料	2.4×1.6×0.4	チャート		22	石 鏃	7F24・方3	2.6×1.9×0.3	頁 岩	一部欠
7	ナイフ形石器	7G5・溝1	4.8×2.0×0.5	チャート		23	石 鏃	6F20	3.7×1.6×0.5	チャート	
8	削 器	7F23・方3	2.8×2.9×0.7	チャート		24	石 鏃	7F24・D7	3.1×2.1×0.6		先端部欠
9	剥 片	8F7・方1	2.3×1.2×0.7	黒曜石		25	石 鏃	8F7・溝	2.6×1.9×0.4	チャート	先端部欠
10	剥 片	表採資料	2.4×1.6×0.4	チャート		26	石 鏃	7F24・方3	2.5×1.9×0.4	頁 岩	
11	剥 片	8F7・A	2.2×1.8×0.4	チャート		27	石 鏃	6F32・表土	1.4×2.4×0.3	頁 岩	先端部欠
12	剥 片	7F24	2.7×1.9×0.4	チャート		28	石 鏃	8G13・D4	2.8×1.9×0.7	黒曜石	
13	剥 片	表採資料	2.6×1.7×0.4	チャート		29	石 鏃	7F18・方2	3.1×2.0×0.6	チャート	
14	剥 片	7G15・溝2	3.2×2.6×0.6	頁 岩		30	石 鏃	表採資料	1.4×1.7×0.4	黒曜石	部分
15	剥 片	7G5・溝1	4.1×3.6×1.4	チャート		31	石 鏃	8F21・P4	0.8×1.1×0.3	水 晶	部分
86回 -1	石 鏃	8F7	1.8×1.2×0.3	黒曜石	玉部欠	32	大 珠	8G11	4.0×2.8×2.3	花崗岩	寸欠
2	石 鏃	表採資料	1.9×1.4×0.3	チャート		33	磨製石斧	8G11	2.9×1.5×0.8	緑泥片岩	ノミ形器
3	石 鏃	7F10	2.1×1.8×0.5	チャート		34	磨 石	8F12・D1	2.8×2.5×1.2	砂 岩	
4	石 鏃	8G3・D3	1.9×1.5×0.4	チャート		35	磨 石	7F18・方2	2.8×2.5×2.1	砂 岩	
5	石 鏃	表採資料	2.3×1.6×0.4	チャート		36	骨 角 器	8F6・方1	1.8×0.5×0.3		
6	石 鏃	8F11・住1	2.2×1.6×0.3	チャート		88回 -1	打製石斧	8F8	11.1×7.3×2.4	砂 岩	222g
7	石 鏃	8F23・方3	2.2×1.6×0.3	頁 岩	先端部欠	2	打製石斧	7G3・P3	11.9×6.7×1.6	安山岩	156g
8	石 鏃	8F8・方1	2.2×1.6×0.3	頁 岩		3	打製石斧	2T	11.2×7.3×3.7	花崗岩	352g
9	石 鏃	8G3・D4	2.1×1.6×0.3	チャート	茎部欠	4	打製石斧	7F24・D1	12.9×8.7×2.6	安山岩	201g
10	石 鏃	7F15・溝1	1.3×1.5×0.3	黒曜石	玉部欠	5	打製石斧	2T	16.7×7.1×1.6	砂 岩	
11	石 鏃	8G8・D1	1.3×1.5×0.3	黒曜石		6	打製石斧	6G6	9.9×6.7×2.0	安山岩	148g
12	石 鏃	8F11・方1	1.5×1.5×0.3	めのもう		7	打製石斧	8F8	7.5×7.3×2.5	硬質砂岩	144g

表15 出土遺物・石器

種別 番号	名称	出土地点	法量	材質	備考	種別 番号	名称	出土地点	法量	材質	備考	
90区 -8	打製石斧	表採資料	6.2×7.3×1.4	砂岩	91g	90区 -18	凹石	7F15	10.8×8.3×4.3	安山岩	磨石	
9	打製石斧	6G13-表土	6.0×6.0×1.5	安山岩	73g	19	凹石	8F13	12.5×6.6×3.7	安山岩	磨石	
10	打製石斧	7F24-溝	7.1×5.5×1.2	スレート	43g	20	凹石	8F7	9.4×4.4×3.1	多孔質安山岩	磨石 197g	
11	打製石斧	7F25	5.3×7.0×1.5	安山岩	55g	21	凹石	8F7-D7	7.0×6.0×4.0	安山岩	磨石	
12	打製石斧	7F24-D0	5.9×6.2×1.6	スレート	63g	22	凹石	7F20-方2	6.8×6.2×4.1	石英斑岩	磨石	
13	打製石斧	8F7	4.4×6.4×1.3	砂岩	41g	23	磨石	7F24-D1	9.4×7.7×4.2	安山岩		
14	打製石斧	7F18-方2	7.8×4.6×1.5	スレート	53g	24	磨石	8F8-A	8.0×5.6×3.4	安山岩		
15	磨製石斧	8F17-住1	9.7×4.6×2.8	砂岩	244g	25	磨石	7F20-住1	10.3×5.3×3.8	角閃安山岩		
16	磨製石斧	8F17-住1	9.2×4.7×3.4	砂岩	225g	26	磨石	表採資料	8.2×5.3×4.5	砂岩		
17	磨製石斧	7F20-住1	10.6×4.8×3.1	砂岩	233g	27	磨石	8F7	6.3×6.2×3.9	花崗岩	敲打痕	
18	磨製石斧	8F8	3.9×3.9×2.5	硬質砂岩	部分66g	28	磨石	8F17-住1	7.5×5.5×3.8	安山岩	敲打痕	
19	磨製石斧	7G9-溝	7.7×4.8×2.0	雲母片岩	129g	29	磨石	表採資料	6.9×4.6×4.0	安山岩		
20	磨製石斧	8F11-方1	7.0×3.6×1.3	緑泥片岩	52g	30	磨石	8F12-方1	5.9×5.6×4.8	安山岩		
21	磨製石斧	7F25	4.7×4.1×1.4	緑泥片岩	部分40g	31	磨石	8F8-方1	7.1×5.1×1.5	角閃安山岩	敲打痕	
22	磨製石斧	7F18-方2	5.7×2.5×1.9	硬質砂岩	部分欠 22g	32	磨石	表採資料	6.9×6.1×3.1	安山岩		
90区 -1	礫器	8F17-住1	11.7×8.3×6.5	花崗岩		33	磨石	6F12-表土	7.5×4.8×3.5	流紋岩	敲打痕	
2	礫器	8F8-A	11.5×7.1×4.8	花崗岩	スタンプ 状	34	磨石	7F15P1	7.5×5.0×3.7	安山岩		
3	礫器	7F10-方1	9.2×6.1×3.6	花崗岩	多孔質	35	磨石	8F7	7.3×4.4×4.2	硬質砂岩		
4	礫器	7F10-方1	11.8×8.0×5.3	花崗岩		90区 -36	磨石	8F8	5.0×4.5×3.1	安山岩		
5	礫器	8G8-D1	7.4×6.0×2.6	チャート		37	磨石	7G-住2	6.1×5.8×1.8	流紋岩		
6	礫器	8F7-D	13.3×3.0×2.3	花崗岩	敲打器	38	磨石	8F12-方1	5.2×5.1×3.8	安山岩	敲打痕	
7	礫器	7G9-D3	11.2×6.2×5.1	硬質砂岩	敲打器	39	磨石	8F8	5.4×4.7×3.5	安山岩	敲打痕	
8	礫器	7G3-住2	8.6×5.1×2.7	流紋岩	磨石	40	磨石	8F7	4.6×4.02.6	流紋岩	敲打痕	
9	礫器	8F8-方1	8.0×6.0×2.0	多孔質安山岩	磨石	41	磨石	8F13-D3	5.2×3.9×3.0	花崗岩	敲打痕	
10	礫器	7G10-溝	8.2×6.6×1.8	砂岩	磨石	42	磨石	8F6-A	4.8×3.9×2.7	安山岩	敲打痕	
11	礫器	8F11-方1	6.8×4.9×1.2	流紋岩	磨石	43	磨石	7F18-方2	5.1×4.0×3.0	多孔質安山岩	敲打痕	
12	礫器	8F18-方1	7.2×4.9×0.9	安山岩	磨石	44	磨石	7F24-D1	5.0×4.8×2.8	安山岩		
13	礫器	7G15-溝	5.5×8.0×1.3	砂岩		45	磨石	7F19	4.8×4.2×1.6	流紋岩		
14	礫器	2T-D4	5.6×5.3×1.4	砂岩		46	磨石	8F13	4.5×4.0×2.7	斑輝岩		
15	凹器	8F8	11.3×10.3×5.9	石英斑岩	磨石	47	石	錐	7F18-方2	6.0×3.8×1.1	安山岩	
16	凹石	8F11-住1	10.1×8.5×4.6	多孔質安山岩	磨石	48	磨石	7F9-住1	8.4×5.9×3.6	多孔質安山岩		
90区 -17	凹石	7G10	10.1×9.2×6.1	石英斑岩	磨石	49	石	皿	7G13-D1	8.6×7.0×4.0	多孔質安山岩	部分

表16 出土遺物—石器

標記 番号	名 称	出土地点	法 量	石 質	備 考	標記 番号	名 称	出土地点	法 量	石 質	備 考
91図 -50	石 皿	7G15	18.8×7.4×4.6	多孔質安山岩	部分	92図 -3	四 石	7F18・方2	13.3×12.8×7.1	多孔質安山岩	両面使用 石皿兼用
51	砥 石	7F24・溝	9.6×3.1×1.5	多孔質安山岩		4	石 棒	7F18	14.9×12.7×9.7	花崗岩	凹石兼用
52	砥 石	8F7	6.0×4.7×2.8	凝灰質流紋岩		5	石 皿	8F18	25.6×9.8×6.2	安山岩	部分
92図 -1	凹 石	8F13	11.0×16.0×8.4	花崗岩	両面使用	6	石 臼	8F13	∅28.5×12.5	安山岩	孔径2.4
2	凹 石	7F24-D1	12.8×8.5×8.0	花崗岩							

第5章 総 括

昭和56年に行なわれた倉持遺跡の第1年次調査に引き続いて、第2年次調査は昭和57年10月28日から延べ4カ月にわたって実施されている。倉持遺跡の発掘調査は、全国的にも稀な町単費による学術的発掘調査であり、遺跡の分布調査、保存等基本的な計画を踏まえてのもので、まだ不備な点もあり不十分で今後のあり方が検討されるが、開発ブームの中で消滅していく遺跡の緊急調査の多い中、一石を投じるものとして評価される。

第2年次の調査は第1年次の試掘的な段階から、さらに具体的な遺跡の存り方、性格を知るためのもので、本格的な倉持遺跡の発掘調査はここから開始されたと言っても過言ではない。第1年次で検出された遺構に基づいて作成された計画では、遺跡の拡がり、遺構の密度、時代的な性格を明らかにするためのもので、予想以上の成果を得ることができた。遺跡は北から南へ、また、西から東へと展開しており、時代的にも旧石器時代から中、近世に至るまでの複合的な遺跡で、集落における住居跡、築城等遺構の密度も集中している。また、これ等の遺構は自然地形の谷がある程度埋没した段階で構築されたものであることがわかっている。旧石器時代の遺構は検出されていないが、安山岩の尖頭器、ナイフ形石器、石核等の存在は今後の調査に充分期待できる資料である。縄文時代では中期から後期にわたる時期のものが圧倒的に多く、住居跡、土城が数多く検出されている。住居跡はプランが不整形なものも多く、炉跡、柱穴等も明確でない。土壇も小竪穴と称される形態をもつもの、円形のプランをもつピット状のもの、袋状土壇等いわゆる土壇的なもの（貯蔵穴、墓壇の性格は断定できない）等があるが、形状だけでは分類できない状況である。埋甕も深鉢土器をさかさまに置いたもの、正常位に置いたもの、不明瞭のものがあり、さらに細かい観察が必要である。時期的な分類は出土した土器で成されるものであろうが、異なる時期のものが混在しているものが多く、断定するまでには時間が費されるであろう。また、在地性の土器に対する外来系、すなわち東北、中部、東海地方の土器のあり方、石器に使用される石（花崗岩、チャート、黒曜石等が多い）の制約的な問題もこの時期倉持遺跡を含めた真壁地方の縄文時代を考える上で重要な課題となるであろう。弥生時代の遺構は住居跡が2軒のみで遺物もほとんどないが、遺跡の拡がりからみて今後はかなり検出されるであろう。古墳時代の遺構も少ないが、1年次の調査と合わせて円墳1基、方形周溝墓3基であるが、こうした墓を構築した集団の村が近くに存在しているものと思われる。歴史時代の遺構としては、土壇、築地状遺構、路状遺構等があり、明確な規模は把握できないながら、「院」の墨書須恵器や、鎮壇具的に埋置された三鈴釜（瓶子）等は寺院、館の存在を充分に推察できるものであり、様々な課題を残しながらも今後の発掘調査の展開に注目したい。

圖

版



遺跡近景（西側より）



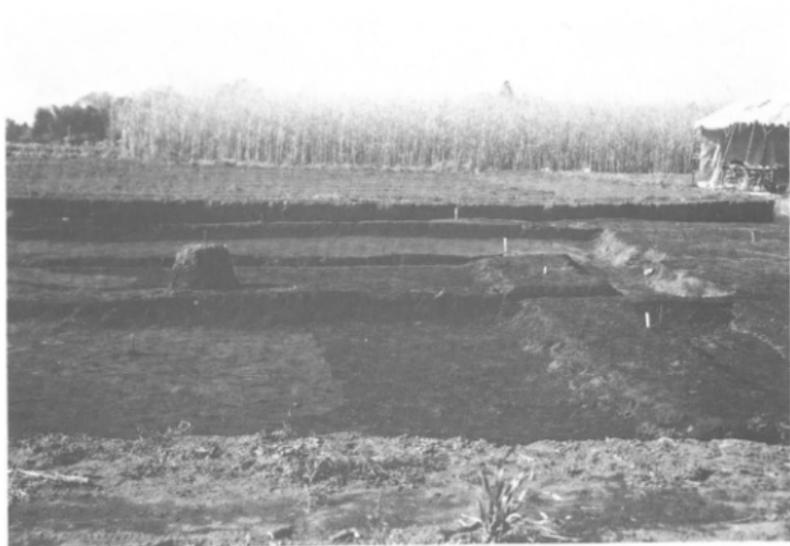
遺跡全景（南側より）



第1トレンチ (南側より)



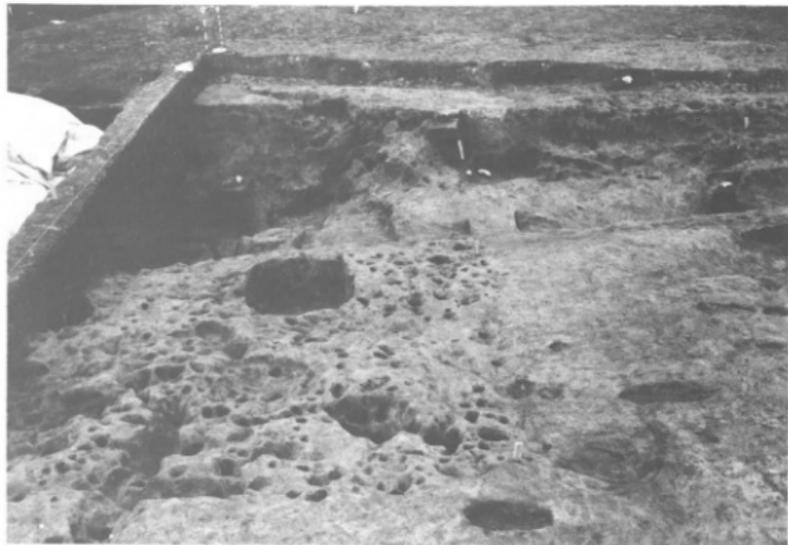
道跡西側一溝跡 (南側より)



路状遺構（南側より）



築地状遺構と周辺の遺物出土状況



道跡西側の遺構検出状況（南側より）



道跡中央部の遺構検出状況（南側より）



遺跡北側一路状遺構と溝跡 (西側より)



遺跡北側の遺構検出状況一住居跡と土壇 (西側より)

図版 6



遺跡東南側の遺構検出状況（東側より）



遺跡西側の遺構検出状況（西側より）

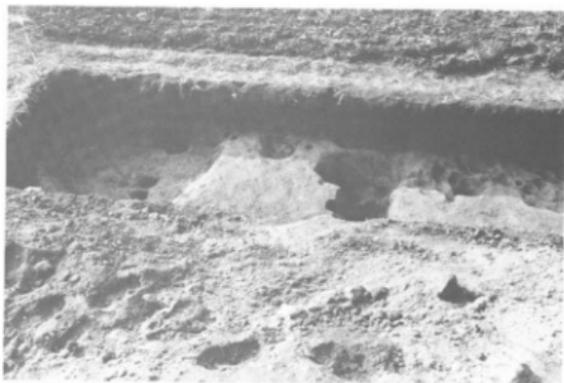


方形周溝墓と周辺の遺構（南側より）

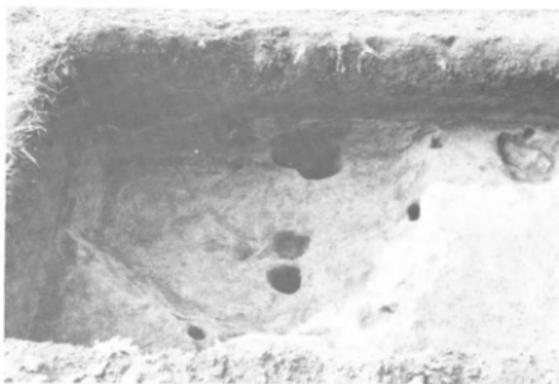


1号方形周溝墓の北西隅（南側より）

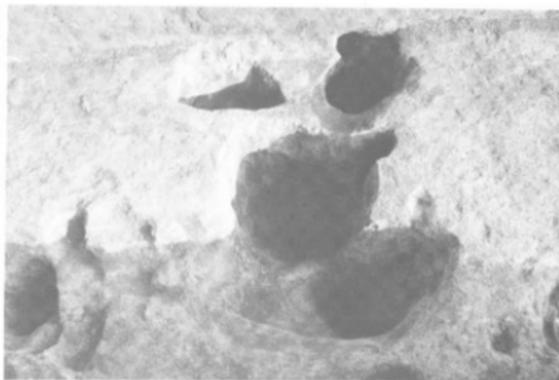
第1トレンチ-南側部分
(東側より)



第1トレンチ-小竪穴1
(東側より)



第1トレンチ-柱穴群
(東側より)





第1トレンチ(南側より)



第1トレンチ-土壌群
(北側より)



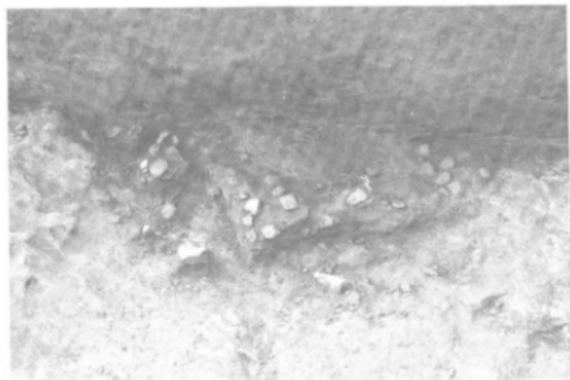
第1トレンチ-土壌1内
遺物出土状況(西側より)



第2トレンチ(南側より)



第2トレンチ-土壌1
(北側より)



第2トレンチ-遺物出土
状況(東側より)



遺跡西側一遺構プラン
確認状況（南側より）



遺跡中央部一畝状遺構の
確認状況（東側より）

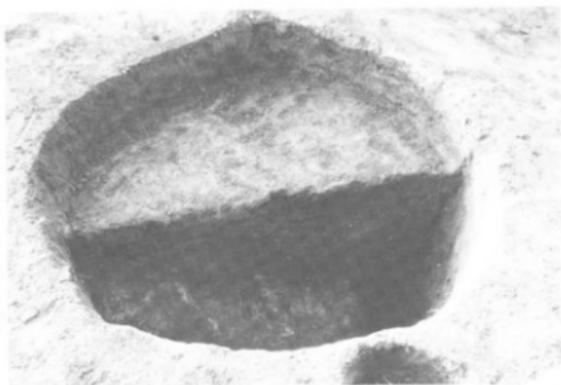


遺跡中央部一遺構検出
状況（南側より）

円形土壇(7 G 15P 3)
の堆積土層
(南側より)



円形土壇(7 G 15P 2)
の堆積土層
(東側より)



円形土壇(7 G 10P 2)
の堆積土層
(東側より)





遺跡北側の遺構検出状況
(西側より)



遺跡北側の遺構一住居跡
と土壇 (東側より)



遺構南側の遺構検出状況
(西側より)



遺跡北側の土壌検出状況
(東側より)



遺跡東側の遺構検出状況
(南側より)



遺跡東側の遺構検出状況
(東側より)



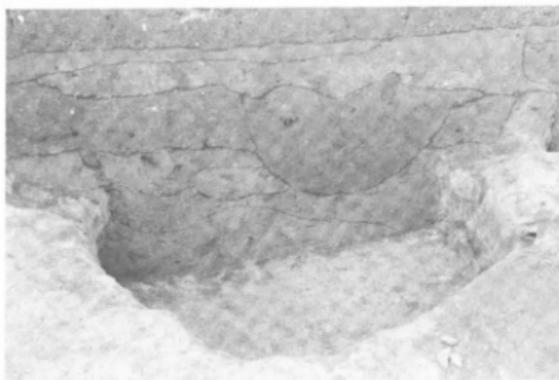
路状遺構と小竪穴(7F24)
(東側より)



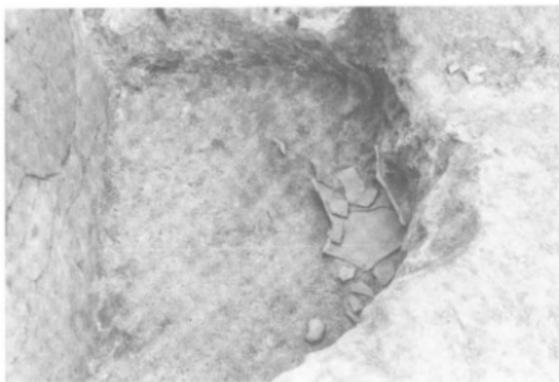
3号方形周溝墓と円形土壇
(D6 7F24)(南側より)



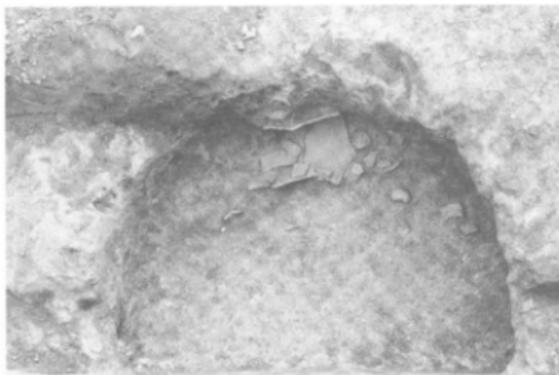
1号方形周溝墓の底面に
検出された小竪穴
10(8F11)(北側より)



袋状土壘7(7F15)の
堆積土層(東側より)



袋状土壘7の土器出土
状況(南側より)



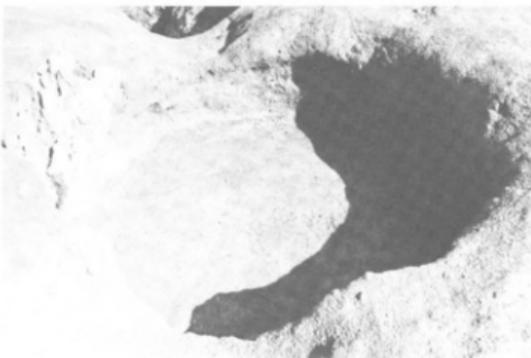
袋状土壘7の土器出土
状況(西側より)



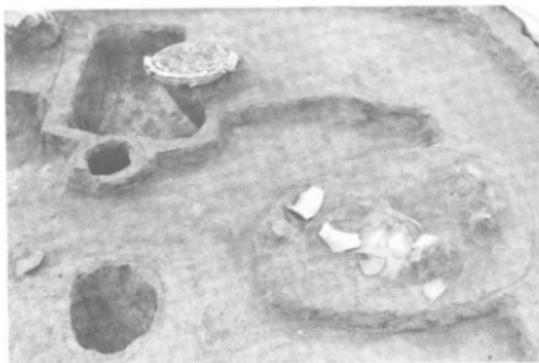
袋状土坑1 (東側より)
(7F14)



袋状土坑4 (南側より)
(7G4・9)



袋状土坑7 (西側より)
(7F15)



埋室3(8F6)と周辺の遺物
出土状況(南側より)



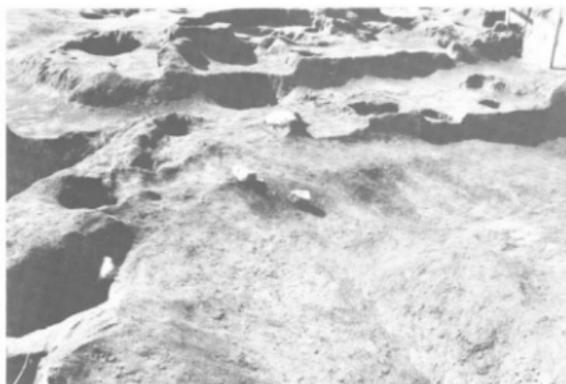
埋室3と周辺の遺物出土状況
(南側より)



埋室3の近景(南側より)



2号方形周溝墓と住居跡2
(7 F 18) (北側より)



2号方形周溝墓南西隅部分
の遺物出土状況(東側より)



石梯(兼門石)の出土
状況(北側より)

袋状土壇5(7G9)の遺物
出土状況



遺物(凹石・縄文土器)
出土状況(8F13)



集石遺構(8F7)





弥生時代の住居跡
(8 F 17・18) (西側より)



弥生時代の住居跡
(南側より)



弥生時代の住居跡
(床面の弥生土器)

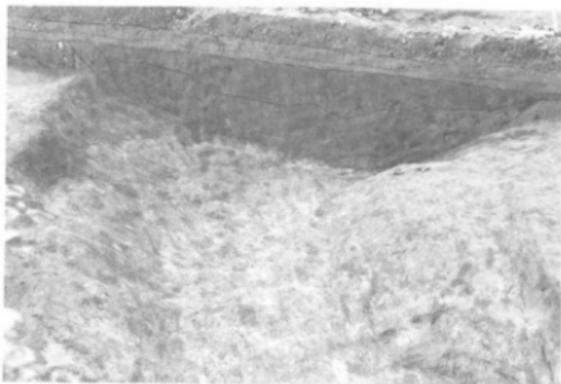
3号方形周溝墓西側
(南側より)



3号方形周溝墓南側
(東側より)



3号方形周溝墓東側溝
北壁の断面(南側より)





路状遺構と土壇9(7G4)
(東側より)



路状遺構と溝跡
(西側より)



路状遺構と溝跡
遺物出土状況(南側より)



溝跡と土壇群(7 G 10)
(西側より)



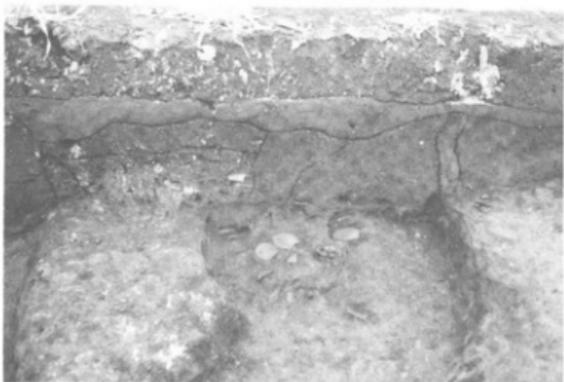
溝跡と土壇群
(西側より)



溝跡と周辺の遺構
(東側より)



土器焼成遺構（8F12）
の粘土堆積状況
（北側より）



土器焼成遺構の遺物出土
状況と堆積土層
（東側より）



土器焼成遺構の遺物出土
状況
（南側より）



瓶子出土状況
(8F 12—東側より)



瓶子出土状況
(8F 12—西側より)



遺物出土状況
(8F 13—北側より)



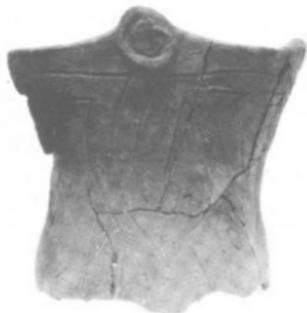
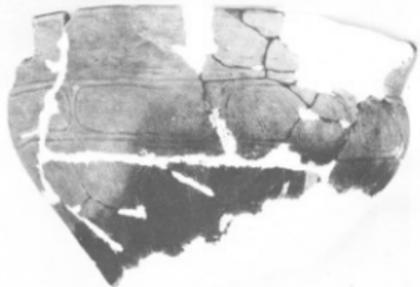
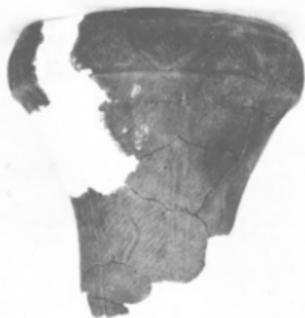
発掘作業風景
(西側より)



遺跡見学会



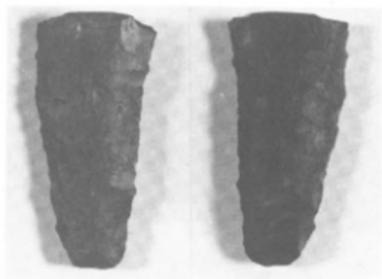
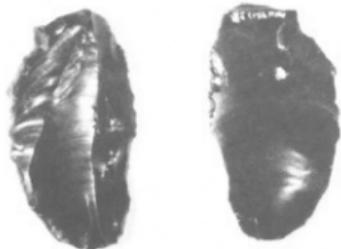
遺跡見学会



出土遺物1—繩文土器



出土遺物 2—縄文土器・土製品

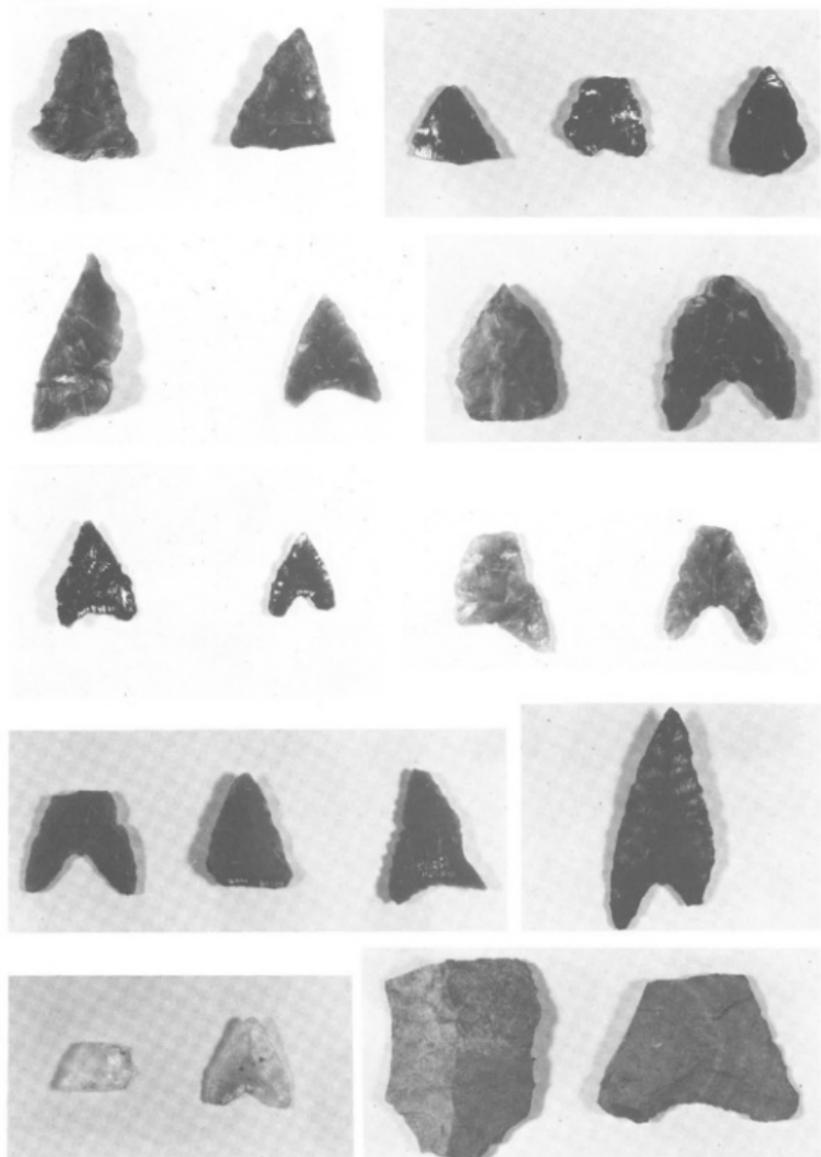


出土遺物3—旧石器

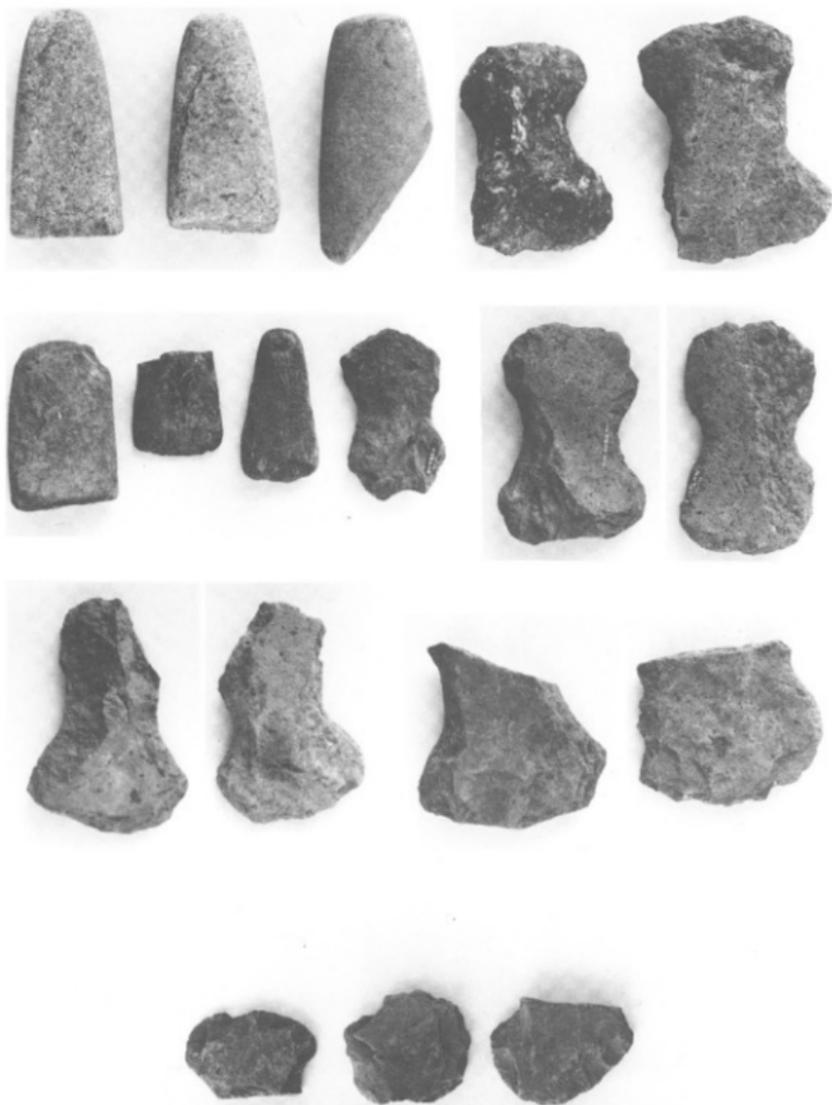


出土遺物 4—石器·剝片

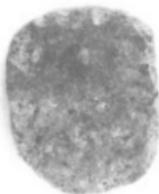
図版32



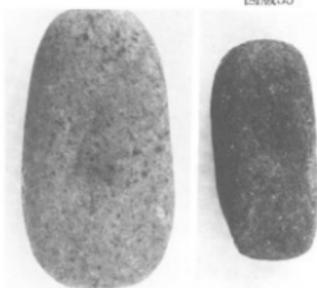
出土遺物5—石 鐵



出土遺物6—磨製石斧・打製石斧



出土遺物7一礮器・叩き石

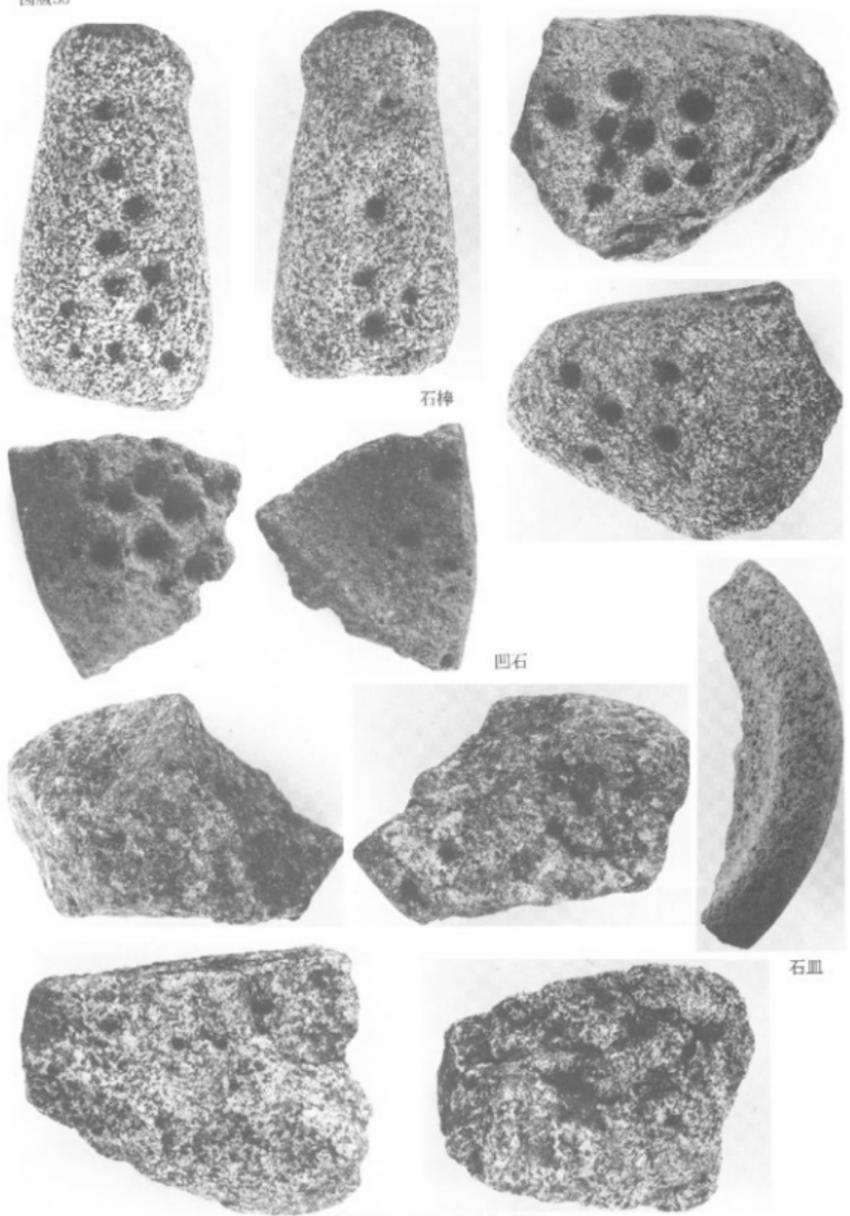


大珠



骨角器

出土遺物 8—石器・骨角器



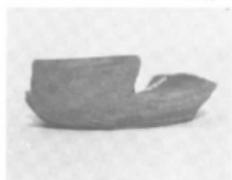
出上遺物9—石棒・凹石・石皿



灯明皿



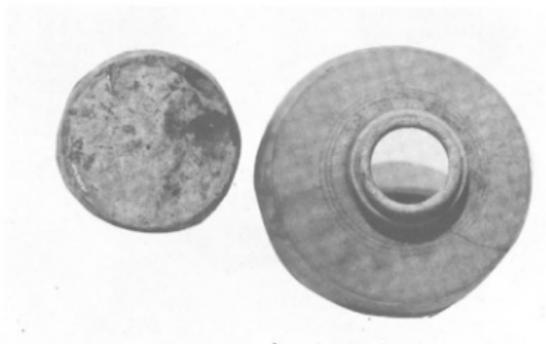
弥生土器



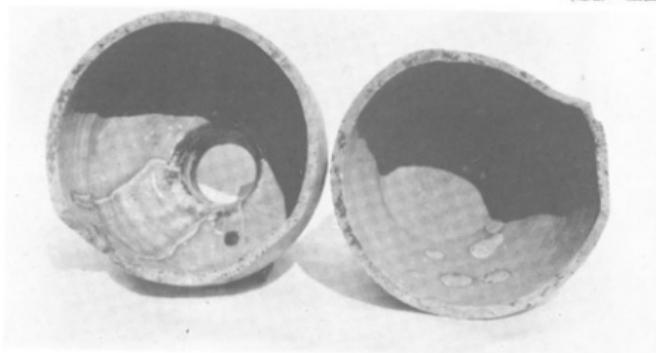
杯形土器



出土遺物10—弥生土器・灯明皿・杯形土器



(底部・上面)



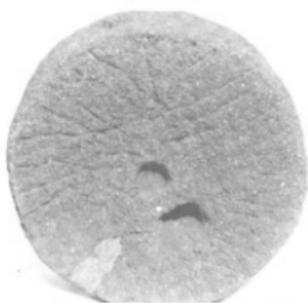
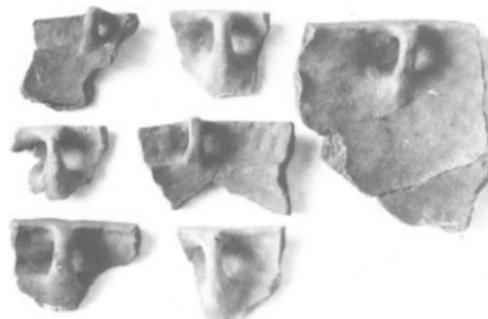
(内面)

出土遺物11—瓶子



内耳土器

砥石



出土遺物12—内耳土器・硯・砥石・石臼

石臼

茨城県明野町埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

倉持遺跡—第2年次調査—

昭和59年3月31日発行

編集 明野町教育委員会

発行 明野町長 加倉井 正 利
茨城県真壁郡明野町大字海老ヶ島1,300番地

印刷 石崎印刷株式会社
茨城県西茨城郡岩瀬町岩瀬174
